

新年の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4691	明治36年	新年の部	宝引に勝ちて蜜柑をふるまへり	宝引	人事
4692	明治36年	新年の部	孫共の作文帖も祝ひけり	年賀	人事
4693	明治36年	新年の部	ひき初の琵琶の古びも平家哉	弾初	人事
4694	明治36年	新年の部	歌仙より俳人に似てさるまはし	猿廻し	人事
4695	明治36年	新年の部	猿引の子や賢にして容よし	猿廻し	人事
4696	明治36年	新年の部	猿引の猿に薬を飲ませけり	猿廻し	人事
4697	明治36年	新年の部	猿引に興がる韓の公子哉	猿廻し	人事
4698	明治36年	新年の部	歌かるた老將軍のきげん哉	歌留多	人事
4699	明治36年	新年の部	歌かるたも取らで眠りぬ里かへり	歌留多	人事
4700	明治36年	新年の部	歌かるた書斎の二人妬ましき	歌留多	人事
4701	明治36年	新年の部	理不尽に取られて泣きぬ歌かるた	歌留多	人事
4702	明治36年	新年の部	嫁が君美人眠りよりさめぬ	嫁が君	動物
4703	明治36年	新年の部	てうち / \ あはゝも三ヶ日	三が日	時候
4704	明治36年	新年の部	小松引僧正遍照後れけり	小松引	人事
4705	明治36年	新年の部	大江戸の一夜の雪に出初哉	出初	人事
4706	明治36年	新年の部	鶴の首長しと笑ふ初湯かな	初風呂	人事
4707	明治36年	新年の部	藏開藏の中なる謡かな	藏開	人事
4708	明治36年	新年の部	一族の百人あまり睦月哉	睦月	時候
4709	明治36年	新年の部	名所の松めで居れば傀儡師	傀儡師	人事
4710	明治36年	新年の部	番頭の足袋の驕や松の内	松の内	時候
4711	明治36年	新年の部	初東風に吹かるゝ兒の白さかな	初東風	天文
4712	明治36年	新年の部	山草を神世の艸と覚えけり	齒朶	植物
4713	明治36年	新年の部	水祝馬鹿聳赫と怒りけり	水祝	人事
4714	明治36年	新年の部	藪入のべにうるはしとたゝへけり	藪入	人事
4715	明治36年	新年の部	よき日和一月場所の男ぶり	初場所	人事
4716	明治36年	新年の部	福寿草咲くも待たるゝ老の春	初春	時候
4717	明治36年	新年の部	綱引や若き女の一たまり	綱引	人事
5224	明治37年	新年の部	御詠皆大雅の音や小松引	小松引	人事
5225	明治37年	新年の部	初出式南奉行の威勢かな	出初	人事
5226	明治37年	新年の部	松の内面白き手紙来ることよ	松の内	時候
5227	明治37年	新年の部	常陸帯浄きは神の心かな	常陸帯	人事
5228	明治37年	新年の部	小松引一時の詞人朝にみつ	小松引	人事
5598	明治38年	新年の部	齒朶青し雪中に立つ宮柱	齒朶	植物
5599	明治38年	新年の部	御降や衛士に馴れくる翁丸	御降	天文
5600	明治38年	新年の部	萬歳に塾生どっと笑ひけり	萬歳	人事
5601	明治38年	新年の部	帳綴り女もすなる日記かな	帳綴	人事
5602	明治38年	新年の部	舞始の其舞衣や昔ぶり	舞初	人事
5603	明治38年	新年の部	蓬萊に母子二人の家内かな	蓬萊	人事
5942	明治39年	新年の部	川上の國栖が小家や初かすみ	初霞	天文
5943	明治39年	新年の部	臼伏せの宵や楳積む山の如し	臼伏せ	人事
5944	明治39年	新年の部	臼ふせて去る大家の庭寒し	臼伏せ	人事
5945	明治39年	新年の部	ぬさかけて東風に面をさらしけり	初東風	天文
5946	明治39年	新年の部	幣かけて朝日を浴びる尊さよ	初日	天文
5947	明治39年	新年の部	若木折て枯葉を棄つる雪の上	年木	人事
5948	明治39年	新年の部	若木焚く山家の飯の白さかな	年木	人事
5949	明治39年	新年の部	喜び見る若木の枝の燃ゆる事を	年木	人事
5950	明治39年	新年の部	暖に雪踏む柳迎へかな	柳迎え	人事
5951	明治39年	新年の部	よき柳迎へてうれし雪滑	柳迎え	人事

新年の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5952	明治39年	新年の部	渋柿をまじなへばナルと申しけり	成木責め	人事
5953	明治39年	新年の部	生身剥二人逢ひけり枯木立	なまはげ(生身剥)	人事
5954	明治39年	新年の部	わが影の雪に映れり生身剥	なまはげ(生身剥)	人事
5955	明治39年	新年の部	鳥追の角東天に響きけり	鳥追い	人事
5956	明治39年	新年の部	ひとり出て門田の鳥を追ひにけり	鳥追い	人事
5957	明治39年	新年の部	老の春去年の挿木に培ひぬ	初春	時候
6401	明治40年	新年の部	餅花の下に木魚を叩きけり	餅花	人事
6402	明治40年	新年の部	御降や汐の八百重の汐けふり	御降	天文
6403	明治40年	新年の部	御降や賤が山田の古案山子	御降	天文
6404	明治40年	新年の部	御降やかか南山に誰が住める	御降	天文
6405	明治40年	新年の部	御降や福藁の尾のしだり尾の	御降	天文
6406	明治40年	新年の部	御降や皆栖に在らん鳥獸	御降	天文
6407	明治40年	新年の部	初刷の雪の小家に到りけり	初刷	人事
6408	明治40年	新年の部	孫子共ふくよかに見る初湯哉	初風呂	人事
6409	明治40年	新年の部	人につらく双六の運つよき哉	双六	人事
6410	明治40年	新年の部	郭外を一周す騎馬初かな	騎馬初	人事
6411	明治40年	新年の部	歌人の歌に糞しぬ嫁が君	嫁が君	動物
6412	明治40年	新年の部	掃きそむる反古は十有七字哉	掃初	人事
6413	明治40年	新年の部	飾臼あたりを拂ふ大ききよ	飾臼	人事
6414	明治40年	新年の部	年玉のかず / \ に灯や枕元	年玉	人事
6415	明治40年	新年の部	猿引の狂歌もすなる紙筆哉	猿廻し	人事
6416	明治40年	新年の部	萬才が飯喰ふ宿や梅の花	萬歳	人事
6417	明治40年	新年の部	帳綴に昔大家の名残かな	帳綴	人事
6418	明治40年	新年の部	まゆ玉の玉の如孫ら子ら居たり	繭玉	人事
6742	明治41年	新年の部	鋤鋤に其處あり雑煮くふ	雑煮	人事
6743	明治41年	新年の部	雑煮くふ頃鶏鳴狗吠かな	雑煮	人事
6744	明治41年	新年の部	雑煮すや御題の松を裏の山	雑煮	人事
6745	明治41年	新年の部	己がもの己がついたる雑煮かな	雑煮	人事
6746	明治41年	新年の部	雑煮くうてしばし端居や草の宿	雑煮	人事
6747	明治41年	新年の部	雑煮してすゞ菜があまる里居哉	雑煮	人事
6748	明治41年	新年の部	長幼の序日上る雑煮かな	雑煮	人事
6749	明治41年	新年の部	雑煮くうてしまへば正に晴るゝ雪	雑煮	人事
6750	明治41年	新年の部	旅なれば雑煮の事も竹枝かな	雑煮	人事
6751	明治41年	新年の部	雑煮くふ静かさもあり歌舞の町	雑煮	人事
6752	明治41年	新年の部	書始は女まじらぬ一間かな	書初	人事
6753	明治41年	新年の部	井開や凍しが上に汲こぼす	若水	人事
6754	明治41年	新年の部	とりしばる綾の袂や吉書始	書初	人事
6755	明治41年	新年の部	若水やその源の神路山	若水	人事
6756	明治41年	新年の部	此家にかゞやくや屠蘇の小杯	屠蘇	人事
6757	明治41年	新年の部	綱引や双峯の神みそなはず	綱引	人事
7028	明治42年	新年の部	初鶏や金に戻りし金の精	初鶏	動物
7029	明治42年	新年の部	元日に恰も届く生海峯哉	元日	時候
7031	明治42年	新年の部	この翁かくてあるぞや嫁が君	嫁が君	動物
7032	明治42年	新年の部	飛車と飛び角行と行く騎初哉	騎馬初	人事
7033	明治42年	新年の部	類句ありと互に擲擲す松の内	松の内	時候
7034	明治42年	新年の部	押鮎の腹平らかに居たりけり	押鮎	人事
7201	明治43年	新年の部	一家風試筆則ち富士の山	書初	人事
7305	明治44年	新年の部	瑞兆に松の雪見る雑煮哉	雑煮	人事

明治36年～明治45年

新年の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7408	明治45年	新年の部	若水の源知れや神の國	若水	人事
7409	明治45年	新年の部	太箸もその庭訓の威儀にこそ	太箸	人事
7410	明治45年	新年の部	千金の子と祝ぐ声す双六に	双六	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4719	明治36年	春の部	鶴も帰り梅もちりけり丘夕	梅	植物
4720	明治36年	春の部	暗きより出でし貴人や薪能	薪能	人事
4721	明治36年	春の部	冴え返る神の井の水湧き足らず	冴返	時候
4722	明治36年	春の部	氷とけて鴛鴦の毛も流れけり	氷解	地理
4723	明治36年	春の部	木の芽苦き鶯の舌や別霜	別れ霜	天文
4724	明治36年	春の部	春浅し等閑に見る蛙の句	春浅し	時候
4725	明治36年	春の部	野を焼くや貴人たま / \ 過ぎにけり	野山焼	人事
4726	明治36年	春の部	春風の吹静まりやうす曇	春風	天文
4727	明治36年	春の部	初午や一樹うれしき野路の梅	初午	人事
4728	明治36年	春の部	鳴くや田螺夜来八萬四千の偈	田螺	動物
4730	明治36年	春の部	初雷や命婦訪ふ草の宿	初雷	天文
4731	明治36年	春の部	初雷や高麗人光る君を相る	初雷	天文
4732	明治36年	春の部	折からの初雷や品さだめ	初雷	天文
4733	明治36年	春の部	初雷に尼君ひとり淋しけれ	初雷	天文
4734	明治36年	春の部	初雷を紫の上寐入りけり	初雷	天文
4735	明治36年	春の部	初雷に物のけ落す修法かな	初雷	天文
4736	明治36年	春の部	初雷や小君かしこきかへり言	初雷	天文
4737	明治36年	春の部	初雷や衣にかくるゝ人ぞうき	初雷	天文
4738	明治36年	春の部	初雷や未摘花もあはれなり	初雷	天文
4739	明治36年	春の部	初雷や松も淋しき須磨の宿	初雷	天文
4740	明治36年	春の部	陽炎の乱れて孔雀飛ばんとす	陽炎	天文
4741	明治36年	春の部	日蝕や水草の芽のうす緑	草の芽	植物
4742	明治36年	春の部	菊根分こゝにひとりの翁あり	菊根分	人事
4743	明治36年	春の部	門前に子等集ひけり西行忌	西行忌	人事
4744	明治36年	春の部	梅月夜水神を見るかしこさよ	梅	植物
4745	明治36年	春の部	童子二三人春服既に成る	春服	人事
4746	明治36年	春の部	日蝕や野に囀の声もなし	囀	動物
4747	明治36年	春の部	試に童子酔ひたり桃の酒	桃の酒	人事
4748	明治36年	春の部	酒壺や多少の桃花鮮かに	桃	植物
4749	明治36年	春の部	桃の酒顔色いよゝ美なる哉	桃の酒	人事
4750	明治36年	春の部	桃の酒小狙も酔ひて睡りけり	桃の酒	人事
4751	明治36年	春の部	桃の酒楊貴妃に戯れ給ふ	桃の酒	人事
4752	明治36年	春の部	春の月還御の頃を傾きぬ	春の月	天文
4753	明治36年	春の部	春の月花にそむける人や誰	春の月	天文
4754	明治36年	春の部	春の月加茂の社家人ほのめきて	春の月	天文
4755	明治36年	春の部	春の月枯れて久しき柳かな	春の月	天文
4756	明治36年	春の部	清水の舞臺や春の月に歩す	春の月	天文
4758	明治36年	春の部	ゆく春の雲見れば雲流れけり	行春	時候
4759	明治36年	春の部	春立や紫の衣市の人	立春	時候
4760	明治36年	春の部	若草の妻とこもりて雉子きく	雉子	動物
4761	明治36年	春の部	飯喰に戻るもうしや猫の恋	猫の戀	動物
4762	明治36年	春の部	春の雪つらなるともし春めきぬ	春雪	天文
4763	明治36年	春の部	折からの春の雷うれしけれ	春雷	天文
4764	明治36年	春の部	梅の花日の本國神の國	梅	植物
4765	明治36年	春の部	春さむし母の病に花もなし	春寒	時候
4766	明治36年	春の部	初雷やかるとの友と夜を語る	初雷	天文
4767	明治36年	春の部	白魚をめぐはし妹におくりけり	白魚	動物
4768	明治36年	春の部	鶯にのますべき水もぬるみけり	鶯	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4769	明治36年	春の部	牢を出れば木芽の春となりけり	木の芽	植物
4770	明治36年	春の部	雪なだれさくべきさくら折れにけり	雪崩	地理
4771	明治36年	春の部	清貧と称す厨や鮎膾	鮎膾	人事
4772	明治36年	春の部	よき海苔の十帖ばかり土産哉	海苔	植物
4773	明治36年	春の部	妻よびに猫出る頃や露のとう	露の臺	植物
4774	明治36年	春の部	まや參馬に驚く女づれ	摩耶詣	人事
4775	明治36年	春の部	日の春や刀をつゝむ古錦らん	春日	時候
4776	明治36年	春の部	翻々とうるはしき子やつくしつみ	土筆	植物
4777	明治36年	春の部	土筆つみ茨の下をかいくどり	土筆	植物
4778	明治36年	春の部	しばらくは土筆もつまで遊びけり	土筆	植物
4779	明治36年	春の部	土筆つむ兼好法師も春の人	土筆	植物
4780	明治36年	春の部	つくしつみし今宵の夢や乳母が宿	土筆	植物
4781	明治36年	春の部	飯蛸の飯も料理やうど若し	飯だこ	動物
4782	明治36年	春の部	おもんみれば釈迦終焉記迦葉筆	涅槃會	人事
4783	明治36年	春の部	塗物を玉かと春の光かな	春の光	天文
4784	明治36年	春の部	雁風呂に胡女が唄を憐みぬ	雁風呂	人事
4785	明治36年	春の部	藁も乏しきばらの苔かな	藁	植物
4786	明治36年	春の部	二日灸三里は花の定坐かな	二日灸	人事
4787	明治36年	春の部	鳴神の氣もすが／＼と接木哉	接木	人事
4788	明治36年	春の部	歌書俳書その棚々や炉をふさぐ	爐塞	人事
4789	明治36年	春の部	熊野を謠ふ楼上の灯や帰雁	帰る雁	動物
4790	明治36年	春の部	釈典や彼の丘隅の黄なる鳥	釋奠	人事
4791	明治36年	春の部	たぬしきゝつかもとよみけり春の歌	春	時候
4792	明治36年	春の部	苗代の多少の水や春深淺	苗代	地理
4793	明治36年	春の部	竹の秋山莊に定家雨をきく	竹の秋	植物
4794	明治36年	春の部	草餅に脇句うれしく吟じけり	草餅	人事
4795	明治36年	春の部	春の海須磨は悲しき処かな	春の海	地理
4796	明治36年	春の部	負けるなと其角が声や鶏合	鶏合	人事
4797	明治36年	春の部	春眠不覚曉と答へけり	春眠	人事
4798	明治36年	春の部	其角忌や疊の上の松の影	其角忌	人事
4799	明治36年	春の部	苗代の畔や菜種のこぼれ咲	菜の花	植物
4800	明治36年	春の部	羽衣を望む蛙の目つき哉	蛙	動物
4801	明治36年	春の部	蜜蜂の蜜に酔ひたる宵寐哉	蜂	動物
4802	明治36年	春の部	去る蝶の女心や来る蜂	蜂	動物
4803	明治36年	春の部	扇軽く花に小蜂を拂ひけり	蜂	動物
4804	明治36年	春の部	蜂の子の薊の花に遊びけり	薊の花	植物
4805	明治36年	春の部	蜂一ツ侯伯を脅かし去る	蜂	動物
4806	明治36年	春の部	木の実うゑて寺に碁を見る樵者哉	木實植う	人事
4807	明治36年	春の部	園林の遅日木実もうゑにけり	木實植う	人事
4808	明治36年	春の部	木の実うゑる山の流もぬるみけり	木實植う	人事
4809	明治36年	春の部	木実うゑて猿を愛する閑もあり	木實植う	人事
4810	明治36年	春の部	木実うゑてしばらく松に雨やどり	木實植う	人事
4811	明治36年	春の部	薬にもすとて木実のうゑあまり	木實植う	人事
4812	明治36年	春の部	林間に遍き日向木実うゑ	木實植う	人事
4813	明治36年	春の部	木実うゑて家に居れば鳥雲に	木實植う	人事
4814	明治36年	春の部	木実うゑる頭の上や春の雲	木實植う	人事
4815	明治36年	春の部	去年買ひし裏の禿山木実うゑ	木實植う	人事
4816	明治36年	春の部	木実うゑて立去る丘や百千鳥	木實植う	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4817	明治36年	春の部	柳鮠釣る人もなし都鳥	柳鮠	動物
4818	明治36年	春の部	柳鮠網にかゞやく春日哉	柳鮠	動物
4819	明治36年	春の部	をし去るや波暖き柳鮠	柳鮠	動物
4820	明治36年	春の部	古芝にひた釣上げぬ柳はえ	柳鮠	動物
4821	明治36年	春の部	柳はえかくるゝ程に水草生ふ	柳鮠	動物
4822	明治36年	春の部	草の芽の赤きも見えて柳はえ	柳鮠	動物
4823	明治36年	春の部	柳はえ柳の絮の乱れかな	柳鮠	動物
4824	明治36年	春の部	柳はえ春水石をめぐる処	柳鮠	動物
4825	明治36年	春の部	柳はえ石垣存す膳所の城	柳鮠	動物
4826	明治36年	春の部	絲遊に驚きもするか柳はえ	柳鮠	動物
4827	明治36年	春の部	崖畑の花菜はすきて柳はえ	柳鮠	動物
4828	明治36年	春の部	春の夜毎薬湯に来る姉妹	春夜	時候
4829	明治36年	春の部	春の夜を皆酔臥しぬ天狗ども	春夜	時候
4830	明治36年	春の部	春の夜の厨は鱒に灯あきらか	春夜	時候
4831	明治36年	春の部	名香に酔ひて春の夜睡られず	春夜	時候
4832	明治36年	春の部	手枕に五衰の夢や夜半の春	春夜	時候
4833	明治36年	春の部	春の夜の物妬ましく明けにけり	春夜	時候
4834	明治36年	春の部	春の夜の情に堪へたり沈丁花	春夜	時候
4835	明治36年	春の部	羽衣をかへして宵の春さびし	春宵	時候
4836	明治36年	春の部	歌の主を春夜もすがら戀ひにけり	春夜	時候
4837	明治36年	春の部	舞衣に春の夜露を厭ひけり	春夜	時候
4838	明治36年	春の部	陽炎に臥猪の床を見たりけり	陽炎	天文
4839	明治36年	春の部	陽炎や其せんだんの二夕葉より	陽炎	天文
4840	明治36年	春の部	陽炎や山路ゆきゆく踏迷ひ	陽炎	天文
4841	明治36年	春の部	陽炎をかきみたしたる落花哉	陽炎	天文
4842	明治36年	春の部	陽炎や花流れ去り流れ来る	陽炎	天文
4843	明治36年	春の部	陽炎を拂って柳しだれけり	陽炎	天文
4844	明治36年	春の部	陽炎や茨の芽赤き藪の中	陽炎	天文
4845	明治36年	春の部	陽炎に五々のたんぼゝ黄なる哉	陽炎	天文
4846	明治36年	春の部	陽炎や断橋の影水にあり	陽炎	天文
4847	明治36年	春の部	芹の香に鶴の別を惜みけり	芹	植物
4848	明治36年	春の部	芹取て小松にはぢく乗かな	芹	植物
4849	明治36年	春の部	下立ちて雪間の芹に小手寒し	芹	植物
4850	明治36年	春の部	初東風や朝戸にすつる芹の屑	芹	植物
4851	明治36年	春の部	芹取やえりに柳のまだ寒し	芹	植物
4852	明治36年	春の部	芹取るや短き芹は流れけり	芹	植物
4853	明治36年	春の部	芹つむで旦の丘に上りけり	芹	植物
4854	明治36年	春の部	芹採る子或は薄氷を涉りけり	芹	植物
4855	明治36年	春の部	根芹洗ふ更によき水湧くところ	芹	植物
4856	明治36年	春の部	春の雪きのふや採りし芹田哉	芹	植物
4857	明治36年	春の部	はづらひや芹田にぬれし帯の端	芹	植物
10593	明治36年	春の部	交る鳥いづれか歌をよまざりれり	交る鳥	動物
5230	明治37年	春の部	棧に陽炎もゆる雪消かな	陽炎	天文
5231	明治37年	春の部	ぬるむ水芹徒らに伸びまさり	水温む	地理
5232	明治37年	春の部	初雷に雁鳴き立つる水田哉	初雷	天文
5233	明治37年	春の部	錦織る女はらから寒食す	寒食	人事
5234	明治37年	春の部	笑ふ山麓の村の日の御旗	山笑う	地理
5235	明治37年	春の部	還暦の祝もすめり二ノ替	二の替	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5236	明治37年	春の部	山遊びわれに随ふ春の雲	春の雲	天文
5237	明治37年	春の部	其角忌を火燵の名残老破笠	其角忌	人事
5238	明治37年	春の部	其角忌の白髪かこちぬ秋色女	其角忌	人事
5239	明治37年	春の部	其角忌や美女花の如く半時庵	其角忌	人事
5240	明治37年	春の部	古酒ねだる佛しのべ梅の花	梅	植物
5241	明治37年	春の部	其角忌や柳をつかむ女の子	其角忌	人事
5243	明治37年	春の部	臙なり昔馬上の琵琶の主	臙	天文
5244	明治37年	春の部	詩に狂ふ僧や漫りに春を怨む	春	時候
5245	明治37年	春の部	彼岸すぎて本堂さむし造花	彼岸	人事
5246	明治37年	春の部	若芝や水に掃き出す芝の屑	若芝	植物
5247	明治37年	春の部	女若く芍薬の芽の如くなり	芍薬の芽	植物
5248	明治37年	春の部	日の光さし木の蔽もれにけり	挿木	人事
5249	明治37年	春の部	武夫の見るものにして鶏合	鶏合	人事
5250	明治37年	春の部	裏の田に田螺を見得て遊びけり	田螺	動物
5251	明治37年	春の部	國の乱れ山徒らに焼けにけり	野山焼	人事
5252	明治37年	春の部	山焼いて怪まれけり旅の僧	野山焼	人事
5253	明治37年	春の部	林間に山やきし子等遊びけり	野山焼	人事
5254	明治37年	春の部	片栗の花盛りなり焼かぬ山	片栗の花	植物
5255	明治37年	春の部	宵に見る山火や旅の語草	野山焼	人事
5256	明治37年	春の部	轉や藪をめぐらす水たまり	轉	動物
5257	明治37年	春の部	炉塞きて夕飯心細かりし	爐塞	人事
5258	明治37年	春の部	鮒鱠少年行を歌ひけり	鮒鱠	人事
5260	明治37年	春の部	梨の花ハ手車空しく過きにけり	梨の花	植物
5262	明治37年	春の部	幼稚園風の日の柳桜かな	雑	雑
5263	明治37年	春の部	春の日の玉を溶かして温泉哉	春日	時候
5264	明治37年	春の部	春の村温泉の湧く所見であるく	春	時候
5265	明治37年	春の部	春の雲湯の湧く山を流れけり	春の雲	天文
5266	明治37年	春の部	湯治人河原をあるく柳かな	柳	植物
5267	明治37年	春の部	鳥雲に入て靈泉湧き止まず	鳥入雲	動物
5269	明治37年	春の部	竹落葉落楝舎の狸追はれけり	竹落葉	植物
5270	明治37年	春の部	古塚のほとり水澄む竹落葉	竹落葉	植物
5271	明治37年	春の部	花を見て夕に帰る竹落葉	竹落葉	植物
5272	明治37年	春の部	竹落葉把栗帰らぬ寺淋し	竹落葉	植物
5273	明治37年	春の部	若鮎の値を問ふや竹落葉	竹落葉	植物
5274	明治37年	春の部	針供養浪々の夫を恨みけり	針供養	人事
5275	明治37年	春の部	御忌の雨寺の白梅乱れ落つ	御忌	人事
5276	明治37年	春の部	冴返る夜店萬年青に人少な	冴返	時候
5277	明治37年	春の部	入來の敵に警む冴返り	冴返	時候
5278	明治37年	春の部	踏青の人驚ける狼煙哉	踏青	人事
5279	明治37年	春の部	人山に入りて帰らぬ日永哉	日永	時候
5280	明治37年	春の部	千羊皮客に頌てり桃の花	桃	植物
5281	明治37年	春の部	二ノ替鄙の知人連立ちぬ	二の替	人事
5282	明治37年	春の部	貧にして人に疎きころ梅の花	梅	植物
5283	明治37年	春の部	陋巷の梅顔セを照しけり	梅	植物
5284	明治37年	春の部	鴨の背に雪消の水の光哉	雪解	地理
5285	明治37年	春の部	白梅ややれつくしたる一狐裘	梅	植物
5286	明治37年	春の部	古文辞に人を老いしむ梅の花	梅	植物
5287	明治37年	春の部	二ノ替麦ふむ人をさそひけり	二の替	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5288	明治37年	春の部	二ノ替なほ輝の浪花人	二の替	人事
5289	明治37年	春の部	二ノ替蕨入もせで日立ちけり	二の替	人事
5290	明治37年	春の部	雪なだれ崖の小家に人住めり	雪崩	地理
5291	明治37年	春の部	雪に積む材木崩る雪消哉	雪解	地理
5292	明治37年	春の部	風引いて粥のあはしや梅の花	梅	植物
5293	明治37年	春の部	人毎に梅さげ返る熟舎哉	梅	植物
5294	明治37年	春の部	野路の梅耕すは我が徒よ	梅	植物
5295	明治37年	春の部	白梅や住みもすてざる草の宿	梅	植物
5296	明治37年	春の部	折枝ふむ松の山路の雪消哉	雪解	地理
5297	明治37年	春の部	下蒨の皆庭鳥にはまれけり	草蒨	植物
5298	明治37年	春の部	陽炎の湯の村行けば湯の香哉	陽炎	天文
5299	明治37年	春の部	湯の里に通ふ小橋や春の人	春	時候
5300	明治37年	春の部	徒らに湯のわく処つばめ哉	燕	動物
5301	明治37年	春の部	陽炎や何萬人が呼ばふ声	陽炎	天文
5302	明治37年	春の部	湯にこもる女さそひつ春の山	春の山	地理
5303	明治37年	春の部	湯の村の見る物柳緑也	柳	植物
5304	明治37年	春の部	かしこみて見上ぐれば鳥雲に入る	鳥入雲	動物
5305	明治37年	春の部	花に酔ふてかゞやく顔や水鏡	花	植物
5306	明治37年	春の部	若芝を歩み去りたる女かな	若芝	植物
5307	明治37年	春の部	花ふゞき音楽近く起りけり	花	植物
5308	明治37年	春の部	ふらこゝや祭にゆかぬ兒一人	鞦韆	人事
5309	明治37年	春の部	目さしやく隣ありけり宵の春	目刺	人事
5310	明治37年	春の部	目刺干す日頃桜蚊生れけり	目刺	人事
5311	明治37年	春の部	目刺干す磯村花もなかりけり	目刺	人事
5312	明治37年	春の部	目刺焼く宿の畑や春の雨	目刺	人事
5313	明治37年	春の部	家に居て目さし作りぬ濱日和	目刺	人事
5314	明治37年	春の部	のり干してめざしもつくる女多く	目刺	人事
5315	明治37年	春の部	花に來る蜂しば / \ や目さしほす	目刺	人事
5316	明治37年	春の部	炭焼の眺め桜の古木哉	櫻	植物
5317	明治37年	春の部	帰省して産土神詣で遅桜	櫻	植物
5318	明治37年	春の部	夜桜や木蔭より出る兒一人	櫻	植物
5319	明治37年	春の部	桜狩法主は若くおはしけり	花見	人事
5320	明治37年	春の部	小高みに花を隔つや吉水院	花	植物
5321	明治37年	春の部	住みすてず籬落浅きに桜哉	櫻	植物
5322	明治37年	春の部	満開の桜にあけし朝戸哉	櫻	植物
5323	明治37年	春の部	暖き日中野埃立つ見えて	暖	時候
5324	明治37年	春の部	雨の音暖き宵の雨の中	暖	時候
5325	明治37年	春の部	野遊の赤毛布敷く暖き	野遊	人事
5326	明治37年	春の部	背にぬき日ざし蕙帆つゞりけり	暖	時候
5327	明治37年	春の部	潤や社日の雨のあたゝかな	社日	時候
5328	明治37年	春の部	みづ / \ し玉籬に添ふ花の色	花	植物
5605	明治38年	春の部	きさらぎの花に逢ひたる命かな	如月	時候
5606	明治38年	春の部	春浅き宿や紀ノ女の歌反古	春浅し	時候
5607	明治38年	春の部	涅槃會に活潑々の羅漢かな	涅槃會	人事
5608	明治38年	春の部	雉子打って立つや海山夕ぐもり	雉子	動物
5609	明治38年	春の部	雪國の雪に壓されて木の芽哉	木の芽	植物
5610	明治38年	春の部	野火燃えて金澤の柵はなかりけり	野山焼	人事
5611	明治38年	春の部	偷見る妹が草紙や宵の春	春宵	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5612	明治38年	春の部	花に雨家々の秋千ぬれにけり	鞦韆	人事
5613	明治38年	春の部	春古き嵯峨の野川や水ぬるむ	水温む	地理
5614	明治38年	春の部	氷融けて柳の渡し猶寒し	氷解	地理
5615	明治38年	春の部	此頃の夜は朧なり歌かるた	朧	天文
5616	明治38年	春の部	槽古し雪解の頃の山の宿	雪解	地理
5617	明治38年	春の部	澤畔や雪解の頃の春を佐ぶ	雪解	地理
5618	明治38年	春の部	片栗の花日に匂ふ雪解かな	雪解	地理
5619	明治38年	春の部	乱山の先を争ふ雪解かな	雪解	地理
5620	明治38年	春の部	鵠の昨日や去りし雪解かな	雪解	地理
5621	明治38年	春の部	鱒に網川波ゆらぐ春日かな	鱒	動物
5622	明治38年	春の部	猫の子ら愁人の裳をかまくす	猫の子	動物
5623	明治38年	春の部	摘みこぼす草や種井に満つる水	種井	人事
5624	明治38年	春の部	鶯を深く蔵しぬ竹の秋	竹の秋	植物
5625	明治38年	春の部	春惜む文細々と書かれけり	春惜む	時候
5626	明治38年	春の部	曲水に妹のからうた妬しき	曲水	人事
5627	明治38年	春の部	耕して落花の水を澆きけり	耕	人事
5628	明治38年	春の部	樂や老いて耕す帝の田	耕	人事
5629	明治38年	春の部	耕すや鄙人は知らず箕子の國	耕	人事
5630	明治38年	春の部	花に簞耕すわざをまねびけり	耕	人事
5631	明治38年	春の部	梅の花よき墨つくる家なりけり	梅	植物
5632	明治38年	春の部	水上は五十鈴の春や苗代田	苗代	地理
5633	明治38年	春の部	苗代の春にほとりす小百姓	苗代	地理
5634	明治38年	春の部	苗代や鄙人舁きゆく古神輿	苗代	地理
5635	明治38年	春の部	苗代の参差と山べ春めきぬ	苗代	地理
5636	明治38年	春の部	苗代に徑よりすや宵あるき	苗代	地理
5637	明治38年	春の部	初雷に天津祝詞のかしこさよ	初雷	天文
5638	明治38年	春の部	残雪や古松が根の日の光	残雪	地理
5639	明治38年	春の部	残雪や斧も入れざる松林	残雪	地理
5640	明治38年	春の部	残雪や小松がうれの日の光	残雪	地理
5641	明治38年	春の部	炉塞や草の芽くるゝ隣の子	爐塞	人事
5642	明治38年	春の部	山笑ふ旅路の果となりけり	山笑う	地理
5643	明治38年	春の部	釈奠の人遊ぶ松の緑かな	釋奠	人事
5644	明治38年	春の部	古道人行くこと少れに百千鳥	百千鳥	動物
5645	明治38年	春の部	小弓引艶なる人を妬みけり	小弓引	人事
5646	明治38年	春の部	梅の花白きにたへず鶴帰る	梅	植物
5647	明治38年	春の部	繪踏して去る結髪の壮士哉	繪踏	人事
5648	明治38年	春の部	一人子を掌裡の珠や雛まつり	雛祭	人事
5649	明治38年	春の部	耕や夜は玩ぶ古雛	雛祭	人事
5650	明治38年	春の部	ふらここの影に惑へる子猫哉	猫の子	動物
5651	明治38年	春の部	紫の朱のと鳥のつるみけり	鳥交る	動物
5652	明治38年	春の部	詩を焚くや春雁雲に入る夕	春雁	動物
5653	明治38年	春の部	虎杖や大澤の鳥雲に入る	鳥入雲	動物
5654	明治38年	春の部	鳥雲に入て枯木蘂あり	鳥入雲	動物
5959	明治39年	春の部	こさ吹くや返照雲の山に満つ	霾	天文
5960	明治39年	春の部	黄梅の家を記得す故園哉	黄梅	植物
5961	明治39年	春の部	こさ鳴って東風ふきぬけり枯木立	霾	天文
5962	明治39年	春の部	こさふけば寒霞日暮を靡きけり	霾	天文
5964	明治39年	春の部	氷に上る魚に驚く聖かな	魚氷に上る	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5965	明治39年	春の部	氷に上る魚や瀬の神淵の神	魚氷に上る	時候
5966	明治39年	春の部	羞らくは氷に上る魚の糞を見る	魚氷に上る	時候
5967	明治39年	春の部	國風は氷に上る魚の樂か	魚氷に上る	時候
5968	明治39年	春の部	遊人や魚氷に上る金閣寺	魚氷に上る	時候
5969	明治39年	春の部	春寒の凝りてや露の臺青し	露の臺	植物
5970	明治39年	春の部	滝水に眉目痛しや冴返り	冴返	時候
5971	明治39年	春の部	夜奔る卓文君や猫の戀	猫の戀	動物
5972	明治39年	春の部	耳底にひゞく獅子吼や涅槃像	涅槃會	人事
5973	明治39年	春の部	玉くしけ開かんと欲す春の宵	春宵	時候
5974	明治39年	春の部	王城を南に去るや一ノ午	初午	人事
5975	明治39年	春の部	經卷と藥炉と彼岸七日哉	彼岸	人事
5976	明治39年	春の部	おぼろかに夜はなりゆくや春の雪	春雪	天文
5977	明治39年	春の部	荒牧や片へはつもる春の雪	春雪	天文
5978	明治39年	春の部	蟄虫は目さめてみるか春の雪	春雪	天文
5979	明治39年	春の部	若芝や撞鐘を距る十歩程	若芝	植物
5980	明治39年	春の部	若芝の侵さんとする接木かな	若芝	植物
5981	明治39年	春の部	若芝にホテルを出る日今哉	若芝	植物
5982	明治39年	春の部	若芝に門開きけり植物園	若芝	植物
5983	明治39年	春の部	芝萌ゆるぢゞが魚釣処かな	若芝	植物
5984	明治39年	春の部	督郵のこの山越えし雪解かな	雪解	地理
5985	明治39年	春の部	草餅に妻が知らざる苦吟かな	草餅	人事
5986	明治39年	春の部	春の霜花屋が曉の灯かな	春霜	天文
5987	明治39年	春の部	雉子鳴くや草をなびかす李將軍	雉子	動物
5988	明治39年	春の部	柳伐て今年燕を淋しうす	燕	動物
5989	明治39年	春の部	長閑さの人に讀ましむ鐘の銘	長閑	時候
5990	明治39年	春の部	つくば過ぎて幾夜か寐つる啼雲雀	雲雀	動物
5992	明治39年	春の部	皆化して蜂と飛去る百千句	蜂	動物
5993	明治39年	春の部	水は温む野芝居ありし辺り哉	水温む	地理
5994	明治39年	春の部	水温む船路を人と別れけり	水温む	地理
5995	明治39年	春の部	鬼棲まずなりて山川ぬるみけり	水温む	地理
5996	明治39年	春の部	水温む庭の景色や閨の昼	水温む	地理
5997	明治39年	春の部	水温み菜の花咲かぬ畑もなし	水温む	地理
5998	明治39年	春の部	温む水春や昔の春ならぬ	水温む	地理
5999	明治39年	春の部	懐旧の水を探れば水温む	水温む	地理
6000	明治39年	春の部	山人は正に睡れり水温む	水温む	地理
6001	明治39年	春の部	帛を衣て春の寒さを恐れけり	春寒	時候
6002	明治39年	春の部	東より西に過ぎたる田螺かな	田螺	動物
6003	明治39年	春の部	學人が眼睛萌ゆる草に落つ	草萌	植物
6004	明治39年	春の部	梅咲いて鼻孔に春の寒哉	梅	植物
6005	明治39年	春の部	客曰く眉毛生ぜり猫が戀	猫の戀	動物
6006	明治39年	春の部	むつの牧東に開け春の海	春の海	地理
6007	明治39年	春の部	繪踏する九州一の美人かな	繪踏	人事
6008	明治39年	春の部	凍解くるほとり八ツ手の古葉哉	凍解	地理
6009	明治39年	春の部	連綿と柳の村や春の海	春の海	地理
6010	明治39年	春の部	恙なしと文す如月半ばかり	如月	時候
6011	明治39年	春の部	寒食や桃に小暗き民の家	寒食	人事
6012	明治39年	春の部	崢嶸と聳ゆる山や帰る雁	帰る雁	動物
6013	明治39年	春の部	春の雁瘦せて湖水に映りけり	春雁	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6014	明治39年	春の部	珊瑚の鞭雁の別を送りけり	帰る雁	動物
6016	明治39年	春の部	梅の花咳唾の珠を偲びけり	梅	植物
6018	明治39年	春の部	雛もなし汝を桃の花の顔	雛	人事
6019	明治39年	春の部	山買ふや山の境の春の水	春の水	地理
6020	明治39年	春の部	木実うゑんと思ふあたりをありきけり	木實植う	人事
6021	明治39年	春の部	田螺賣桃李のこみち戻りけり	田螺	動物
6022	明治39年	春の部	若もゆる長信宮の祠かな	草薨	植物
6023	明治39年	春の部	一ト列に挿しゝ塘の木芽かな	木の芽	植物
6024	明治39年	春の部	桜狩汝干狩より尚遠し	花見	人事
6025	明治39年	春の部	垣を結ふ大根の花の主かな	大根の花	植物
6026	明治39年	春の部	富めるもの嘲けられけり桜鯛	桜鯛	動物
6027	明治39年	春の部	物皆の処を得たり鳥交る	鳥交る	動物
6028	明治39年	春の部	耕して釣徒と暮を帰りけり	耕	人事
6029	明治39年	春の部	山をやく夕やうはゞみ慟哭す	野山焼	人事
6030	明治39年	春の部	花をまつ我に桜蚊飛来る	春の蚊	動物
6031	明治39年	春の部	鯉賣る軒端や春の虫がとぶ	鯉	動物
6032	明治39年	春の部	連翹や花に突入る牛の角	連翹	植物
6033	明治39年	春の部	海棠に狂杜が才を試みん	海棠	植物
6034	明治39年	春の部	嘲や我は飯喰ふ其角の日	其角忌	人事
6035	明治39年	春の部	夏近し賣残したる花の酒	夏近し	時候
6036	明治39年	春の部	むざ／＼と馬に喰はれぬ萩若葉	萩若葉	植物
6037	明治39年	春の部	晝を睡る書楼の人や松の花	松の花	植物
6038	明治39年	春の部	海苔の香に巖を思ふ雄鹿の宿	海苔	植物
6039	明治39年	春の部	菊根分桜頻りに散る日哉	菊根分	人事
6040	明治39年	春の部	雲雀揚がる武藏の國の眞中哉	雲雀	動物
6041	明治39年	春の部	尺八や宵をほのめく積塔會	積塔會	人事
6042	明治39年	春の部	頽れたるかまとや庵の三月尽	三月尽	時候
6043	明治39年	春の部	ゆく春の茶の木がくれや人遊ぶ	行春	時候
6420	明治40年	春の部	人とりしなだれの雪の残りけり	残雪	地理
6421	明治40年	春の部	東風吹いて山紫と成にけり	東風	天文
6422	明治40年	春の部	凧の尾の空にからまる物もなし	凧	人事
6423	明治40年	春の部	灯の花に尚疑ひや春の宵	春宵	時候
6424	明治40年	春の部	此心竟に動かず梅の花	梅	植物
6425	明治40年	春の部	梅白し弊履を棄てゝ人の去る	梅	植物
6426	明治40年	春の部	かれ／＼て一樹となりぬ梅の花	梅	植物
6427	明治40年	春の部	古梅に廬を結ぶ花を省みず	梅	植物
6428	明治40年	春の部	筆陣や梅に争ふ儒と釈と	梅	植物
6429	明治40年	春の部	家貧しければ梅いよ／＼白し	梅	植物
6430	明治40年	春の部	雪の下の地を見る頃や冴返る	冴返	時候
6431	明治40年	春の部	鳥雲に入るや人待つこと久し	鳥入雲	動物
6432	明治40年	春の部	海苔やくや海苔とる海の目に浮	海苔	植物
6433	明治40年	春の部	凶年の落穂悲む田打かな	田打ち	人事
6434	明治40年	春の部	十人の田打必ず愚なるあり	田打ち	人事
6435	明治40年	春の部	田に田打常平倉の屋根に鶏	田打ち	人事
6436	明治40年	春の部	畑打が陳情表の話かな	畑打ち	人事
6437	明治40年	春の部	畑打に出でまくとすや朋来る	畑打ち	人事
6438	明治40年	春の部	古葉くゞる林中の水温みけり	水温む	地理
6439	明治40年	春の部	両三家めぐり来て里の水ぬるむ	水温む	地理

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6440	明治40年	春の部	温む水に心驚く帰雁かな	水温む	地理
6441	明治40年	春の部	日々に伸びまさる菜や水ぬるむ	水温む	地理
6442	明治40年	春の部	伐尽す柴山の水温みけり	水温む	地理
6443	明治40年	春の部	春浅き宿や乏しき深山柴	春浅し	時候
6444	明治40年	春の部	戀猫の爪恐ろしく思ひけり	猫の戀	動物
6446	明治40年	春の部	天氣地氣啓蟄の日と成にけり	啓蟄	時候
6447	明治40年	春の部	芋々の草綿々のひばりかな	雲雀	動物
6448	明治40年	春の部	雪残る山見てひばり落る哉	雲雀	動物
6449	明治40年	春の部	何氏が発祥の地や雲雀なく	雲雀	動物
6450	明治40年	春の部	遠く遊ぶ牧守が子にひばり哉	雲雀	動物
6451	明治40年	春の部	ひばり落つつこ雲雀の罅かな	雲雀	動物
6452	明治40年	春の部	西行がうしろに揚るひばり哉	雲雀	動物
6453	明治40年	春の部	ひばり野や我が見つゝ行く歌枕	雲雀	動物
6454	明治40年	春の部	畑あればひばり啼く川の中洲かな	雲雀	動物
6455	明治40年	春の部	ひばりより下に春く夕日かな	雲雀	動物
6456	明治40年	春の部	夕霞夕雲雀水流れけり	雲雀	動物
6457	明治40年	春の部	あき人は黄金もて梅を購へり	梅	植物
6458	明治40年	春の部	梅さげて人通りけり古本屋	梅	植物
6459	明治40年	春の部	北海の雪の便りや梅の花	梅	植物
6460	明治40年	春の部	種まいて暮るゝおそきを覚えけり	種蒔	人事
6461	明治40年	春の部	木の実植うる翁や花に誘はれず	木實植う	人事
6462	明治40年	春の部	木の実植ふよ / \ と人のすゝめ哉	木實植う	人事
6463	明治40年	春の部	鶏合すんで花洛のくもりかな	鶏合	人事
6464	明治40年	春の部	花の歌雁の別に清らなる	帰る雁	動物
6465	明治40年	春の部	長閑さに桶の田螺を算へけり	田螺	動物
6466	明治40年	春の部	踏青のいつこの天や龍登る	龍登天	動物
6467	明治40年	春の部	芝に居る小弓の友や萩若葉	萩若葉	植物
6468	明治40年	春の部	洛中は早も日今や萩若葉	萩若葉	植物
6469	明治40年	春の部	萩若葉野路に相逢ふ春の人	萩若葉	植物
6470	明治40年	春の部	萩若葉詞人素より多病也	萩若葉	植物
6471	明治40年	春の部	人多情萩の若葉に苦吟かな	萩若葉	植物
6472	明治40年	春の部	胸中の磊塊蜂の巢に似たり	蜂の巢	動物
6473	明治40年	春の部	あるは蜂の趣を見る古人の句	蜂	動物
6474	明治40年	春の部	蜂巢ふ茨を剪って棄てにけり	蜂の巢	動物
6475	明治40年	春の部	大徳の蜂にさゝれずおほしけり	蜂	動物
6476	明治40年	春の部	小坊主が蜂を逃げゆく落花哉	蜂	動物
10657	明治40年	春の部	此濱の鯨少し冴え返り	鯨	動物
6759	明治41年	春の部	草の舎に隠れもなしや風絵かく	風	人事
6760	明治41年	春の部	時を得て蠢くものや水温む	水温む	地理
6761	明治41年	春の部	初雷や天下の句風新たなり	初雷	天文
6762	明治41年	春の部	初雷や勃然として臨池の興	初雷	天文
6763	明治41年	春の部	佛名に救はるゝ身や鐘かすむ	霞	天文
6764	明治41年	春の部	家居皆古風な里や鐘霞む	霞	天文
6765	明治41年	春の部	丘壑の情放散や鐘かすむ	霞	天文
6766	明治41年	春の部	一飯の供養に足るや鐘霞む	霞	天文
6767	明治41年	春の部	奥人の訥なる話鐘かすむ	霞	天文
6768	明治41年	春の部	鐘かすむ國土一草一伽藍	霞	天文
6769	明治41年	春の部	山河の岸うつ波や雉子とぶ	雉子	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6770	明治41年	春の部	拓き終へし地を見取図や日の永き	日永	時候
6771	明治41年	春の部	海棠や酒醒めて晝の衾あり	海棠	植物
6772	明治41年	春の部	望夫石ありし口碑や春の潮	春の潮	地理
6773	明治41年	春の部	魚戸蟹舎雁行く景と見えにけり	帰る雁	動物
6774	明治41年	春の部	異を樹つるにしもあらねど木芽和	木芽和	人事
6775	明治41年	春の部	野遊の荷物にしたり筆硯	野遊	人事
6776	明治41年	春の部	野遊の此道よりす柳かな	野遊	人事
6777	明治41年	春の部	野遊にかの道人をさそひけり	野遊	人事
6778	明治41年	春の部	野遊の沼見めぐりぬ男衆	野遊	人事
6779	明治41年	春の部	野遊や路に詣づる神社	野遊	人事
6780	明治41年	春の部	野遊や人に秘めたる歌袋	野遊	人事
6781	明治41年	春の部	野遊に弓引く男子戀にけり	野遊	人事
6782	明治41年	春の部	野遊やげん / \ 尽きて大堰川	野遊	人事
6783	明治41年	春の部	野遊の雪白き山を畏れけり	野遊	人事
6784	明治41年	春の部	雨けぶる日や野遊の序を草す	野遊	人事
6785	明治41年	春の部	褒貶に耳傾けず干鱈買ふ	干鱈	人事
6786	明治41年	春の部	花落ちて辛夷に実なし干鱈さく	干鱈	人事
6787	明治41年	春の部	棒鱈の荷も片づきぬ初つばめ	燕	動物
6788	明治41年	春の部	炉火灰となりて鶯庭に来る	鶯	動物
6789	明治41年	春の部	忽然と鶯きくや著作堂	鶯	動物
6790	明治41年	春の部	谷水の窮み鶯遷りけり	鶯	動物
6791	明治41年	春の部	鶯や木履の音も例の刻	鶯	動物
6792	明治41年	春の部	崇なき伐木や鶯の啼く	鶯	動物
6793	明治41年	春の部	藁の瑞の木原や兔の子	藁	植物
6794	明治41年	春の部	藁の藜々として春の水	藁	植物
6795	明治41年	春の部	藁も女の丈けに柳かな	藁	植物
6796	明治41年	春の部	古梅の終に藁なかりけり	藁	植物
6797	明治41年	春の部	藁も遺さずと斧揮ひけり	藁	植物
6798	明治41年	春の部	花さくと魂まねげ帰る雁	帰る雁	動物
6799	明治41年	春の部	五文たこ三文たこと揚りけり	凧	人事
6800	明治41年	春の部	人鮎を汲む鳥花を喰ふ日哉	鮎汲み	人事
6801	明治41年	春の部	鮎の子や御幸の沙汰もほのかにて	小鮎	動物
6802	明治41年	春の部	餌をくふとしもなく小鮎つられけり	小鮎	動物
6803	明治41年	春の部	鮎汲を見て小謡や桜川	鮎汲み	人事
6804	明治41年	春の部	貫之が假名ふみに入る小鮎哉	小鮎	動物
6805	明治41年	春の部	初雷や腹案の句の一頓挫	初雷	天文
6806	明治41年	春の部	汲鮎を三ツに分つや風光る	鮎汲み	人事
6807	明治41年	春の部	薪とる山賤にして鮎を汲む	鮎汲み	人事
6808	明治41年	春の部	春惜む心に鮎を汲にけり	鮎汲み	人事
6809	明治41年	春の部	若鮎に恋々として都鳥	小鮎	動物
6810	明治41年	春の部	小鮎釣に上ると雨日閑話哉	小鮎	動物
6811	明治41年	春の部	兎狩りし岨も平も雪解かな	雪解	地理
6812	明治41年	春の部	官山に人入る遅き雪げかな	雪解	地理
6813	明治41年	春の部	水の辺りありく畑地の雪げ哉	雪解	地理
6814	明治41年	春の部	伐出しの節木残りて雪解哉	雪解	地理
6815	明治41年	春の部	市も立つ山の驛の雪解哉	雪解	地理
6816	明治41年	春の部	老いたるを牽いて馬耕や辛夷咲く	辛夷	植物
6817	明治41年	春の部	荒蕪地に鋤入式や辛夷さく	辛夷	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6818	明治41年	春の部	山僧愚なれど俗ならず辛夷さく	辛夷	植物
6819	明治41年	春の部	廃したる炭がま興す辛夷哉	辛夷	植物
6820	明治41年	春の部	ありなしの落魄や門の古辛夷	辛夷	植物
6821	明治41年	春の部	法事過ぎて人に分ちぬ漆種	種物	人事
6822	明治41年	春の部	隣人に種物惜むそしりあり	種物	人事
6823	明治41年	春の部	しらべ洩の種や橡の実一吠	種物	人事
6824	明治41年	春の部	種物の事方丈と挨拶す	種物	人事
6825	明治41年	春の部	雨讀の閑種物の名を想出づ	種物	人事
6826	明治41年	春の部	山僧の大愚辛夷の花も知らず	辛夷	植物
6827	明治41年	春の部	山吹や水に及ばぬ野火の痕	山吹	植物
6828	明治41年	春の部	山吹や寺に故実の經供養	山吹	植物
6829	明治41年	春の部	山吹や馬はあれども伊賀吟行	山吹	植物
6830	明治41年	春の部	山吹や執筆中の五元集	山吹	植物
6831	明治41年	春の部	長者屋しき山吹さくを古跡哉	山吹	植物
6832	明治41年	春の部	青き踏む貴妃を扶けて遅れけり	踏青	人事
6833	明治41年	春の部	踏青の水に逢うて且つ迂回せり	踏青	人事
6834	明治41年	春の部	踏青や閑雲の景野鶴の情	踏青	人事
6835	明治41年	春の部	踏青の叉路や文武の子	踏青	人事
6836	明治41年	春の部	雪の山の一角も見て青き踏む	踏青	人事
6838	明治41年	春の部	蝦夷が子の摘み残しけむ露のとう	露の臺	植物
7036	明治42年	春の部	拓本の大きさも希有梅の花	梅	植物
7037	明治42年	春の部	早起の箴奴も写す梅の花	梅	植物
7038	明治42年	春の部	洌黙も一家の規模や梅の花	梅	植物
7039	明治42年	春の部	朝奇晩奇只主人知る梅の花	梅	植物
7040	明治42年	春の部	三冬に研り残す朱や梅の花	梅	植物
7041	明治42年	春の部	句意画意のいつこ融会や梅一枝	梅	植物
7042	明治42年	春の部	蹇の僧猶住めり軒の梅	梅	植物
7043	明治42年	春の部	橋架す奇風遣れり峽の梅	梅	植物
7044	明治42年	春の部	飼鶏の同じ羽色や梅の宿	梅	植物
7045	明治42年	春の部	飯喰へど鄙しとなさず梅の主	梅	植物
7046	明治42年	春の部	閣成て記を作らしむ雉子の声	雉子	動物
7047	明治42年	春の部	三日つゞく土豪の宴雉子啼く	雉子	動物
7048	明治42年	春の部	雉子撃って新妻故に帰りけり	雉子	動物
7049	明治42年	春の部	雁風呂や今様の美女三五人	雁風呂	人事
7050	明治42年	春の部	炉塞や耳目に潜む風邪の氣	爐塞	人事
7051	明治42年	春の部	餅賣と約束事や麦を踏む	麥踏	人事
7052	明治42年	春の部	流行唄村にも流行る雪げかな	雪解	地理
7053	明治42年	春の部	本草も我一代や二日灸	二日灸	人事
7054	明治42年	春の部	溶き分けて浴き絵具や山笑ふ	山笑う	地理
7055	明治42年	春の部	手をあげて乳母言傳や山笑ふ	山笑う	地理
7057	明治42年	春の部	城の窓麦の青きを望みけり	麦青む	植物
7058	明治42年	春の部	青麦に澄みぬきのふの雪げ水	麦青む	植物
7059	明治42年	春の部	青麦に水鳥の目のかすみかな	麦青む	植物
7060	明治42年	春の部	事なきにきづく用意や麦青し	麦青む	植物
7061	明治42年	春の部	神宮の手斧の音や春の麦	麦青む	植物
7062	明治42年	春の部	城きづく坐上図解や大石忌	大石忌	人事
7063	明治42年	春の部	自他心事棋子黑白や大石忌	大石忌	人事
7064	明治42年	春の部	眉目相照す花あり大石忌	大石忌	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7065	明治42年	春の部	編笠に軽重の論や大石忌	大石忌	人事
7066	明治42年	春の部	文の波瀾帰雁の事や大石忌	大石忌	人事
7067	明治42年	春の部	蛙子や臨池一日一字づゝ	蝌蚪	動物
7068	明治42年	春の部	諳ンずる長恨歌詞や半仙戯	鞦韆	人事
7069	明治42年	春の部	菊根分終りて次韻却寄哉	菊根分	人事
7070	明治42年	春の部	詠ミ歌の贈答體に遅日哉	遅日	時候
7071	明治42年	春の部	家富めば古式すたれぬ竹の秋	竹の秋	植物
7072	明治42年	春の部	宝印と縛印と彼岸團子哉	彼岸	人事
7073	明治42年	春の部	眉剃りて彼岸の花につとひけり	彼岸	人事
7074	明治42年	春の部	湾をなすところ丘あり春の海	春の海	地理
7075	明治42年	春の部	豫め定まる帰期や春の海	春の海	地理
7076	明治42年	春の部	花衣着ぬきの冷や田螺和	田螺和	人事
7077	明治42年	春の部	水城跡石高々と田螺かな	田螺	動物
7078	明治42年	春の部	人送り出でし話頭の田螺かな	田螺	動物
7079	明治42年	春の部	民の疾苦田螺の事も間にけり	田螺	動物
7080	明治42年	春の部	嶋を負ふ家居田螺も賣に来る	田螺	動物
7082	明治42年	春の部	鹿放つよしを庭見の麗かに	麗	時候
7083	明治42年	春の部	湖の雑魚煮れば湖草も麗かに	麗	時候
7084	明治42年	春の部	馬士よべどあらず道もせにちる李	李の花	植物
7085	明治42年	春の部	草つむも駐蹕の地のほとり哉	摘草	人事
7086	明治42年	春の部	湖の魚珍らかに見て春惜む人	春惜む	時候
7087	明治42年	春の部	又一人の弟子遠島や暮るゝ春	暮春	時候
7088	明治42年	春の部	醍醐寺の埒の大破も暮るゝ春	暮春	時候
7089	明治42年	春の部	答うつ刑も昔に春暮れぬ	暮春	時候
7090	明治42年	春の部	奥書も断簡の部や春暮るゝ	暮春	時候
7091	明治42年	春の部	子に似ぬ子と思寐や暮るゝ春	暮春	時候
7092	明治42年	春の部	簀の上の森吉の雪や苗代田	苗代	地理
7093	明治42年	春の部	苗代も見て後園日に渉る	苗代	地理
7094	明治42年	春の部	苗代の萌ゆるや古碑の苔も掃く	苗代	地理
7095	明治42年	春の部	苗代やけふ造林の山を出る	苗代	地理
7096	明治42年	春の部	風除けの林の禽や苗代田	苗代	地理
7097	明治42年	春の部	山吹に短き悔いぬ舟の棹	山吹	植物
7098	明治42年	春の部	山吹や馬腹に及ぶ溢れ水	山吹	植物
7099	明治42年	春の部	山吹に日和見鴉とも見ゆる	山吹	植物
7100	明治42年	春の部	山吹の山孤峭なる身冷哉	山吹	植物
7101	明治42年	春の部	山吹や岩魚捕る約に人をまつ	山吹	植物
7102	明治42年	春の部	境論の立別れゆくつゝじかな	躑躅	植物
7103	明治42年	春の部	高山を遥拜の野のつゝじ哉	躑躅	植物
7104	明治42年	春の部	帽子手巾つゝじ野深く人遊ぶ	躑躅	植物
7105	明治42年	春の部	水飲みに下るもつゝじがくれかな	躑躅	植物
7106	明治42年	春の部	つゝじ野にいつこ来て去る奔馬哉	躑躅	植物
7203	明治43年	春の部	二三子茲に弓勢見よや梅の花	梅	植物
7204	明治43年	春の部	立春大吉堂に八十八の人	立春	時候
7205	明治43年	春の部	日本刀の歌傳唱や寒食す	寒食	人事
7206	明治43年	春の部	木隠れし君を二度半仙戯	鞦韆	人事
7207	明治43年	春の部	秋千に酔発す花の雪ちるに	鞦韆	人事
7208	明治43年	春の部	ふらこゝに見る店頭の餅白き	鞦韆	人事
7209	明治43年	春の部	一山紫一水明や秋千に	鞦韆	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7210	明治43年	春の部	あなかしこ戀猫の句を扇面に	猫の戀	動物
7211	明治43年	春の部	遠忌果てゝ氣安覚えぬ猫の戀	猫の戀	動物
7212	明治43年	春の部	雪汁に渴きあさまし猫の夫	猫の戀	動物
7213	明治43年	春の部	作家手段粉黛の字や猫の妻	猫の戀	動物
7214	明治43年	春の部	雪顔跡に三家挙るや猫の恋	猫の戀	動物
7215	明治43年	春の部	馬も野へ牛も野へ誰ぞふらこゝに	鞦韆	人事
7216	明治43年	春の部	ふらこゝに上る鶏鳴吠の徒	鞦韆	人事
7217	明治43年	春の部	字句を求めて春雷飛と得たりけり	春雷	天文
7218	明治43年	春の部	寤寐に之を求むれど得ず水温む	水温む	地理
7219	明治43年	春の部	仿古詩賤歡会の桃と紅に	桃	植物
7220	明治43年	春の部	人を送る詩の一格や春の霜	春霜	天文
7221	明治43年	春の部	画眉郎の嘲解かむ長閑さに	長閑	時候
7222	明治43年	春の部	古人既に山相論や里長閑	長閑	時候
7223	明治43年	春の部	暗算にこの魯鈍さよ宵長閑	長閑	時候
7224	明治43年	春の部	猫の子等の雌にのみ名づく長閑也	長閑	時候
7225	明治43年	春の部	餌につかぬ魚を悪むや水長閑	長閑	時候
7226	明治43年	春の部	耳穴の痒き同病長閑なる	長閑	時候
7227	明治43年	春の部	今の世に異形相の人よ長閑なる	長閑	時候
7228	明治43年	春の部	文庫蹟ものどか諸子木百家草	長閑	時候
7229	明治43年	春の部	弁木猶藏書の如し庭長閑	長閑	時候
7230	明治43年	春の部	人やある例の大笑寺長閑	長閑	時候
7231	明治43年	春の部	花にさそへば笠縫うて居る人つれな	花	植物
7232	明治43年	春の部	掃苔会一樹の花にこぞりけり	花	植物
7233	明治43年	春の部	一搏の鳥にかほどの落花哉	落花	植物
7234	明治43年	春の部	一韵十疊満都の花に傳唱す	花	植物
7235	明治43年	春の部	水石の奇趣に蝦夷名や山櫻	山櫻	植物
7236	明治43年	春の部	十日すぎて見る野火埃水温む	水温む	地理
7237	明治43年	春の部	勸農譚皆耳寄せて水温む	水温む	地理
7238	明治43年	春の部	鋤ぶりも遺制めくあり温む水	水温む	地理
7239	明治43年	春の部	流るゝもの卑きについて水温む	水温む	地理
7240	明治43年	春の部	枝に鳥の徒に居る見ゆ温む水	水温む	地理
7241	明治43年	春の部	熱喝に耳ほがらなり山笑ふ	山笑う	地理
10610	明治43年	春の部	稀に入れば柳散ると云ふ	柳	植物
7307	明治44年	春の部	親によく肖て四ツ白の麗かに	麗	時候
7309	明治44年	春の部	龜鳴くよ塔一見の本望に	龜鳴く	動物
7310	明治44年	春の部	龜鳴くや紙に記せば断碑考	龜鳴く	動物
7312	明治44年	春の部	火口作る家傳も徒に桃の花	桃	植物
7313	明治44年	春の部	酔ひて後又の日の桃見約しけり	桃	植物
7314	明治44年	春の部	酒の名に典故あり桃葉勝にて	桃	植物
7315	明治44年	春の部	桃散るや貨すまじき馬書借に来る	桃	植物
7316	明治44年	春の部	三日の徭役果てゝ桃の宿	桃	植物
7317	明治44年	春の部	媚ぶと貶す人すげなくも桃の花	桃	植物
7318	明治44年	春の部	ある時は師や媿々として桃の花	桃	植物
7319	明治44年	春の部	未子の事又念頭に桃の花	桃	植物
7320	明治44年	春の部	緋桃白桃家道復び盛ン也	桃	植物
7322	明治44年	春の部	聖徳は飽まで桃に睡りけり	桃	植物
7324	明治44年	春の部	一鳥も一魚も縁に木芽ふく	木の芽	植物
7326	明治44年	春の部	晴耕の心魚鳥と相照す	耕	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7327	明治44年	春の部	春田打ちし疲や関す金蘭簿	田打ち	人事
7329	明治44年	春の部	片言を交して花に急ぐ人	花	植物
7330	明治44年	春の部	行春と題して筆を擱きにけり	行春	時候
7331	明治44年	春の部	行春と題す乃ち筆をおく	行春	時候
7333	明治44年	春の部	君に手紙書き了へて石竹を植う	石竹植う	人事
7416	明治45年	春の部	天斧山脈を斷つ東風吹息まず	東風	天文
7417	明治45年	春の部	春寒し今到着の書册積む	春寒	時候
7418	明治45年	春の部	京よりの封筒よ文字よ春の雪	春雪	天文
7420	明治45年	春の部	桃の花はかくて千載不易なる	桃	植物
7424	明治45年	春の部	君が意蓋し霞を盛れとこそ	霞	天文
7426	明治45年	春の部	木實植て倦まず鳥鳴く諸声に	木實植う	人事
7428	明治45年	春の部	魂や遊ぶ画譜の花鳥の蝕みし	花	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4859	明治36年	夏の部	草合草に佳き名をつけにけり	草合	人事
4860	明治36年	夏の部	御子羅子の田植めでたし神の國	田植	人事
4861	明治36年	夏の部	月下ばら剪て香に驚きぬ	薔薇	植物
4863	明治36年	夏の部	初袷眼は黄卷にかゞやきぬ（青々）	袷	人事
4864	明治36年	夏の部	初袷酒のまぬ人細長し（四方太）	袷	人事
4865	明治36年	夏の部	初袷それにつけても烟草哉（紅緑）	袷	人事
4866	明治36年	夏の部	初袷うれしよき酒三オンス（鳴雪）	袷	人事
4867	明治36年	夏の部	初袷今の世の句をさげしめぬ（碧梧桐）	袷	人事
4868	明治36年	夏の部	初袷今はた酔ひて謠ひけり（虚子）	袷	人事
4869	明治36年	夏の部	雷や赫と日のさす桐の花	桐の花	植物
4870	明治36年	夏の部	夏座敷暮れて吹入る艸木の香	夏座敷	人事
4871	明治36年	夏の部	経よめば夏断の腹の鳴ることよ	夏断	人事
4872	明治36年	夏の部	夕立や雹もまじりて紅藍花畑	夕立	天文
4873	明治36年	夏の部	御神庫に銀杏の若葉輝けり	若葉	植物
4874	明治36年	夏の部	薬日の鼎の塵を掃ひけり	薬日	人事
4875	明治36年	夏の部	かりそめにかみ試みつ薬摘	薬日	人事
4876	明治36年	夏の部	薬ふる我庭黄ばむ梅一樹	薬ふる	天文
4877	明治36年	夏の部	薬狩いやしからざる主従かな	薬日	人事
4878	明治36年	夏の部	薬草を採り薬草を干す一日哉	薬日	人事
4879	明治36年	夏の部	競かりこの頃道士庵にあり	競馬	人事
4881	明治36年	夏の部	耳あれば天地五月の雲の音	五月	時候
4883	明治36年	夏の部	この頃の日日本の國あけやすき	短夜	時候
4884	明治36年	夏の部	五月雨やいって追手が呼ばふ声	五月雨	天文
4885	明治36年	夏の部	眼の前の紅花盛りなり夏霞	紅花	植物
4886	明治36年	夏の部	簞童子も雲の奇を了す	簞	人事
4887	明治36年	夏の部	等閑に茶の湯もすなり簞	簞	人事
4888	明治36年	夏の部	陶に水飯空し簞	簞	人事
4889	明治36年	夏の部	婆子饒舌梅干の壺仆しけり	梅干す	人事
4890	明治36年	夏の部	葛水の其交や君子也	葛水	人事
4891	明治36年	夏の部	夏神樂水浴びて来る神馬哉	夏神樂	人事
4892	明治36年	夏の部	露涼し朴の林の朝日影	夏の露	天文
4893	明治36年	夏の部	露涼し軒端の草に茶の煙	夏の露	天文
4894	明治36年	夏の部	露涼し林檎熟して紅に	夏の露	天文
4895	明治36年	夏の部	露すゞし保津の朝川くだり舟	夏の露	天文
4896	明治36年	夏の部	露涼し木末に消ゆるはゞき星	夏の露	天文
4897	明治36年	夏の部	青芒山家の鍋に洗飯	青芒	植物
4898	明治36年	夏の部	短夜の人や丘見の兒白き	短夜	時候
4899	明治36年	夏の部	短夜や人をあやしむとめ木の香	短夜	時候
4900	明治36年	夏の部	短夜の暁一しきりちり松葉	短夜	時候
4901	明治36年	夏の部	短夜のありのすさびも掃かれけり	短夜	時候
4902	明治36年	夏の部	雨五月いつこ鶯啼にけり	五月雨	天文
4903	明治36年	夏の部	五月雨や家をめぐりて当帰畑	五月雨	天文
4904	明治36年	夏の部	紫陽花の妬げに見えてさみだるゝ	五月雨	天文
4905	明治36年	夏の部	五月雨の棗色づく日の光り	五月雨	天文
4906	明治36年	夏の部	柚の花は香にこぼれけり棕櫚の花	棕櫚の花	植物
4907	明治36年	夏の部	棕櫚の花風雨頻りに至る夕	棕櫚の花	植物
4908	明治36年	夏の部	野雀や棕櫚の蒼を弄ぶ	棕櫚の花	植物
4909	明治36年	夏の部	棕櫚の花庭木の中にかそへけり	棕櫚の花	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4910	明治36年	夏の部	花棕櫚の畑は四月の天気哉	棕櫚の花	植物
4911	明治36年	夏の部	花棕櫚や畑の隅なる青山椒	棕櫚の花	植物
4912	明治36年	夏の部	絵日傘にかくれて兒のありきけり	日傘	人事
4913	明治36年	夏の部	日傘して舟に河水を掬ひけり	日傘	人事
4914	明治36年	夏の部	藍刈と物打語る日傘人	日傘	人事
4915	明治36年	夏の部	日傘たゝみ林檎の下に立寄りぬ	日傘	人事
4916	明治36年	夏の部	短夜の聞知らぬ鳥山の宿	短夜	時候
4917	明治36年	夏の部	短夜の兒も洗はず鴉かな	短夜	時候
4918	明治36年	夏の部	島原を畑に見てゆく日傘哉	日傘	人事
4919	明治36年	夏の部	青梅を人の日傘につふて哉	雑	雑
4920	明治36年	夏の部	短夜を鳴残る蛙一ツ哉	短夜	時候
4921	明治36年	夏の部	五月雨や杉伐仆す橋わたし	五月雨	天文
4922	明治36年	夏の部	獨活畑のうど採尽す棕櫚の花	棕櫚の花	植物
4923	明治36年	夏の部	机に灯古人蚊をやく辞あり	蚊	動物
4924	明治36年	夏の部	棕櫚の花竹原出る小嘯囉	棕櫚の花	植物
4925	明治36年	夏の部	五月雨道にふまるゝあやめ草	五月雨	天文
4926	明治36年	夏の部	五月雨や塩くさき飽く蕨汁	五月雨	天文
4927	明治36年	夏の部	短夜の餘花にあけたり山かつら	短夜	時候
4928	明治36年	夏の部	短夜の牡丹を惜む主かな	短夜	時候
4929	明治36年	夏の部	蚊を打て再び呪文高らかに	蚊	動物
4930	明治36年	夏の部	目をとちて蚊の鳴く方を定めけり	蚊	動物
4931	明治36年	夏の部	冷飯に蚊も秋近くなりけり	蚊	動物
4932	明治36年	夏の部	曉の蚊の乾をさして飛去りぬ	蚊	動物
4933	明治36年	夏の部	戀に蚊に物の哀を覚えけり	蚊	動物
4934	明治36年	夏の部	昼の蚊やみすより人を覗く程に	蚊	動物
4935	明治36年	夏の部	大佛や日傘かたげて人のゆく	日傘	人事
4936	明治36年	夏の部	かちわたり河原をありく日傘哉	日傘	人事
4937	明治36年	夏の部	顔や日傘の中の日の匂ひ	日傘	人事
4938	明治36年	夏の部	日傘たゝめば木間もる日や顔に照る	日傘	人事
4939	明治36年	夏の部	花棕櫚やかたち醜き寺男	棕櫚の花	植物
4940	明治36年	夏の部	花棕櫚や寺僧頑に叱る声	棕櫚の花	植物
4941	明治36年	夏の部	さみだるゝ牧場に馬もなかりけり	五月雨	天文
4942	明治36年	夏の部	蚊をやくや夜の活花蚊帳越に	蚊	動物
4943	明治36年	夏の部	うはなりのひた憎む蚊や古行灯	蚊	動物
4944	明治36年	夏の部	蠟燭や法幢に蚊も寄つかず	蚊	動物
4945	明治36年	夏の部	五月雨やよしある里の花かつみ	五月雨	天文
4946	明治36年	夏の部	五月雨の雲や柴胡のむら茂り	五月雨	天文
4948	明治36年	夏の部	ゆけ、われ蛇斬ると夢みたり	蛇	動物
4949	明治36年	夏の部	河骨に蜻蜒始めて飛ぶ日哉	蜻蛉	動物
4950	明治36年	夏の部	水馬頻りに飛ぶも恋の事	水馬	動物
4951	明治36年	夏の部	薫風や故郷の路の花茨	薫風	天文
4952	明治36年	夏の部	涼しさにラムネの玉を鳴らしけり	涼し	時候
4953	明治36年	夏の部	ふじ詣裾野の小家立出でぬ	富士詣	人事
4954	明治36年	夏の部	鄙の宿燈心草も花咲きぬ	燈心草の花	植物
4955	明治36年	夏の部	黄梅の雨や寺僧の詩三昧	黄梅	植物
4956	明治36年	夏の部	風涼し龍をはしらす墨の痕	涼し	時候
4957	明治36年	夏の部	若竹に小督の墓を弔へり	若竹	植物
4958	明治36年	夏の部	燕子花活けあまりたる廣葉哉	杜若	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4959	明治36年	夏の部	葛水や老來の齒も爽かに	葛水	人事
4960	明治36年	夏の部	うの花の主と申せ蝸牛	蝸牛	動物
4961	明治36年	夏の部	あちさみや小家にしるき異種	紫陽花	植物
4962	明治36年	夏の部	雲の峰日たゝ西吹く形哉	雲の峰	天文
4963	明治36年	夏の部	あちさみに或はかゝるゝ寺子哉	紫陽花	植物
4964	明治36年	夏の部	葛水や馬も涼しき木下蔭	葛水	人事
4965	明治36年	夏の部	絵扇をすさびにすなる力士哉	絵扇	人事
4966	明治36年	夏の部	角ふるや物きゝわけてかたつむり	蝸牛	動物
4967	明治36年	夏の部	大衆の打眠うかがふ蝸牛	蝸牛	動物
4968	明治36年	夏の部	紫陽花の色に迷へり蝸牛	蝸牛	動物
4969	明治36年	夏の部	伸上りてゝむし思ふ所あり	蝸牛	動物
4970	明治36年	夏の部	雲の峰六尺の百合花開く	雲の峰	天文
4971	明治36年	夏の部	王城の鬼門に当り雲の峰	雲の峰	天文
4972	明治36年	夏の部	ちるけしの葉末や雲峰低し	雲の峰	天文
4973	明治36年	夏の部	君が手の扇の影や草合	扇	人事
4974	明治36年	夏の部	扇つかひ顔に紅うつりけり	扇	人事
4975	明治36年	夏の部	あちさみのいやしき様や夜店の灯	紫陽花	植物
4976	明治36年	夏の部	紫陽花に蛇打逃がす茂り哉	紫陽花	植物
4977	明治36年	夏の部	紫陽花に日うとき樗の廣葉哉	紫陽花	植物
4978	明治36年	夏の部	葛のんで土器に水そゝきけり	葛水	人事
4979	明治36年	夏の部	草清水人こほし去る葛粉哉	清水	地理
4980	明治36年	夏の部	葛水や白衣は人の潔き	葛水	人事
4981	明治36年	夏の部	市中の一本杉や雲の峯	雲の峰	天文
4982	明治36年	夏の部	床の間のあやめの丈や扇掛	あやめ	植物
4983	明治36年	夏の部	祭見る村のしこめも扇哉	扇	人事
4984	明治36年	夏の部	あけやすき我が宿水の音ばかり	短夜	時候
4985	明治36年	夏の部	栗の花颯然として雨到る	栗の花	植物
4986	明治36年	夏の部	夏の神夜は即ち白衣哉	夏	時候
4987	明治36年	夏の部	夏ざしき夕日が少しあたりけり	夏座敷	人事
4988	明治36年	夏の部	夏羽をり飄々として庭ありき	夏羽織	人事
4989	明治36年	夏の部	羽拔鳥尊とる子の鼻の先	羽拔鳥	動物
4990	明治36年	夏の部	朝兒の苗に斑入をえらびけり	朝顔の苗	植物
4991	明治36年	夏の部	舟遊び舳に當り三日の月	舟遊	人事
4992	明治36年	夏の部	舟遊水の流に茶の烟	舟遊	人事
4993	明治36年	夏の部	舟遊眉をあぐれば嵐山	舟遊	人事
4994	明治36年	夏の部	舟遊舟ばたに立つ美少年	舟遊	人事
4995	明治36年	夏の部	舟遊去来は酒に遠さかり	舟遊	人事
4996	明治36年	夏の部	かへり見る活花の間や簞	簞	人事
4997	明治36年	夏の部	簞少し日当る朝の程	簞	人事
4998	明治36年	夏の部	簞独坐に近き月見艸	簞	人事
4999	明治36年	夏の部	簞足ふみ伸ばす雲の上	簞	人事
5000	明治36年	夏の部	簞星を懐ろなる思	簞	人事
5001	明治36年	夏の部	簞花が目につく女童	簞	人事
5002	明治36年	夏の部	蚊帳越や夜の活花白き花	蚊帳	人事
5003	明治36年	夏の部	蚊帳去るや枕に近く青表紙	蚊帳	人事
5004	明治36年	夏の部	蚊帳の中故人は旅につかれけり	蚊帳	人事
5005	明治36年	夏の部	蚊帳を出て夏朝兒に見入りけり	蚊帳	人事
5006	明治36年	夏の部	稲妻に玉巻芭蕉秀でたり	芭蕉玉巻	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5007	明治36年	夏の部	風鈴に新体の詩を詠じけり	風鈴	人事
5008	明治36年	夏の部	昼兒や道に死居る蟬暑し	晝顔	植物
5009	明治36年	夏の部	甘酒に客昼の蚊を憎みけり	蚊	動物
5010	明治36年	夏の部	目すゞしく眉秀でたり夏書人	夏書	人事
5011	明治36年	夏の部	ラムネのむやいさゝかの酒の酔心地	ラムネ	人事
5012	明治36年	夏の部	大原女の面もふらず草いきれ	草いきれ	植物
5013	明治36年	夏の部	法の風蓮の花の開く音	蓮	植物
5014	明治36年	夏の部	蓴つみ蓮の浮葉もたぐりけり	蓴菜	植物
5015	明治36年	夏の部	盆栽の蓮も咲いて水乏し	蓮	植物
5016	明治36年	夏の部	蓮の花くわゐの花も咲きにけり	蓮	植物
5017	明治36年	夏の部	蓮やせて浮草茂り咲にけり	蓮	植物
5018	明治36年	夏の部	蓮伐るや雨に驚く僧のさま	蓮	植物
5019	明治36年	夏の部	蓮さげて本堂をゆく蓴さよ	蓮	植物
5020	明治36年	夏の部	白蓮の且紅蓮の夕かな	蓮	植物
5021	明治36年	夏の部	河骨の群がり咲くや蓮の花	蓮	植物
5022	明治36年	夏の部	蓮見んと行くや蓮の朝月夜	蓮	植物
5023	明治36年	夏の部	銀燭や坐に水飯のうつはもの	水飯	人事
5024	明治36年	夏の部	水飯や皆銀のうつはもの	水飯	人事
5025	明治36年	夏の部	水飯や精進の日の昼灯	水飯	人事
5026	明治36年	夏の部	柚人の洗ひこぼしぬ洗飯	水飯	人事
5027	明治36年	夏の部	水飯や詩は性霊を貴べり	水飯	人事
5028	明治36年	夏の部	水飯や簀戸に遮る雨しぶき	水飯	人事
5029	明治36年	夏の部	水めしや紫陽花の色暮近き	水飯	人事
5030	明治36年	夏の部	水飯に昼の蚊一ツ見たりけり	水飯	人事
5031	明治36年	夏の部	水飯や句は天明を喜べり	水飯	人事
5032	明治36年	夏の部	水飯に奈良漬の香を憎みけり	水飯	人事
10581	明治36年	夏の部	蝙蝠や過て怪しきオロシヤ人	蝙蝠	動物
10595	明治36年	夏の部	蟻螂の生るゝ見ても佛かな	蟻螂	動物
10609	明治36年	夏の部	眠る山夫の洞庭の眺めかな	眺め	人事
5330	明治37年	夏の部	火事跡や風雨乱るゝ桐の花	桐の花	植物
5331	明治37年	夏の部	輪奐の美にかゝりやけり桐の花	桐の花	植物
5332	明治37年	夏の部	鬱として野に垂る雲や桐の花	桐の花	植物
5333	明治37年	夏の部	桐の花落ちて微風を見たりけり	桐の花	植物
5334	明治37年	夏の部	花桐の露や残礎を乱れうつ	桐の花	植物
5335	明治37年	夏の部	歌人や羽抜の鳥に寄する戀	羽抜鳥	動物
5336	明治37年	夏の部	夏帽や皆林泉の客ばかり	夏帽子	人事
5337	明治37年	夏の部	夏座敷小寒きばかり雨中の景	夏座敷	人事
5338	明治37年	夏の部	梅雨晴に長袖の人や花棗	棗の花	植物
5339	明治37年	夏の部	避暑の客名を題壁に知られけり	避暑	人事
5340	明治37年	夏の部	午睡して居れば官人狂駕かな	晝寝	人事
5341	明治37年	夏の部	竹婦人東坡は室に居残りぬ	竹夫人	人事
5342	明治37年	夏の部	夏菊や婆子に詩を問ふ白樂天	夏菊	植物
5343	明治37年	夏の部	水飯を喰こぼしけり長廣舌	水飯	人事
5344	明治37年	夏の部	貴人の前扇の風のあまり哉	扇	人事
5345	明治37年	夏の部	蠅を打つ臥龍先生二十八	蠅	動物
5346	明治37年	夏の部	はひを打つ悪道心が眼かな	蠅	動物
5347	明治37年	夏の部	夕立や物に恐るゝ蠅一つ	蠅	動物
5348	明治37年	夏の部	蠅を避けて庭の棗に遊びけり	蠅	動物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5350	明治37年	夏の部	蠅叩から / \ と笑ひ給ふらん	蠅	動物
5351	明治37年	夏の部	枕頭の山水蚊帳に賓主かな	蚊帳	人事
5352	明治37年	夏の部	よき蚊帳も釣て松風蘿月哉	蚊帳	人事
5353	明治37年	夏の部	偷見る蚊帳にうまゐの兒白し	蚊帳	人事
5354	明治37年	夏の部	石山の旅泊や夏の夕ありき	夏の夕	時候
5355	明治37年	夏の部	夏の夕雨に還御の神輿かな	夏の夕	時候
5356	明治37年	夏の部	百日紅鶏の疫のはやる里	百日紅	植物
5357	明治37年	夏の部	秋近き宵ありきすや陰陽師	秋近し	時候
5358	明治37年	夏の部	冷汁に廬山の雨を偲びけり	冷汁	人事
5359	明治37年	夏の部	草取や瘦田と見ゆる稲の丈	草取り	人事
5361	明治37年	夏の部	軍中の節度涼しき事ばかり	涼し	時候
5362	明治37年	夏の部	山の幸兄は照射に出てゝ行く	照射	人事
5363	明治37年	夏の部	雷落ちし官山の杉伐らせけり	雷	天文
5364	明治37年	夏の部	苔の花佛足石を冒しけり	苔の花	植物
5365	明治37年	夏の部	支那の人簞食の禮や夏柳	夏柳	植物
5366	明治37年	夏の部	夏書の間只山僧の入るを許す	夏書	人事
5367	明治37年	夏の部	將軍の磊落として一夜酒	甘酒	人事
5368	明治37年	夏の部	不二小屋の曉深き鑽火かな	富士詣	人事
5369	明治37年	夏の部	水辺やおどろ / \ と不二行人	富士垢離	人事
5370	明治37年	夏の部	富士垢離や赤星の影清らかに	富士垢離	人事
5371	明治37年	夏の部	朔日の行事かしこし富士の坊	富士詣	人事
5372	明治37年	夏の部	語りつぎ云ひつぎ富士の道者哉	富士詣	人事
5373	明治37年	夏の部	高山を前に控へて青すだれ	青簾	人事
5374	明治37年	夏の部	小説の女に似たり青すだれ	青簾	人事
5375	明治37年	夏の部	青すだれ酒に琥珀の光あり	青簾	人事
5376	明治37年	夏の部	青簾古器を並べて樂めり	青簾	人事
5377	明治37年	夏の部	青すだれ衣桁の衣のあからさま	青簾	人事
5378	明治37年	夏の部	大勢に膾料理や青すだれ	青簾	人事
5379	明治37年	夏の部	青すだれ清女が老を覗きけり	青簾	人事
5380	明治37年	夏の部	青すだれ寂寞として古佛像	青簾	人事
5381	明治37年	夏の部	青すだれ老僧まかり出にけり	青簾	人事
5382	明治37年	夏の部	青簾松の風の寒き程	青簾	人事
5383	明治37年	夏の部	葉桜やよき水を射る日の光	葉櫻	植物
5384	明治37年	夏の部	一陣の風千木の幟かな	幟	人事
5385	明治37年	夏の部	草の上に招魂壇や羽蟻飛ぶ	羽蟻	動物
5386	明治37年	夏の部	衣更南枝に巢ふ鳥悲し	更衣	人事
5387	明治37年	夏の部	浮巢すゞし真菰の中の朝月夜	真菰	植物
5388	明治37年	夏の部	うはゝみの鱗を見たる照射哉	蛇	動物
5390	明治37年	夏の部	はかなさは青梅落つと見たりけり	梅の實	植物
5391	明治37年	夏の部	僧よりも高き芭蕉の巻葉哉	芭蕉玉巻	植物
5392	明治37年	夏の部	衣更皆うつくしき兒ばかり	更衣	人事
5393	明治37年	夏の部	うつくしき兒そろへたる袷かな	袷	人事
5394	明治37年	夏の部	月の暈牡丹くづるゝ夜なりけり	牡丹	植物
5395	明治37年	夏の部	夏やすみ妹としたしむ林檎哉	夏休み	人事
5396	明治37年	夏の部	雲割れて河骨の黄にさす日かな	河骨	植物
5397	明治37年	夏の部	さらし井の不浄を神に恐れけり	井戸替え	人事
5398	明治37年	夏の部	蘭湯の浴終へて君王に侍す	蘭湯	人事
5399	明治37年	夏の部	夏の夕とぎすましたる翌日の鎌	夏の夕	時候

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5400	明治37年	夏の部	夏の夕清女が老を過ぎりけり	夏の夕	時候
5401	明治37年	夏の部	夏の夕虹あか / \ と山にあり	夏の夕	時候
5402	明治37年	夏の部	草の香に折ふし咽ぶ鹿の子哉	鹿の子	動物
5403	明治37年	夏の部	沢蘭に下りて遊べる鹿の子哉	鹿の子	動物
5404	明治37年	夏の部	梅雨晴の芝に鹿の子の蹄かな	鹿の子	動物
5405	明治37年	夏の部	社地ひろし鹿の子に馴れて飛燕	鹿の子	動物
5406	明治37年	夏の部	神木の露に驚く鹿の子哉	鹿の子	動物
5407	明治37年	夏の部	蚊帳して帝玉山頰れけり	蚊帳	人事
5408	明治37年	夏の部	兄弟が寝静まりたる蚊帳哉	蚊帳	人事
5409	明治37年	夏の部	竹の子の皮脱く頃を赦免かな	竹の皮脱ぐ	植物
5410	明治37年	夏の部	帽を振る登山の連や青すゝき	青芒	植物
5411	明治37年	夏の部	夏瘦の猶手に積かず青表紙	夏瘦	人事
5412	明治37年	夏の部	よく育つ南瓜の花も大也	南瓜の花	植物
5413	明治37年	夏の部	行先に誰かは知らずともしかな	照射	人事
5414	明治37年	夏の部	維レ子子乾坤 / \ とふる	子子	動物
5415	明治37年	夏の部	朝々や青田に夏の日を拜す	青田	地理
5416	明治37年	夏の部	山の裾頓に開けて青田哉	青田	地理
5417	明治37年	夏の部	街道の埃かゝらぬ青田かな	青田	地理
5418	明治37年	夏の部	松明照す道の左右の青田哉	青田	地理
5419	明治37年	夏の部	雨上り水漫々と青田哉	青田	地理
5420	明治37年	夏の部	鍋祭筑摩の荘の美婦一人	筑摩祭	人事
5421	明治37年	夏の部	ねんごろの男一人や鍋祭	筑摩祭	人事
5422	明治37年	夏の部	卯の花や艶なる人の筑摩鍋	筑摩祭	人事
5423	明治37年	夏の部	催馬樂を謡ふ筑摩の祭人	筑摩祭	人事
5424	明治37年	夏の部	やごとなき神業にして筑摩鍋	筑摩祭	人事
5425	明治37年	夏の部	蝸たれて百合の花ほのかに白し	百合	植物
5426	明治37年	夏の部	百合さげて見知らぬ人の滝見哉	百合	植物
5427	明治37年	夏の部	等閑に百合も挿したるかほりか南	百合	植物
5428	明治37年	夏の部	百合活けて坐を立去りし美人哉	百合	植物
5429	明治37年	夏の部	百合の花美人の顔に映じけり	百合	植物
5430	明治37年	夏の部	水代へて残少なや冷瓜	冷瓜	人事
5431	明治37年	夏の部	蛛の困のうたて覚ゆる御墓哉	蜘蛛	動物
5656	明治38年	夏の部	初茄子や世人は知らず俳体歌	茄子	植物
5657	明治38年	夏の部	妹が子は夏蚕の桑に納涼みけり	納涼	人事
5658	明治38年	夏の部	騎射の日の晨晴れたる翠微哉	騎射	人事
5659	明治38年	夏の部	弱冠にして出家す蓮の浮葉哉	蓮の浮葉	植物
5660	明治38年	夏の部	卯の花の家なる美婦を盗みけり	卯の花	植物
5661	明治38年	夏の部	夏浅き菟黄の山や湖の上	夏浅し	時候
5662	明治38年	夏の部	慵しや秋に近づく氷室守	氷室	人事
5663	明治38年	夏の部	盗人の跡に柘榴の落花哉	石榴の花	植物
5664	明治38年	夏の部	腹かけの紺の匂や心太	心太	人事
5665	明治38年	夏の部	箏に脾肉見せけり蝸牛	蝸牛	動物
5666	明治38年	夏の部	家に居て竹をうゑけり太史公	竹植る	人事
5667	明治38年	夏の部	竹うゑて猶紫陽花を存しけり	竹植る	人事
5668	明治38年	夏の部	絃誦の声を後ろや竹植うる	竹植る	人事
5669	明治38年	夏の部	蘇子が子ら退いて賦す種竹の詩	竹植る	人事
5670	明治38年	夏の部	竹うゑて二日三日や月円か	竹植る	人事
5671	明治38年	夏の部	虎溪よりかへす獨や木下闇	木下闇	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5672	明治38年	夏の部	挺ンでし朴の葉音や木下闇	木下闇	植物
5673	明治38年	夏の部	木下闇皆黄檗の法師原	木下闇	植物
5674	明治38年	夏の部	下闇や木を白うして文字を書く	木下闇	植物
5675	明治38年	夏の部	下闇や幻住菴へ二三人	木下闇	植物
5676	明治38年	夏の部	夏の月槐に深き住居かな	夏の月	天文
5677	明治38年	夏の部	雨ほしき暮となりけり菫の花	菫の花	植物
5678	明治38年	夏の部	游泳の戻りを咲きぬ月見草	月見草	植物
5679	明治38年	夏の部	朝月に浮巢の雛の眼あけり	浮巢	動物
5680	明治38年	夏の部	萬骨の枯れて蟻螂生れけり	蟻螂生る	動物
5681	明治38年	夏の部	潮浴びて新月かゝる頃しもや	海水浴	人事
5682	明治38年	夏の部	衣ぬいで蛇且つ所得顔かな	蛇衣を脱ぐ	動物
5683	明治38年	夏の部	水吹けば團扇もぬれつ蚊やり草	蚊遣	人事
5684	明治38年	夏の部	朝草を荷ひ渉るや夏の川	夏の川	地理
5685	明治38年	夏の部	流るゝに任す扇や河納涼	納涼	人事
5686	明治38年	夏の部	簾木の宿とこそ聞け月見草	月見草	植物
5687	明治38年	夏の部	夏衣念佛心起りけり	夏衣	人事
5688	明治38年	夏の部	蠅打て又や草廬を立去りぬ	蠅	動物
5689	明治38年	夏の部	霍乱の人に修法や泉殿	霍乱	人事
5690	明治38年	夏の部	夏瘦の朝暮に花を活けにけり	夏瘦	人事
5691	明治38年	夏の部	夏瘦の夜を親しむ獨坐かな	夏瘦	人事
5692	明治38年	夏の部	夏やせの水澄む頃に及びけり	夏瘦	人事
5693	明治38年	夏の部	夏瘦の人や文月の句を想ふ	夏瘦	人事
5694	明治38年	夏の部	夏瘦や庭の梧桐の頼もしき	夏瘦	人事
5695	明治38年	夏の部	筍や既に春蔬の氣を厭ふ	筍	植物
5696	明治38年	夏の部	牡丹見る人驚かす毛虫かな	毛蟲	動物
5697	明治38年	夏の部	白牡丹白きを穢す毛虫哉	毛蟲	動物
5698	明治38年	夏の部	洗鯉客は当世の七才子	洗鯉	人事
5699	明治38年	夏の部	山開晴れて風鳴る頭上哉	山開	人事
5700	明治38年	夏の部	葉柳の枝伐落す浅き水	夏柳	植物
5701	明治38年	夏の部	病葉や銀杏に高き卯月の日	病葉	植物
5702	明治38年	夏の部	薰風や處せきまで金魚盤	薰風	天文
5703	明治38年	夏の部	萬木の皆日に向ふ若葉哉	若葉	植物
5704	明治38年	夏の部	五月雨に押流さるゝあやめ哉	あやめ	植物
5705	明治38年	夏の部	五月晴大河を照す斜陽かな	五月晴	天文
5706	明治38年	夏の部	木隠れに大佛近く鹿の子哉	鹿の子	動物
5707	明治38年	夏の部	折ふしの肱笠雨や田植人	田植	人事
5708	明治38年	夏の部	喝采や花踏みちらすくらべ馬	競馬	人事
5709	明治38年	夏の部	昔男女ありけり鍋祭	筑摩祭	人事
5710	明治38年	夏の部	蓴採り舟を停めて語りけり	蓴菜	植物
5711	明治38年	夏の部	貧しくて青唐辛子潔し	青唐辛子	植物
5712	明治38年	夏の部	沙弥が来て青唐辛子貰ひけり	青唐辛子	植物
5713	明治38年	夏の部	花茨五月の晴と成にけり	茨の花	植物
5714	明治38年	夏の部	軾や轍や竹うゝる記を作りけり	竹植る	人事
5716	明治38年	夏の部	君に贈るつるぎに清水そゝぎけり	清水	地理
5717	明治38年	夏の部	川狩や夜はほのくゝと君が顔	川狩	人事
5718	明治38年	夏の部	麦秋の狼煙頻りにあがりけり	麦の秋	時候
5719	明治38年	夏の部	夕立のしぶきかしこし宮柱	夕立	天文
5720	明治38年	夏の部	雨やどり椎ばかりなる涼しさよ	涼し	時候

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5721	明治38年	夏の部	獨居の芭蕉に黙す麦こがし	麦焦し	人事
5722	明治38年	夏の部	雷に賢聖障子震ひけり	雷	天文
5723	明治38年	夏の部	青々と朝露垂るゝ胡瓜哉	瓜	植物
5724	明治38年	夏の部	夏山や敵の輜重のあり所	夏山	地理
5725	明治38年	夏の部	夏山や一あめすぐる宇治の町	夏山	地理
5726	明治38年	夏の部	夕立に芭蕉忽ちほぐれけり	夕立	天文
5727	明治38年	夏の部	温泉の宿がくれし金魚かな	金魚	動物
5728	明治38年	夏の部	三文の茄子五文の瓜も涼し	雑	雑
6045	明治39年	夏の部	その鳴くや佝屈として藁	藁	動物
6046	明治39年	夏の部	千載に一たび舞はむ藁	藁	動物
6047	明治39年	夏の部	藜伐て貧しき中に盟ひけり	藜	植物
6048	明治39年	夏の部	粽結ふ女の心付りけり	粽	人事
6049	明治39年	夏の部	青眼のあるじや梅の実をかぢる	梅の實	植物
6050	明治39年	夏の部	藁を獲て筆を絶ちけり奇人僧	藁	動物
6051	明治39年	夏の部	舊跡や畑とならば紅の花	紅花	植物
6052	明治39年	夏の部	二頃の田青鷺も居て我富めり	青鷺	動物
6053	明治39年	夏の部	百貫の銭を荷へり夏木立	夏木立	植物
6054	明治39年	夏の部	衣更て人を遠きに懐ひけり	更衣	人事
6055	明治39年	夏の部	時鳥啼く頃の花さへ悲し	時鳥	動物
6056	明治39年	夏の部	清新の句を酬ひけり鮎の客	鮎	人事
6057	明治39年	夏の部	鮎なれて故人再び通りけり	鮎	人事
6058	明治39年	夏の部	我を以て貧しとなさず鮎の鮎	鮎	人事
6059	明治39年	夏の部	鮎の鮎少かに足らず朋の來る	鮎	人事
6060	明治39年	夏の部	今來んとばかりになれつ一夜すし	鮎	人事
6061	明治39年	夏の部	野の宮は蟲さへ飛ばず青簾	青簾	人事
6062	明治39年	夏の部	青簾偶々過ぐる白頭翁	青簾	人事
6063	明治39年	夏の部	黄昏の月逗るや青すたれ	青簾	人事
6064	明治39年	夏の部	青簾夏行の心定まりぬ	青簾	人事
6065	明治39年	夏の部	青簾花を隔てゝ賣花翁	青簾	人事
6066	明治39年	夏の部	子を持たぬ鶉飼か妻の化粧哉	鶉飼	人事
6068	明治39年	夏の部	鶉を縦つ事壮伎を凌ぎけり	鶉	動物
6069	明治39年	夏の部	六國の相印我に鶉繩かな	鶉	動物
6070	明治39年	夏の部	年々の鶉同じからず鶉川哉	鶉	動物
6071	明治39年	夏の部	花むしろ織りちらしたる晝寐哉	晝寝	人事
6072	明治39年	夏の部	うきくさに水まさりけり朝の程	萍	植物
6073	明治39年	夏の部	うき草の花吹く風に吹かれけり	萍	植物
6074	明治39年	夏の部	うき草の花に盛をわびにけり	萍	植物
6075	明治39年	夏の部	うき草の花に負きて小魚見ゆ	萍	植物
6076	明治39年	夏の部	うき草に早しのゝめの花白し	萍	植物
6077	明治39年	夏の部	商人の衣を汚しぬ沖膾	沖膾	人事
6078	明治39年	夏の部	沖膾一ト日脂粉を遠ざくる	沖膾	人事
6079	明治39年	夏の部	丈草は詩を作りけり沖膾	沖膾	人事
6080	明治39年	夏の部	酒壺の古きに対す沖膾	沖膾	人事
6081	明治39年	夏の部	逸興や俄かに作る沖膾	沖膾	人事
6082	明治39年	夏の部	鯉幟庭樹の露を拂ひけり	鯉幟	人事
6083	明治39年	夏の部	青梅に興や一家の詩を作る	梅の實	植物
6084	明治39年	夏の部	けし散るを惜む主人やはたゝ神	雷	天文
6085	明治39年	夏の部	矢叫に脅かされし夏野哉	夏野	地理

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6086	明治39年	夏の部	蝶一つ遠く吹かれし夏野哉	夏野	地理
6087	明治39年	夏の部	慇懃にすや梅干の壺一つ	梅干す	人事
6088	明治39年	夏の部	衣ぬいで此野を蛇の行方哉	蛇衣を脱ぐ	動物
6089	明治39年	夏の部	口辯のいやしげならず夏羽織	夏羽織	人事
6091	明治39年	夏の部	撫子やこゝに人待つ松林	撫子	植物
6092	明治39年	夏の部	撫子や土手の窪みの草の中	撫子	植物
6093	明治39年	夏の部	撫子に水を求めてありきけり	撫子	植物
6094	明治39年	夏の部	撫子に蕨の茂りや毒うつぎ	撫子	植物
6095	明治39年	夏の部	撫子に砂はねかへず轍かな	撫子	植物
6096	明治39年	夏の部	撫子の淡々しきや宵の星	撫子	植物
6097	明治39年	夏の部	草臥や鼻の先なる野撫子	撫子	植物
6098	明治39年	夏の部	堀切の新道涼し野撫子	撫子	植物
6099	明治39年	夏の部	汐風を遮って松に野撫子	撫子	植物
6100	明治39年	夏の部	水辺の夕撫子や露早し	撫子	植物
6102	明治39年	夏の部	蝉涼し門に車を入れしめず	蝉	動物
6103	明治39年	夏の部	車下りて蝉なく方へ寺涼し	蝉	動物
6104	明治39年	夏の部	案内の坊主に蝉のいばり哉	蝉	動物
6105	明治39年	夏の部	物干して庫裡に人なし蝉時雨	蝉	動物
6106	明治39年	夏の部	梅干はすいぞ / \ と蝉の声	蝉	動物
6107	明治39年	夏の部	蝉木立出あるく僧に拶着す	蝉	動物
6108	明治39年	夏の部	墓守の蹲まる背や蝉涼し	蝉	動物
6109	明治39年	夏の部	傳法の松や飛つく蝉唾なり	蝉	動物
6110	明治39年	夏の部	かしましき蝉ふかれ落つ青田哉	蝉	動物
6111	明治39年	夏の部	象潟は埋れて蝉の声あつし	蝉	動物
6113	明治39年	夏の部	逢戀を柳の妬水馬	水馬	動物
6114	明治39年	夏の部	蛇莓草にかくるゝ朽木かな	蛇莓	植物
6115	明治39年	夏の部	白鹿の其子は人に射られけり	鹿の子	動物
6116	明治39年	夏の部	昼眠る鹿の子に銀杏若葉	鹿の子	動物
6117	明治39年	夏の部	長明が家は若葉にかくれけり	若葉	植物
6118	明治39年	夏の部	草清水薬の紙を飛ばしけり	清水	地理
6119	明治39年	夏の部	人わるく顔を見せじと日傘哉	日傘	人事
6120	明治39年	夏の部	短夜の人に後れし渡シかな	短夜	時候
6121	明治39年	夏の部	牡丹活けて菴の古きに籠りけり	牡丹	植物
6122	明治39年	夏の部	雲の峰旅行く君が笠の上	雲の峰	天文
6123	明治39年	夏の部	渺々の水を吹き来る田植歌	田植	人事
6124	明治39年	夏の部	夏の暁の夕の霞や幟竿	幟	人事
6125	明治39年	夏の部	姉妹の餉を分つ田植哉	田植	人事
6126	明治39年	夏の部	青丹よし奈良を出れば雲の峰	雲の峰	天文
6127	明治39年	夏の部	客一人牡丹をして俗ならしめず	牡丹	植物
6128	明治39年	夏の部	身を修め家を齊へ昼寐哉	晝寝	人事
6129	明治39年	夏の部	山苜蒿の花に出そめし蚊蚊かな	蚊	動物
6130	明治39年	夏の部	橘の香をなつかしみ鳴蚊かな	蚊	動物
6131	明治39年	夏の部	昼の蚊の窺ひよるや讀書人	蚊	動物
6132	明治39年	夏の部	一穗の灯ざしや遠く蚊鳴去る	蚊	動物
6133	明治39年	夏の部	夜な / \ の五車の反古に鳴蚊哉	蚊	動物
6134	明治39年	夏の部	鮎の石其頑ナを守りけり	鮎	人事
6135	明治39年	夏の部	栂の花愚かなる子を遊ばしむ	栂の花	植物
6136	明治39年	夏の部	栂の花よべの狸を打ちし跡	栂の花	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6137	明治39年	夏の部	柿の花掃きも棄つべき流あり	柿の花	植物
6138	明治39年	夏の部	衣濯ぐ智月が宿や柿の花	柿の花	植物
6139	明治39年	夏の部	蚊帳貰うて去来戻りぬ柿の花	柿の花	植物
6140	明治39年	夏の部	運ぶべき甕に夕日や柿の花	柿の花	植物
6141	明治39年	夏の部	加茂を出て日にあたりたる葵哉	葵	植物
6142	明治39年	夏の部	加茂の子が戯れかざす葵かな	葵	植物
6143	明治39年	夏の部	葵かけて糺の水に鑑みぬ	葵	植物
6144	明治39年	夏の部	枯葵清少納言老いにけり	葵	植物
6145	明治39年	夏の部	葵かざす蒼生や神の國	葵	植物
6146	明治39年	夏の部	氷室守老いて帝の御幸哉	氷室	人事
6147	明治39年	夏の部	氷室見て氷の髓を思ひけり	氷室	人事
6148	明治39年	夏の部	養老の滝の上なる氷室哉	氷室	人事
6149	明治39年	夏の部	氷室開く吉き日の旭上りけり	氷室	人事
6150	明治39年	夏の部	百合の花活々として氷室山	氷室	人事
6151	明治39年	夏の部	水鶏啼くや郷先生の碑のあたり	水鶏	動物
6152	明治39年	夏の部	鶉を縦つ人壯ン也鬢の霜	鶉	動物
6153	明治39年	夏の部	綿打によき娘あり棉の花	棉の花	植物
6154	明治39年	夏の部	白蓮の咲きしが特に骨立ちぬ	蓮	植物
6155	明治39年	夏の部	一村や麻より低き家ばかり	麻	植物
6156	明治39年	夏の部	雲水と挨拶しけり麻頭巾	麻頭巾	人事
6157	明治39年	夏の部	一宿して立去る君や麻頭巾	麻頭巾	人事
6158	明治39年	夏の部	麻頭巾白眼に人通りけり	麻頭巾	人事
6159	明治39年	夏の部	高山の嵐や夏の蝶あがる	夏の蝶	動物
6160	明治39年	夏の部	夕顔に人まだ早し辻説法	夕顔	植物
6161	明治39年	夏の部	合歡咲くや日はあか / \ と西の海	合歡の花	植物
6162	明治39年	夏の部	雨乞の人むら / \ と登山哉	雨乞	人事
6163	明治39年	夏の部	一盆の水くつがへす簞	簞	人事
6164	明治39年	夏の部	寺深く微涼を慕ひ至りけり	涼し	時候
6165	明治39年	夏の部	夏菊にまゆ商人をもてなしぬ	夏菊	植物
6166	明治39年	夏の部	朝露や晒し遺れし晒菅	菅刈	人事
6167	明治39年	夏の部	露おくや踏まれずにある晒菅	菅刈	人事
6168	明治39年	夏の部	葭簞して藍扱く女白かりし	藍扱く	人事
6169	明治39年	夏の部	野の村や麻より低き家ばかり	麻	植物
6171	明治39年	夏の部	昼顔のからまるものも無かりけり	晝顔	植物
6173	明治39年	夏の部	臙の蚊を打つたびに我句は成りぬ	蚊	動物
6174	明治39年	夏の部	南瓜咲いて民の愠りの解けにけり	南瓜の花	植物
6175	明治39年	夏の部	南瓜作る南瓜の花が咲きにけり	南瓜の花	植物
6176	明治39年	夏の部	万卷の書を讀破しぬ心太	心太	人事
6177	明治39年	夏の部	藁鳴くや家に焚餘の書を藏む	藁	動物
6178	明治39年	夏の部	書庫を出る洒掃の子や今年竹	若竹	植物
6179	明治39年	夏の部	葛藁の輩ラ涼し書を讀む	涼し	時候
6180	明治39年	夏の部	白蓮や一日外典に目をさらす	蓮	植物
6181	明治39年	夏の部	五車の蠹魚と我老にけり簞	簞	人事
6182	明治39年	夏の部	江山を藏めて涼し書庫の中	涼し	時候
6478	明治40年	夏の部	花に負き句を鬪はず牡丹かな	牡丹	植物
6479	明治40年	夏の部	目に残る扇流や河鹿鳴く	河鹿	動物
6480	明治40年	夏の部	夏山に居て材木の荒削り	夏山	地理
6481	明治40年	夏の部	先生の爲に蚊火焚く夜学哉	蚊遣	人事

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6482	明治40年	夏の部	蚊やり草薫と蕓とを分ちけり	蚊遣	人事
6483	明治40年	夏の部	籠り人少れに来る蚊に起きてあり	蚊	動物
6484	明治40年	夏の部	湯上りや妻が刈来る蚊やり草	蚊遣	人事
6485	明治40年	夏の部	一片の心蚊をやく故人かな	蚊遣	人事
6486	明治40年	夏の部	白頭の今に苦吟や蚊を悪む	蚊	動物
6487	明治40年	夏の部	今朝とりし菊の葉の虫や雹がふる	雹	天文
6488	明治40年	夏の部	百合を折る一時の興や峠越え	百合	植物
6489	明治40年	夏の部	たが家の墓所や大きな百合の花	百合	植物
6490	明治40年	夏の部	百合活けて山野の氣味を覚えけり	百合	植物
6491	明治40年	夏の部	夏の日を恐るゝ人や百合の花	百合	植物
6492	明治40年	夏の部	蕓の谷行く / \ 百合の山路哉	百合	植物
6493	明治40年	夏の部	風に偃す草と異り百合の花	百合	植物
6494	明治40年	夏の部	野百合咲いて軍兵の目を涼しくす	百合	植物
6495	明治40年	夏の部	山裾の岬の幟吹かれけり	幟	人事
6496	明治40年	夏の部	夏山や騾といふ馬牽来る	夏山	地理
6497	明治40年	夏の部	短夜の事かきそへつ文のはし	短夜	時候
6498	明治40年	夏の部	述懐の洒々落々と明易き	短夜	時候
6499	明治40年	夏の部	地氣動くところ果して清水かな	清水	地理
6500	明治40年	夏の部	劍客と袂を分つ清水かな	清水	地理
6501	明治40年	夏の部	夜出でしけものゝ跡や草しみず	清水	地理
6502	明治40年	夏の部	商人の錢鳴らしけり岩清水	清水	地理
6503	明治40年	夏の部	人絶えて溢るゝばかり清水哉	清水	地理
6504	明治40年	夏の部	滴りの金石にしむ清水かな	清水	地理
6505	明治40年	夏の部	清水湧く一路当帰の茂かな	清水	地理
6506	明治40年	夏の部	日光の草に洽き清水哉	清水	地理
6507	明治40年	夏の部	村の子の草くゞり行く清水哉	清水	地理
6508	明治40年	夏の部	村塾の罰則清水汲ましめぬ	清水	地理
6509	明治40年	夏の部	あけやすく既に幟の二三本	幟	人事
6510	明治40年	夏の部	牡丹さげて競馬の泥を避けにけり	牡丹	植物
6512	明治40年	夏の部	行々子も鳴かず豊葦原の國	行々子	動物
6513	明治40年	夏の部	海濶の二字を題しぬ冲膾	冲膾	人事
6514	明治40年	夏の部	賓客の到りまもなく夕立哉	夕立	天文
6515	明治40年	夏の部	蓬生やかゝる小家に金魚玉	金魚玉	人事
6516	明治40年	夏の部	象潟の鶴は返らぬ青田哉	青田	地理
6517	明治40年	夏の部	松葉ちる一々法の韻きかな	松落葉	植物
6518	明治40年	夏の部	經藏を風に開くや松落葉	松落葉	植物
6519	明治40年	夏の部	萍や木深く見えて城戸の趾	萍	植物
6520	明治40年	夏の部	萍に生れしと見る虫のとぶ	萍	植物
6521	明治40年	夏の部	萍や鐘は水樹に隠見す	萍	植物
6522	明治40年	夏の部	浮草や蟬鳴く森を水の上	萍	植物
6523	明治40年	夏の部	浮草に新たに蓮の巻葉哉	萍	植物
6524	明治40年	夏の部	萍に立よりてやゝ吹かれけり	萍	植物
6525	明治40年	夏の部	萍に蚊火の烟の消にけり	萍	植物
6526	明治40年	夏の部	萍も土用の花と咲にけり	萍	植物
6527	明治40年	夏の部	萍のはびこるまゝや水平	萍	植物
6528	明治40年	夏の部	虫干の室に隣りて謡かな	蟲干	人事
6529	明治40年	夏の部	虫干や天地に留む一詩巻	蟲干	人事
6530	明治40年	夏の部	葛藟の何にさゝやく曝書哉	蟲干	人事

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6531	明治40年	夏の部	書をさらし終る松風蘿月哉	蟲干	人事
6532	明治40年	夏の部	蝉鳴くと行く道の辺の泉哉	蝉	動物
6533	明治40年	夏の部	蝉すゞし山に不断の法の声	蝉	動物
6534	明治40年	夏の部	清淨の身を蟬のなく下山哉	蝉	動物
6535	明治40年	夏の部	涼しげに蟬聴ゝおはすとも見えず	蝉	動物
6536	明治40年	夏の部	山深きかしこさよ蟬鳴くさへも	蝉	動物
6537	明治40年	夏の部	此山の巨人の跡や雨祈る	雨乞	人事
6538	明治40年	夏の部	雨乞の地をトす崖の青すゝき	雨乞	人事
6539	明治40年	夏の部	雨祈るこの大木を力かな	雨乞	人事
6540	明治40年	夏の部	雨乞の人狼籍す百合の花	雨乞	人事
6541	明治40年	夏の部	人泊めし蚊帳の釣手も名残哉	蚊帳	人事
6542	明治40年	夏の部	白扇に夏菊そへて使かな	夏菊	植物
6543	明治40年	夏の部	夏菊を乞へば主人の吝さかに	夏菊	植物
6544	明治40年	夏の部	夏菊にそゝぐべき水一荷哉	夏菊	植物
6545	明治40年	夏の部	夏菊にまじり剪られつ雑の草	夏菊	植物
6546	明治40年	夏の部	夏菊に人早魃の立咄	夏菊	植物
6547	明治40年	夏の部	うろくつの耳すますらん御祓川	御祓	人事
6548	明治40年	夏の部	七種のみそきの供物星涼し	御祓	人事
6549	明治40年	夏の部	水ナ上の蒼々の樹や御祓川	御祓	人事
6550	明治40年	夏の部	御祓人通ふ草原小石原	御祓	人事
6551	明治40年	夏の部	神の御衣想ふみそぎの水の色	御祓	人事
6552	明治40年	夏の部	御祓川尊きものに瀬を早み	御祓	人事
6553	明治40年	夏の部	御祓川岸辺に長き青すゝき	御祓	人事
6554	明治40年	夏の部	波さわぐ物の恐れや御祓川	御祓	人事
6555	明治40年	夏の部	御祓川雲吹落す嵐山	御祓	人事
6556	明治40年	夏の部	夕祓水ひた / \ と岸辺かな	御祓	人事
6557	明治40年	夏の部	清水近く飯白き宿と記しけり	清水	地理
6558	明治40年	夏の部	猿酒に明易き夜や君が酔	短夜	時候
6559	明治40年	夏の部	朴すゞし君が行季のおきどころ	涼し	時候
6560	明治40年	夏の部	冷酒の酔を忘るな山膾	冷酒	人事
6561	明治40年	夏の部	夏菊の貧を侮りぬ仇し草	夏菊	植物
6562	明治40年	夏の部	百合の香に驚いて相別れけり	百合	植物
6563	明治40年	夏の部	糠漬の浴き別れや瓜茄子	雑	雑
6564	明治40年	夏の部	語合ふ明日の別を灯取虫	灯取蟲	動物
6565	明治40年	夏の部	灯取虫の魂君が草枕	灯取蟲	動物
6566	明治40年	夏の部	夕顔に早く癒つる病かな	夕顔	植物
6567	明治40年	夏の部	鑛毒に遠く夕顔咲にけり	夕顔	植物
6568	明治40年	夏の部	夕兒やいつこ神鳴る宵の癖	夕顔	植物
6569	明治40年	夏の部	相似たり夕兒棚のありどころ	夕顔	植物
6570	明治40年	夏の部	夕兒を見つ刈にゆく蚊やり草	夕顔	植物
6571	明治40年	夏の部	納涼する塩噌の外の一問哉	納涼	人事
6573	明治40年	夏の部	夏菊の家一つ舟果にけり	夏菊	植物
6574	明治40年	夏の部	今日の瀬の鮎居ずなりし故郷哉	鮎	動物
6575	明治40年	夏の部	吾を知る人や乏しき鮎くれし	鮎	動物
6576	明治40年	夏の部	鮎くるゝ人に鄙吝の心なし	鮎	動物
6577	明治40年	夏の部	見下ろすや鮎つる人に岩高き	鮎	動物
6578	明治40年	夏の部	山に居る官人に鮎乞はれけり	鮎	動物
6579	明治40年	夏の部	鮎を釣る朝のいとまや川近き	鮎	動物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6580	明治40年	夏の部	山門の金剛玉や麦埃り	麦打ち	人事
6840	明治41年	夏の部	編笠に月照るばかり夜道かな	編笠	人事
6841	明治41年	夏の部	花苗のあだに伸びたり田植過	田植	人事
6842	明治41年	夏の部	心太すすって自問自答かな	心太	人事
6843	明治41年	夏の部	わが家の藏書乏しうして涼し	涼し	時候
6844	明治41年	夏の部	喬木の生立ち涼し沢一つ	涼し	時候
6845	明治41年	夏の部	風蓮雨蓮此意を以て詩を品す	蓮	植物
6846	明治41年	夏の部	山郭やこの一筋の御祓川	御祓	人事
6847	明治41年	夏の部	繭屑のえり屑も満つ古麻小筥	繭	人事
6848	明治41年	夏の部	硯賣重荷卸すやまゆむしろ	繭	人事
6849	明治41年	夏の部	詩の意公主に媚ぶや鬪草	鬪草	人事
6850	明治41年	夏の部	雨雲の千里百里や鬪草	鬪草	人事
6851	明治41年	夏の部	齷齪と世に處る人や蚤一つ	蚤	動物
6852	明治41年	夏の部	たちぎわの朝雷や蚤の宿	蚤	動物
6853	明治41年	夏の部	洪水を見に早起や蚤の宿	蚤	動物
6854	明治41年	夏の部	目ふさげばきのふの花やのみの宿	蚤	動物
6855	明治41年	夏の部	佗人の先づ知る蚤や花うつき	蚤	動物
6856	明治41年	夏の部	夏の雨浴びて尚釣るけしきかな	夏の雨	天文
6857	明治41年	夏の部	聞知らぬ農話の興や夏の雨	夏の雨	天文
6858	明治41年	夏の部	一炉けぶる幻住庵や夏の雨	夏の雨	天文
6859	明治41年	夏の部	夏の雨牧畜の構大なり	夏の雨	天文
6860	明治41年	夏の部	けしの如く敦盛死して夏の雨	夏の雨	天文
6861	明治41年	夏の部	野辺送三百人や草茂る	草茂る	植物
6862	明治41年	夏の部	茂りゆく山辺薄命佳人すむ	茂り	植物
6864	明治41年	夏の部	一草の茂れるも一伽藍かな	草茂る	植物
6865	明治41年	夏の部	羅や花活けて妻の主ぶる	羅	人事
6866	明治41年	夏の部	さをとめの早起の戸や水鶏啼く	早乙女	人事
6867	明治41年	夏の部	新妻の顔の黒子や鮓を押す	鮓	人事
6868	明治41年	夏の部	隣人の何に竹割る明易き	短夜	時候
6869	明治41年	夏の部	鮎つるとこそ見ゆれ肩聳かす	鮎	動物
6870	明治41年	夏の部	老鶯や行李が届く假の宿	老鶯	動物
6871	明治41年	夏の部	竹植ゑて小酌常と異ならず	竹植る	人事
6872	明治41年	夏の部	なべて家は桜青葉や竹植うる	竹植る	人事
6873	明治41年	夏の部	桃の実は兒孫の汁や竹植うる	竹植る	人事
6874	明治41年	夏の部	半日小集竹植しつかれあり	竹植る	人事
6875	明治41年	夏の部	来べき人来ずと文あり竹うゝる	竹植る	人事
6876	明治41年	夏の部	大なる泉を控え酒煮哉	煮酒	人事
6877	明治41年	夏の部	露茂る里見に來れば酒煮哉	煮酒	人事
6878	明治41年	夏の部	花にそゝぐ夕や酒煮の家あるじ	煮酒	人事
6879	明治41年	夏の部	椎一木酒煮の僕こそりけり	煮酒	人事
6880	明治41年	夏の部	酒煮祝ふお僧尊くおはしけり	煮酒	人事
6881	明治41年	夏の部	斯道の絶えずも芭蕉玉をまく	芭蕉玉巻	植物
6882	明治41年	夏の部	夏籠や翊々として虫のとぶ	夏籠	人事
6883	明治41年	夏の部	蛾と化して白き翅や虎が雨	蛾	動物
6884	明治41年	夏の部	蚊柱や馬賣惜む頑に	蚊	動物
6885	明治41年	夏の部	閨と云へど女も棲まざり花	花	植物
6886	明治41年	夏の部	鍛冶もすむ山手の茂文庫見ゆ	茂り	植物
6887	明治41年	夏の部	三ヶ条書庫の掟や蟬すゞし	蟬	動物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6888	明治41年	夏の部	編みさしの図書目録や梅黄ばむ	梅の實	植物
6889	明治41年	夏の部	日上のや降らぬにきまる旱雲	旱	天文
6890	明治41年	夏の部	水をせく石動かすや早村	旱	天文
6891	明治41年	夏の部	神事佛事なき一郷の旱哉	旱	天文
6892	明治41年	夏の部	養魚地に鳥捕る鷓も旱哉	旱	天文
6893	明治41年	夏の部	水源地鬱蒼として早かな	旱	天文
6894	明治41年	夏の部	紙魚出る頃に終りぬ嗟峨日記	紙魚	動物
6895	明治41年	夏の部	打ち / \ し紙魚弔ふや秋隣	紙魚	動物
6896	明治41年	夏の部	愁へては行李のしみをはたきけり	紙魚	動物
6897	明治41年	夏の部	夏箆や肱を曲ぐれば紙魚ひそむ	紙魚	動物
6898	明治41年	夏の部	掃へどもしみ出る事よ諸子百家	紙魚	動物
6899	明治41年	夏の部	はた / \ としみ打つ祖父や晝寐時	紙魚	動物
6900	明治41年	夏の部	硯石の産地の論や百合の花	百合	植物
6901	明治41年	夏の部	打水や虫は書灯の方へ飛ぶ	打水	人事
6902	明治41年	夏の部	打水や怪鳥も来鳴く庭木にて	打水	人事
6903	明治41年	夏の部	小半日習字打水したりけり	打水	人事
6904	明治41年	夏の部	打水の折から一騎通りけり	打水	人事
6905	明治41年	夏の部	打水に猫の子走る庭浅し	打水	人事
6906	明治41年	夏の部	地拓けバ先づ馬鈴薯や夏野原	夏野	地理
6907	明治41年	夏の部	夏野路や沼沿ひときけど沼も見えず	夏野	地理
6908	明治41年	夏の部	放牧の馬に濁れり夏野川	夏野	地理
6909	明治41年	夏の部	蹄跡中窪路の夏野哉	夏野	地理
6910	明治41年	夏の部	松ありて祖師に似し愁ふ夏野かな	夏野	地理
6911	明治41年	夏の部	景にふれて帰山の念や舟遊	舟遊	人事
6912	明治41年	夏の部	桑の実や心に会して古詩をよむ	桑の實	植物
6913	明治41年	夏の部	山荒の話はたごに虹近し	虹	天文
6914	明治41年	夏の部	渡守の後ろ曠野や虹の空	虹	天文
6915	明治41年	夏の部	藻がくれに子鴨うきけり虹明り	虹	天文
6916	明治41年	夏の部	虹うつる山裾道の日傘かな	虹	天文
6917	明治41年	夏の部	層々の山迢々の水虹あかり	虹	天文
7108	明治42年	夏の部	筍に花漬の約償ひぬ	筍	植物
7109	明治42年	夏の部	反古清書筍の皮棄にけり	筍	植物
7110	明治42年	夏の部	提婆品筍の皮剥き落す	筍	植物
7111	明治42年	夏の部	木曾路より音信到る袷かな	袷	人事
7112	明治42年	夏の部	大杯をあぐと誇張の幟かな	幟	人事
7113	明治42年	夏の部	木立出れば馬に鞭つ幟かな	幟	人事
7114	明治42年	夏の部	水攻の河も空しき幟かな	幟	人事
7115	明治42年	夏の部	朴の葉に糧裹む慣ひ幟哉	幟	人事
7116	明治42年	夏の部	家の吉事裁うる門木や幟立つ	幟	人事
7118	明治42年	夏の部	一景に一神守護や雲の峰	雲の峰	天文
7120	明治42年	夏の部	游艸にとむ歌曲や夏柳	夏柳	植物
7122	明治42年	夏の部	此水も此樹も石も風かほる	薰風	天文
7123	明治42年	夏の部	熊笹の刈場を谷のさみだるゝ	五月雨	天文
7124	明治42年	夏の部	五月雨や一物の香炉賣惜む	五月雨	天文
7125	明治42年	夏の部	鷺を射る的なす森や五月雨	五月雨	天文
7126	明治42年	夏の部	女沼男沼通路知らずさみだるゝ	五月雨	天文
7127	明治42年	夏の部	生き死ぬる毛虫羽虫や五月雨	五月雨	天文
7128	明治42年	夏の部	毒草にふれし歎や雨祈る	雨乞	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7129	明治42年	夏の部	神業の雨ふれば峯渡る鹿	雨乞	人事
7130	明治42年	夏の部	請雨法夕に開く花の前	雨乞	人事
7131	明治42年	夏の部	遠雷や筆端に墨みちぬれバ	雷	天文
7132	明治42年	夏の部	河中の根木を漁人の納涼哉	納涼	人事
7133	明治42年	夏の部	夏の山雷落つるけはひ哉	夏山	地理
7134	明治42年	夏の部	百姓の手負いたはる瓜の畑	瓜	植物
7243	明治43年	夏の部	諸木輪講一石黙す夏行かな	安居	人事
7244	明治43年	夏の部	結夏の偈朝に夕に朱を点ず	安居	人事
7245	明治43年	夏の部	一字酬う到来の筆や安居寺	安居	人事
7246	明治43年	夏の部	角なきが如牙なきが如一夏の字	安居	人事
7247	明治43年	夏の部	妄執の焰夏經の頭上かな	安居	人事
7248	明治43年	夏の部	酒をたつ一夏堅固や雲の峰	安居	人事
7249	明治43年	夏の部	つみすつる夏花汲みすつる泉哉	夏花	人事
7251	明治43年	夏の部	夏木描く傍鬼の話哉	夏	時候
7252	明治43年	夏の部	一宿に足る交や露涼し	夏の露	天文
7253	明治43年	夏の部	草木の名を知る誇り蚊火あるじ	蚊遣	人事
7254	明治43年	夏の部	客頻りに山容を賞す蚊やり時	蚊遣	人事
7255	明治43年	夏の部	里蚊やり頃になれば山おろし吹く	蚊遣	人事
7256	明治43年	夏の部	君にけぶる蚊火よと妻のあふきけり	蚊遣	人事
7257	明治43年	夏の部	蚊火に加ふ金泥の反古二三片	蚊遣	人事
7337	明治44年	夏の部	遠まはりして水細に綿の花	綿の花	植物
7338	明治44年	夏の部	馬好きの暮鶏好きの旦綿の花	綿の花	植物
7340	明治44年	夏の部	薫風や露の主人にさそはれて	薫風	天文
7341	明治44年	夏の部	水打て鯉の大きき語りけり	打水	人事
7343	明治44年	夏の部	帰路一字改竄思ふ山清水	清水	地理
7344	明治44年	夏の部	初祖遠忌藪の清水に蹊あり	清水	地理
7345	明治44年	夏の部	柚清水娘の色を白うせり	清水	地理
7346	明治44年	夏の部	響鳴らして人警むる清水哉	清水	地理
7347	明治44年	夏の部	紙魚の如き君と相見る清水哉	清水	地理
7349	明治44年	夏の部	幽明相隔つ話柄や苔清水	清水	地理
7351	明治44年	夏の部	説法ハ瓜の鴉に利くまいぞ	瓜	植物
7430	明治45年	夏の部	此樹あればぞ此里のある夏の月	夏の月	天文
7432	明治45年	夏の部	砧女も其父母もありぬべし	砧	人事
7434	明治45年	夏の部	割前を出さざるまい心太	心太	人事
7436	明治45年	夏の部	水飯をま白しと見る目に涙	水飯	人事
7438	明治45年	夏の部	潭心の寒きより寒し梅の花	梅	植物
7440	明治45年	夏の部	春服やつゝじに匂ふ人の顔	春服	人事
7442	明治45年	夏の部	薬舐る禽にかあらん木下闇	木下闇	植物
7444	明治45年	夏の部	流泉を饒舌と做す簞	簞	人事
7446	明治45年	夏の部	蝉涼し來往に石をふむ流レ	涼し	時候
7448	明治45年	夏の部	遠雷や突兀として起句雄に	雷	天文
7450	明治45年	夏の部	木犀や晨に淡き詩人の灯	木犀	植物
7452	明治45年	夏の部	木がくれて童子も立てり夕紅葉	紅葉	植物
7454	明治45年	夏の部	老松の雪振落し / \	雪	天文
7456	明治45年	夏の部	露の珠を吸尽しけむ螢飛ぶ	螢	動物
7458	明治45年	夏の部	双飛鳥一莖葦よだち寂しうす	夜立ち	天文
7459	明治45年	夏の部	峽を下る箭の舟やよだち雲裂けて	夜立ち	天文
7460	明治45年	夏の部	旱鬼の角砕けよと夕立かな	夕立	天文

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7461	明治45年	夏の部	誰が斧に崇りて深山夕立哉	夕立	天文
7462	明治45年	夏の部	夕立の狼籍たりや里神樂	夕立	天文
7463	明治45年	夏の部	羽うつ鳥の怪異やよだちの水烟	夜立ち	天文
7465	明治45年	夏の部	霹靂として神去りましぬ夏の雲	夏の雲	天文
7467	明治45年	夏の部	早稲の香に天機洩し聞ゆ畏さよ	稲	植物
7469	明治45年	夏の部	九二六五相臨む吉今朝の秋	今朝の秋	時候
7471	明治45年	夏の部	蚊火細う猶寐ねずあり小百姓	蚊遣	人事
7472	明治45年	夏の部	虫掃ふこと丁寧や零墨も	蟲干	人事
7473	明治45年	夏の部	兀ねんと居れば灯取虫一度す	灯取蟲	動物
7474	明治45年	夏の部	時を違へず蝸の啼きいづる	蝸	動物
7475	明治45年	夏の部	秋近き何に指ざす漁者樵者	秋近し	時候
7477	明治45年	夏の部	材木に啼きついて蟬の尚あつし	蟬	動物
7479	明治45年	夏の部	巖踏みし足の埃や鮎の宿	鮎	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5034	明治36年	秋の部	秋立や参合はして朝茶の湯	立秋	時候
5035	明治36年	秋の部	衰や粥の香匂ふけさの秋	今朝の秋	時候
5036	明治36年	秋の部	墓参途に故人と邂逅す	墓参	人事
5037	明治36年	秋の部	墓参竹馬の友の墓荒れたり	墓参	人事
5038	明治36年	秋の部	一銭のみそはき買へり墓参	墓参	人事
5039	明治36年	秋の部	墓参狂女に道をゆつりけり	墓参	人事
5040	明治36年	秋の部	芙蓉黄也家相見てみる知らぬ老	芙蓉	植物
5041	明治36年	秋の部	宮愁や露にたへたる白芙蓉	芙蓉	植物
5042	明治36年	秋の部	秋の螢石山寺の石の上	秋の螢	動物
5043	明治36年	秋の部	なかなか月にあかき夜や扇置く	秋扇	人事
5044	明治36年	秋の部	朝兒や粥煮こぼるゝ獨すみ	朝顔	植物
5045	明治36年	秋の部	朝兒や垣をへだてゝ川千鳥	朝顔	植物
5046	明治36年	秋の部	秋の螢女は夜を淋しがる	秋の螢	動物
5047	明治36年	秋の部	攝待や関羽威名華夏に震ふ	攝待	人事
5048	明治36年	秋の部	分限者の榎も古き門茶哉	攝待	人事
5049	明治36年	秋の部	撰待もはや夕風となりにけり	攝待	人事
5050	明治36年	秋の部	木槿白し一朝雨忽ち晴る	木槿	植物
5051	明治36年	秋の部	とんぼの目蓼の花などうつりけり	蜻蛉	動物
5052	明治36年	秋の部	稲妻は知らず踊のかぶり哉	踊	人事
5053	明治36年	秋の部	七夕や子供は餅をうれしがり	七夕	人事
5054	明治36年	秋の部	蓼の花稲にあいたる雀かな	蓼の花	植物
5055	明治36年	秋の部	人魂や消えて芒の五六尺	芒	植物
5056	明治36年	秋の部	少年の旅の首途や初嵐	初嵐	天文
5057	明治36年	秋の部	新涼に謠ひいでたる美音哉	新涼	時候
5058	明治36年	秋の部	星月夜そばの花咲く関ヶ原	蕎麥花	植物
5059	明治36年	秋の部	虫合はしめに合す雑の虫	虫合	人事
5060	明治36年	秋の部	花芒井手の山吹末かれぬ	芒	植物
5061	明治36年	秋の部	はぜつりの岸の芒を束ねけり	鯊釣	人事
5062	明治36年	秋の部	靱すりや芭蕉は月を見ておはず	靱摺	人事
5063	明治36年	秋の部	梨の皮黍の殻月は傾きぬ	雑	雑
5064	明治36年	秋の部	玉川の鮎さびたりな草紅葉	草錦	植物
5065	明治36年	秋の部	昼のきり四十八滝渡りけり	霧	天文
5066	明治36年	秋の部	秋の人晴れたる山に上りけり	秋	時候
5067	明治36年	秋の部	案山子の手かゝしの足の冷かさ	案山子	人事
5068	明治36年	秋の部	芋くうて即ち梁の國を去る	芋	植物
5069	明治36年	秋の部	京角力江戸の角力と對しけり	角力	人事
5070	明治36年	秋の部	末枯や北風つよく当る山	末枯	植物
5071	明治36年	秋の部	秋晴の夕空さむくなりゆきぬ	秋晴	天文
5072	明治36年	秋の部	花野つきて芒に人のかくれけり	花野	地理
5073	明治36年	秋の部	秋のもの小庵に鱸鮮か也	鱸	動物
5074	明治36年	秋の部	著述家の小間を得て鳴子引	鳴子	人事
5075	明治36年	秋の部	白きもの衣桁の衣も夜寒哉	夜寒	時候
5076	明治36年	秋の部	毛見の衆の芋を貪りくらひけり	毛見	人事
5077	明治36年	秋の部	鳴く虫のみゝじも秋の恋歌かな	蟲	動物
5078	明治36年	秋の部	鶏頭に桐の廣葉の落尽す	鶏頭	植物
5079	明治36年	秋の部	鶏頭に弓引く遊びしたりけり	鶏頭	植物
5080	明治36年	秋の部	門口に野分の後木の葉かな	野分	天文
5081	明治36年	秋の部	月蝕の草木尽く秋也	秋	時候

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5082	明治36年	秋の部	月今宵芙蓉の如き女かな	月	天文
5083	明治36年	秋の部	月むかし烏鵲南に飛ぶを見る	月	天文
5084	明治36年	秋の部	名月や風吹送る子夜の歌	名月	天文
5085	明治36年	秋の部	名月の吾志海の如し	名月	天文
5086	明治36年	秋の部	名月や古人山高きを厭はず	名月	天文
5087	明治36年	秋の部	月今宵ひさごの米もあふれけり	月	天文
5088	明治36年	秋の部	商人は商人兒の月見哉	月見	人事
5089	明治36年	秋の部	鉄笛や月下征人三十萬	月	天文
5090	明治36年	秋の部	月蝕の午前一時やそぞろ寒	そぞろ寒	時候
5091	明治36年	秋の部	秋風や三千年の坐禪石	秋の風	天文
5092	明治36年	秋の部	山買ひて山見めくれバ渡鳥	渡鳥	動物
5093	明治36年	秋の部	新道を馬車の往來やそばの花	蕎麥花	植物
5094	明治36年	秋の部	毛見衆に後るゝ人や囁きぬ	毛見	人事
5095	明治36年	秋の部	寺のちご間に棗を拾ひけり	棗	植物
5096	明治36年	秋の部	市に買ふ夜寒の魚や生きてあり	夜寒	時候
5097	明治36年	秋の部	新走世は草花の好時節	新酒	人事
5098	明治36年	秋の部	さびしさに紅葉を焚いて遊びけり	紅葉	植物
5099	明治36年	秋の部	名月や机の上の梨の影	名月	天文
5100	明治36年	秋の部	紅葉散て巖角いよゝ現はれぬ	散紅葉	植物
5101	明治36年	秋の部	水とれば佛もへちまもなかりけり	糸瓜	植物
5102	明治36年	秋の部	大方の菊きり尽す十三夜	後の月	天文
5103	明治36年	秋の部	行秋の我が病膏肓に入る	行秋	時候
5104	明治36年	秋の部	歡をなすよく幾日ぞ扇置く	秋扇	人事
5105	明治36年	秋の部	扇置いて且作りけり子夜の歌	秋扇	人事
5106	明治36年	秋の部	婆娑と落つ物の葉や蛇穴に入る	蛇穴に入る	動物
5107	明治36年	秋の部	蛇は穴に風落々と鳴りにけり	蛇穴に入る	動物
5108	明治36年	秋の部	穴に入る蛇のまぼろしまんじゅさけ	蛇穴に入る	動物
5109	明治36年	秋の部	蛇穴に入るが如しとトしけり	蛇穴に入る	動物
5110	明治36年	秋の部	其糞奇也蛇穴に入らんとす	蛇穴に入る	動物
5111	明治36年	秋の部	風前の玉樹日の秋人立てり	秋の日	天文
5112	明治36年	秋の部	紅葉深くよき水絶えず流れけり	紅葉	植物
5113	明治36年	秋の部	昔火を噴きし山也むら紅葉	紅葉	植物
5114	明治36年	秋の部	絶頂にめづらしき紅葉一木かな	紅葉	植物
5115	明治36年	秋の部	日の光白き野分の雲間哉	野分	天文
5116	明治36年	秋の部	秋風の刀段々と折れにけり	秋の風	天文
5117	明治36年	秋の部	蓬萊や木実遊ぶ童男女	木の實	植物
5118	明治36年	秋の部	虫いろ / \ 戀なればこそみゝづ鳴け	蟲	動物
5119	明治36年	秋の部	恋無常秋の夕となりけり	秋の暮	時候
5121	明治36年	秋の部	秋の山此国豆の如くなり	秋の山	地理
5123	明治36年	秋の部	草の実も木の実も俳諧秋の季ぞ	雑	雑
5125	明治36年	秋の部	猶存す芭蕉葉上古時の花	芭蕉	植物
5126	明治36年	秋の部	芭蕉花あり又碧巖を把て讀む	芭蕉の花	植物
5127	明治36年	秋の部	松間に寺あり芭蕉花ひらく	芭蕉の花	植物
5128	明治36年	秋の部	花をつけし芭蕉や小鳥親まず	芭蕉の花	植物
5129	明治36年	秋の部	時ならぬ霰芭蕉の花黄なり	芭蕉の花	植物
5130	明治36年	秋の部	月明らかに芭蕉の花を照らしけり	芭蕉の花	植物
5131	明治36年	秋の部	芭蕉の花出羽の小春を咲きにけり	芭蕉の花	植物
5132	明治36年	秋の部	さゝげ來る芭蕉の花や人僧也	芭蕉の花	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5133	明治36年	秋の部	裂盡す芭蕉に花の大なり	芭蕉の花	植物
5134	明治36年	秋の部	剪落す芭蕉の花や秋の風	芭蕉の花	植物
5433	明治37年	秋の部	踏み迷ふ山女郎花稀にさく	女郎花	植物
5434	明治37年	秋の部	荻蒨りて漁家の趣秋老いぬ	荻	植物
5435	明治37年	秋の部	醸し得て恰もよし濁酒	濁酒	人事
5436	明治37年	秋の部	蛇穴に入ると喩へて帰省哉	蛇穴に入る	動物
5437	明治37年	秋の部	蝦夷菊の花や靱する家貧し	蝦夷菊	植物
5438	明治37年	秋の部	山僧や木槿白きに嗽ぎ	木槿	植物
5439	明治37年	秋の部	山寺や月見てあれば栗鼠のなく	月	天文
5440	明治37年	秋の部	新蕎麥や俳諧も亦華かに	新蕎麥	人事
5441	明治37年	秋の部	秋寒に驚く儒者の葛衣哉	秋寒	時候
5442	明治37年	秋の部	寒山の胡座さびしや蔦紅葉	蔦紅葉	植物
5444	明治37年	秋の部	秋の日の帰心いらだつ船路かな	秋の日	天文
5445	明治37年	秋の部	山門秋日粉蝶を藏しけり	秋の日	天文
5446	明治37年	秋の部	日の秋の燕子に傷む心か南	秋の日	天文
5447	明治37年	秋の部	秋の日の没して魚竜黙しけり	秋の日	天文
5448	明治37年	秋の部	秋の日の既にして射る承露盤	秋の日	天文
5449	明治37年	秋の部	秋の日の芙蓉に薄き辺土かな	秋の日	天文
5450	明治37年	秋の部	秋の日の江湖に落ちて一漁翁	秋の日	天文
5451	明治37年	秋の部	日の秋や鸚鵡驚く木實の香	秋の日	天文
5452	明治37年	秋の部	紅葉さむし剣を仗き荊軻行く	紅葉	植物
5453	明治37年	秋の部	鎌倉の山めぐりすや花芒	芒	植物
5454	明治37年	秋の部	初鮭の吉例神に捧ぐなり	鮭	動物
5455	明治37年	秋の部	秋晴の水の鏡やかちわたり	秋晴	天文
5456	明治37年	秋の部	さび鮎や疝氣を語る樵者漁者	鯖鮎	動物
5457	明治37年	秋の部	落し水早く日陰の山田哉	落し水	地理
5458	明治37年	秋の部	よべの虫蚊帳をたゝめば飛にけり	蟲	動物
5459	明治37年	秋の部	虫なくや夜は兵書に目をさらす	蟲	動物
5460	明治37年	秋の部	長が宿虫きく荒レと成にけり	蟲	動物
5461	明治37年	秋の部	唐黍の葉末に虫の高音哉	蟲	動物
5462	明治37年	秋の部	掛物に虫が来てなく獨坐哉	蟲	動物
5463	明治37年	秋の部	秋涼し葛の葉裏を見る程に	新涼	時候
5464	明治37年	秋の部	新涼に猶愛す蝸の翠哉	新涼	時候
5465	明治37年	秋の部	新涼に生れて鳴きぬ朝の蟬	新涼	時候
5466	明治37年	秋の部	秋涼し坐に盆石の潤ヒ	新涼	時候
5467	明治37年	秋の部	秋涼し宮女牽牛花を詠ず	新涼	時候
5468	明治37年	秋の部	虫枯の山田の毛見も終りけり	毛見	人事
5469	明治37年	秋の部	毛見済で社日の酒の旨き哉	毛見	人事
5470	明治37年	秋の部	毛見の衆に三戸の村の恐れけり	毛見	人事
5471	明治37年	秋の部	毛見の衆のにく / \ しさよ長羽織	毛見	人事
5472	明治37年	秋の部	大庭をとよもす風や駒迎	駒迎	人事
5473	明治37年	秋の部	小鳥狩川の中洲へ渡りけり	小鳥狩	人事
5474	明治37年	秋の部	立たぬ鳴西上人が歌の屑	鳴	動物
5475	明治37年	秋の部	葉葡萄の月にましらを逸しけり	月	天文
5476	明治37年	秋の部	戸を叩く狸来ずなり夜寒哉	夜寒	時候
5477	明治37年	秋の部	枕上の白湯冷かに夜明けたり	冷か	時候
5478	明治37年	秋の部	秋の霜木末の蜜柑色づきぬ	秋の霜	天文
5479	明治37年	秋の部	酒尽きて鯉漬猶少しあり	鯉漬	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5480	明治37年	秋の部	鳴く蚯蚓東に在れば東華坊	蚯蚓鳴く	動物
5481	明治37年	秋の部	猿酒や葛藟之を掩ひけり	猿酒	人事
5482	明治37年	秋の部	足三たび宰相の門に入れば秋	秋	時候
5483	明治37年	秋の部	芦の花舟ありと見えて人語哉	蘆の花	植物
5484	明治37年	秋の部	芦の花水清うして魚住まず	蘆の花	植物
5485	明治37年	秋の部	未枯れて真菰は寒し芦の花	蘆の花	植物
5486	明治37年	秋の部	芦の花石碣村の月見か南	蘆の花	植物
5487	明治37年	秋の部	去來忌や心ゆく程秋の風	去來忌	人事
5488	明治37年	秋の部	去來忌の夜更けて門を叩く音	去來忌	人事
5489	明治37年	秋の部	去來忌の庵の客只一人か南	去來忌	人事
5490	明治37年	秋の部	名月やあたりは暗き杉林	名月	天文
5491	明治37年	秋の部	月前の雲に老杜の愁かな	月	天文
5492	明治37年	秋の部	山家集相聞の部は月にして	月	天文
5493	明治37年	秋の部	黍老いて此頃の月美なるかな	月	天文
5494	明治37年	秋の部	僧泊めて坐を与へけり月の縁	月	天文
5495	明治37年	秋の部	落尽す梧桐の下や月を見る	月	天文
5496	明治37年	秋の部	芦の花漁人の妻を見たりけり	蘆の花	植物
5497	明治37年	秋の部	去來忌やこゝにも一人粥の客	去來忌	人事
5498	明治37年	秋の部	毛見の衆に機を下らぬ寡哉	毛見	人事
5499	明治37年	秋の部	芋十句一顆をくへば一句か南	芋	植物
5500	明治37年	秋の部	去來忌や月はあれども古簾	去來忌	人事
5501	明治37年	秋の部	破蓮下第の人の寺ごもり	破蓮	植物
5502	明治37年	秋の部	攝待や人に紛れぬ打虎武松	攝待	人事
5503	明治37年	秋の部	月前の雲や谷風吹上ぐる	月	天文
5504	明治37年	秋の部	墓の月松柏既に摧けたり	月	天文
5505	明治37年	秋の部	片側は女人ばかりや月の宴	月	天文
5506	明治37年	秋の部	帳あげて月に面をかゞやかす	月	天文
5507	明治37年	秋の部	去來忌や昨日の雛の小盃	去來忌	人事
5508	明治37年	秋の部	去來忌や猶見る菊の雛達	去來忌	人事
5509	明治37年	秋の部	雁を射る人かくれけり芦の花	蘆の花	植物
5510	明治37年	秋の部	芦の花八月潮平かに	蘆の花	植物
5511	明治37年	秋の部	芦の花天明に見る蘇子が舟	蘆の花	植物
5512	明治37年	秋の部	芦の花蘇子に随ふ二客あり	蘆の花	植物
5513	明治37年	秋の部	去來忌や蝕み古き弓の弦	去來忌	人事
5514	明治37年	秋の部	去來忌や柿晋問答くりかへす	去來忌	人事
5515	明治37年	秋の部	一湾の芦花や玩家的の三兄弟	蘆の花	植物
5516	明治37年	秋の部	故人遠し傾くまでの月を見る	月	天文
5517	明治37年	秋の部	芦の花返照及ぶ水の隈	蘆の花	植物
5518	明治37年	秋の部	膾造る菊も十日の佛かな	菊膾	人事
5519	明治37年	秋の部	月に栗葉葡萄の露をゆりこぼす	月	天文
5520	明治37年	秋の部	鶏頭の根こぎと干しぬ烏瓜	烏瓜	植物
5521	明治37年	秋の部	烏瓜茶の木の老いて花多き	烏瓜	植物
5730	明治38年	秋の部	倚添うて角力美しくし宮柱	角力	人事
5731	明治38年	秋の部	角力取大内山を罷出けり	角力	人事
5732	明治38年	秋の部	小奇麗な女房とつれて角力哉	角力	人事
5733	明治38年	秋の部	河渉る馬の頭や野分吹く	野分	天文
5734	明治38年	秋の部	野分吹いて狭斜の巷乱れけり	野分	天文
5735	明治38年	秋の部	芭蕉裂けて腸を断つ野分哉	野分	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5736	明治38年	秋の部	芋畑に客引入れて語りけり	芋	植物
5737	明治38年	秋の部	糸瓜あるを知らず主人迂濶なり	糸瓜	植物
5738	明治38年	秋の部	歌の文字猶目に存す捨扇	秋扇	人事
5739	明治38年	秋の部	俳諧は一字を惜む捨扇	秋扇	人事
5740	明治38年	秋の部	御幸過ぎて久しくなりぬ置扇	秋扇	人事
5741	明治38年	秋の部	扇置くや秋海棠に親みて	秋扇	人事
5742	明治38年	秋の部	堂に上る虫や扇を納めけり	秋扇	人事
5743	明治38年	秋の部	振向くや皆初秋の男ぶり	初秋	時候
5744	明治38年	秋の部	舷に面起すや初あらし	初嵐	天文
5745	明治38年	秋の部	新涼の岸離れゆく船路哉	新涼	時候
5746	明治38年	秋の部	初嵐帆網は水に浸りけり	初嵐	天文
5747	明治38年	秋の部	稀に見る玫瑰の実や秋の風	秋の風	天文
5748	明治38年	秋の部	我笠の菅の白さよ秋の水	秋の水	地理
5749	明治38年	秋の部	貝殻や秋の日をふむ海燕	秋の日	天文
5750	明治38年	秋の部	海を見て一人立ちけり秋の峯	秋の山	地理
5751	明治38年	秋の部	わりなしや錨にとまる秋の蝶	秋の蝶	動物
5752	明治38年	秋の部	荒磯やつれなく棄てし野撫子	撫子	植物
5753	明治38年	秋の部	二三尺波を離れて秋の蝶	秋の蝶	動物
5754	明治38年	秋の部	秋の海人ひとり乗る丸木舟	秋の海	地理
5755	明治38年	秋の部	馬に乗る人鄙しさよ女郎花	女郎花	植物
5756	明治38年	秋の部	新涼の庭や桃の実喰棄てし	桃の實	植物
5757	明治38年	秋の部	吟情や鶉啼くべきこのあたり	鶉	動物
5758	明治38年	秋の部	これなん曼珠沙華のたぐひなりけり	曼珠沙華	植物
5759	明治38年	秋の部	君が喰ふ林檎甚だ渋からずや	林檎	植物
5760	明治38年	秋の部	涼しき花となん草の名を知らず	草花	植物
5761	明治38年	秋の部	わらんじを湯本の萩にすてにけり	萩	植物
5762	明治38年	秋の部	四五人に秋の旭や山かつら	秋の日	天文
5763	明治38年	秋の部	此萩に縫がれ / \ と教へけり	萩	植物
5764	明治38年	秋の部	秋風や海士が小庭の瘦すゝき	芒	植物
5765	明治38年	秋の部	紺深き朝顔を見る 苫屋哉	朝顔	植物
5767	明治38年	秋の部	巖の心ン冷かなるを覚えけり	冷か	時候
5768	明治38年	秋の部	岩の窪古鼎に湛ふ秋の水	秋の水	地理
5769	明治38年	秋の部	手を揮うて蚩尤が霧を排しけり	霧	天文
5770	明治38年	秋の部	秋風や氤氳として魚鼈の氣	秋の風	天文
5771	明治38年	秋の部	群類の皆黙しけり秋の声	秋の声	天文
5772	明治38年	秋の部	龍の血の凝りて巖の秋の風	秋の風	天文
5773	明治38年	秋の部	地維缺けて鳴り込む秋の潮かな	秋の潮	地理
5774	明治38年	秋の部	白帝の岩に弓射る爽氣哉	秋	時候
5775	明治38年	秋の部	鷹の別一たび巖をつかみけり	鷹渡る	動物
5776	明治38年	秋の部	初汐に岩の棧猶高し	初汐	地理
5777	明治38年	秋の部	身に入むや舷を撃つ岩の露	露	天文
5778	明治38年	秋の部	蛇穴に日月の明を奪ふかな	蛇穴に入る	動物
5779	明治38年	秋の部	秋寒し女娼を巖の上に見る	秋寒	時候
5780	明治38年	秋の部	天晴て鶉に躍る鱸かな	鱸	動物
5781	明治38年	秋の部	初汐に鶉の糞を洗ひけり	初汐	地理
5782	明治38年	秋の部	岩に立つ鶉の首白し秋の風	秋の風	天文
5783	明治38年	秋の部	蛟龍の下腹見えつ秋の雲	秋の雲	天文
5784	明治38年	秋の部	岩橋や天傾いて秋の汐	秋の潮	地理

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5785	明治38年	秋の部	岩に印す巨人の跡や露寒し	露寒	天文
5786	明治38年	秋の部	共工の頭を砕く秋の声	秋の声	天文
5787	明治38年	秋の部	岩に落つ鶉の影や秋の風	秋の風	天文
5788	明治38年	秋の部	秋風や日暮れて上る竜像巖	秋の風	天文
5789	明治38年	秋の部	新涼に堪へず魚飛ぶ頻なり	新涼	時候
5790	明治38年	秋の部	新涼の岩ひたぬるゝ潮かな	新涼	時候
5791	明治38年	秋の部	巖ぬれ巖乾きぬ秋の風	秋の風	天文
5792	明治38年	秋の部	秋涼し岩に寄來る藻汐草	新涼	時候
5793	明治38年	秋の部	岩に波秋を引裂く狂ひかな	秋	時候
5794	明治38年	秋の部	汐を裂く底津岩根や秋の声	秋の声	天文
5795	明治38年	秋の部	岩の骨に秋を刻める姿かな	秋	時候
5796	明治38年	秋の部	秋風の巖を透す響かな	秋の風	天文
5797	明治38年	秋の部	秋官に白竜を紀す古き世ぞ	雑	雑
5798	明治38年	秋の部	偉なる哉巖大なる哉秋の空	秋の空	天文
5799	明治38年	秋の部	秋高く口を開いて笑ひけり	秋高し	天文
5800	明治38年	秋の部	天の川寒風山にかゝりけり	天の川	天文
5801	明治38年	秋の部	來し方の夜は只黒し天の川	天の川	天文
5802	明治38年	秋の部	我宿はいづれの處天の川	天の川	天文
5803	明治38年	秋の部	林檎むいて蚊帳なる人と語りけり	林檎	植物
5804	明治38年	秋の部	林檎むく巧みや旅は語草	林檎	植物
5805	明治38年	秋の部	新涼の燈下や旅の覚えがき	新涼	時候
5807	明治38年	秋の部	着せ綿を襲ねて菊の齡かな	菊	植物
5808	明治38年	秋の部	新涼に吹放たれし胡蝶かな	新涼	時候
5809	明治38年	秋の部	松芒慇懃に茸を採り尽す	茸狩	人事
5810	明治38年	秋の部	晝顔のかたまり咲くや道普請	盆路	人事
5811	明治38年	秋の部	修験者のまなざし曼珠沙華赤し	曼珠沙華	植物
5812	明治38年	秋の部	古靱を磨りぬ宵はた踊るらん	踊	人事
5813	明治38年	秋の部	蘇武が言猶耳にあり秋の風	秋の風	天文
5815	明治38年	秋の部	秋風や蛇を封じて一千年	秋の風	天文
5817	明治38年	秋の部	官人の子等が見あるく燈籠哉	燈籠	人事
5818	明治38年	秋の部	迎火の自らまた燃えにけり	迎火	人事
5819	明治38年	秋の部	よき花に心づよしや墓參	墓參	人事
5820	明治38年	秋の部	葉鶏頭ゆりふせらるゝ嵐哉	雁來紅	植物
5821	明治38年	秋の部	この蘭に入唐の頃をしぬびけり	蘭	植物
5822	明治38年	秋の部	狼の祭や曉の稻妻す	稻妻	天文
5823	明治38年	秋の部	山姥の髪おどろなす草錦	草錦	植物
5824	明治38年	秋の部	河原ありく施餓鬼の僧や蕩の花	施餓鬼	人事
5825	明治38年	秋の部	人となり木槿白きを一枝哉	木槿	植物
5826	明治38年	秋の部	染らざる木槿の色や秋の風	木槿	植物
5827	明治38年	秋の部	去る法師むくげ白きを顧ず	木槿	植物
5828	明治38年	秋の部	山椒の実は只赤し花むくげ	木槿	植物
5829	明治38年	秋の部	白木槿花疎らなる茂かな	木槿	植物
5830	明治38年	秋の部	萬年の天子あらんや月に酔ふ	月	天文
5831	明治38年	秋の部	月前に折ふし梅の落葉哉	月	天文
5832	明治38年	秋の部	赤壁や月に漁人をそゝのかす	月	天文
5833	明治38年	秋の部	月明かに魏呉の分野を照しけり	月	天文
5834	明治38年	秋の部	幾人か回ると月の雲を見る	月	天文
5835	明治38年	秋の部	明月や人に喰はせぬ芋頭	名月	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5836	明治38年	秋の部	山人の猿を叱咤す谷の月	月	天文
5837	明治38年	秋の部	名月や呉王宮裡の人の眉	名月	天文
5838	明治38年	秋の部	月の雲斐然として章を成す	月	天文
5839	明治38年	秋の部	山の月ひとり越ゆらん君が面	月	天文
5840	明治38年	秋の部	喝々と秋風痰の佛かな	秋の風	天文
5841	明治38年	秋の部	秋の蚊の或は妬婦をさしにけり	秋の蚊	動物
5842	明治38年	秋の部	秋の季の己れ兒なり烏瓜	烏瓜	植物
5843	明治38年	秋の部	芭蕉裂けて百艸ひとしく悲む	破れ芭蕉	植物
5844	明治38年	秋の部	蓼の花酒は温むべくなりぬ	蓼の花	植物
5845	明治38年	秋の部	燕去って孤樓の簾古びけり	秋燕	動物
5846	明治38年	秋の部	易を見る九日の菊の光かな	菊	植物
5847	明治38年	秋の部	水見れば野菊に埋む簞かな	野菊	植物
5848	明治38年	秋の部	渋作り葎干す日短し	葎干	人事
5849	明治38年	秋の部	実を結ぶ草の裏戸や蝨焼く	蝨	動物
5850	明治38年	秋の部	河渡る人の声あり星月夜	星月夜	天文
5851	明治38年	秋の部	唐黍の風や秋社の戻り人	秋社	人事
5852	明治38年	秋の部	世をあげてふくべに似たる人もなし	瓢	植物
5853	明治38年	秋の部	寥々と冬近き日や野を照す	冬近し	時候
5854	明治38年	秋の部	山僧の指さす方や柿もみぢ	柿紅葉	植物
5855	明治38年	秋の部	蓮の骨智深の酔のさめにけり	破蓮	植物
5856	明治38年	秋の部	梅落葉疾く柳ちる徐ろに	柳散る	植物
5857	明治38年	秋の部	神嘗の祭も知らずいwash引	鱒引	人事
5858	明治38年	秋の部	山の幸柿と易へたる鱒かな	鱒	動物
5859	明治38年	秋の部	鱒引く子等や濱辺の小學校	鱒引	人事
5860	明治38年	秋の部	題目の信者ばかりや鱒引	鱒引	人事
5861	明治38年	秋の部	小男の祖父が指図や鱒引	鱒引	人事
5862	明治38年	秋の部	草市に五文が花のあはれ哉	草市	人事
5863	明治38年	秋の部	稻妻や萬年青小暗き店の隅	稻妻	天文
5864	明治38年	秋の部	七夕のさびし柳の衰へ	七夕	人事
5866	明治38年	秋の部	葛の葉に人悲めり秋の風	秋の風	天文
5867	明治38年	秋の部	草花に汐垂衣しほりけり	草花	植物
5868	明治38年	秋の部	荒波の割れて碎けて裂けて秋	秋	時候
5869	明治38年	秋の部	女郎花角力の羽織ぬれにけり	女郎花	植物
5870	明治38年	秋の部	白扇に己物かきすてにけり	秋扇	人事
5871	明治38年	秋の部	思ひあまり扇の別れ泣にけり	秋扇	人事
5872	明治38年	秋の部	草の舎の母に蚊帳つる角力哉	角力	人事
5873	明治38年	秋の部	萬燈の一時に消ゆる野分哉	野分	天文
5874	明治38年	秋の部	野分して悲しき花となりけり	野分	天文
5875	明治38年	秋の部	上苑の水吹散らす野分哉	野分	天文
5876	明治38年	秋の部	天柱を碎いて秋の神立てり	竜田姫	天文
5877	明治38年	秋の部	電光の岩に碎けて海青し	稻妻	天文
5878	明治38年	秋の部	九頭の龍かと吾に秋寒し	秋寒	時候
5879	明治38年	秋の部	岩柱鰲の足を断って秋	秋	時候
5880	明治38年	秋の部	これ昔帝秋を鑄て成らざりき	秋	時候
5881	明治38年	秋の部	龍の血の凝りて秋風吹きたえず	秋の風	天文
5882	明治38年	秋の部	憤り去る酔人やみゝず鳴く	蚯蚓鳴く	動物
5883	明治38年	秋の部	秋風や天下に傳ふ百八句	秋の風	天文
5884	明治38年	秋の部	朱貴が箭の芦に没して渡鳥	渡鳥	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5885	明治38年	秋の部	蚊帳の別書巻の灯影あかき哉	秋の蚊帳	人事
5886	明治38年	秋の部	丈草と寝たりし蚊帳の別哉	秋の蚊帳	人事
5887	明治38年	秋の部	写すべき庭の小草や秋涼し	新涼	時候
5888	明治38年	秋の部	無用の長物と糸瓜に歎きけり	糸瓜	植物
5889	明治38年	秋の部	鬼灯を吊して酒もうりにけり	鬼灯	植物
5890	明治38年	秋の部	満園の日や欣々と鳳仙花	鳳仙花	植物
5891	明治38年	秋の部	去る燕女心に悲めり	秋燕	動物
5892	明治38年	秋の部	水の音の絶えざるをきく夜長哉	夜長	時候
5893	明治38年	秋の部	重陽の下僕に故事を教へけり	重陽	人事
5894	明治38年	秋の部	人まれに茱萸かざしけり寒き風	茱萸	植物
5895	明治38年	秋の部	折ふしの雲割れやすし後の月	後の月	天文
5896	明治38年	秋の部	思はずの芒が中や渡鳥	渡鳥	動物
5897	明治38年	秋の部	菊に灯のその趣や古人の句	菊	植物
5898	明治38年	秋の部	秋風やぬかごこぼるゝ路の上	零餘子	植物
5899	明治38年	秋の部	路傍のぬかごこぼれてたまりけり	零餘子	植物
5900	明治38年	秋の部	このふくべ何の誰かに似たりけり	瓢	植物
5901	明治38年	秋の部	今年米五器の古きもめでたけれ	新米	人事
5902	明治38年	秋の部	佛壇の罎を逸す夜寒哉	夜寒	時候
5903	明治38年	秋の部	礪确の山路やぬかごこぼれたり	零餘子	植物
5904	明治38年	秋の部	あか / \ と夜寒の灯かゝげけり	夜寒	時候
5905	明治38年	秋の部	芋汁に社日の酔を作にけり	芋	植物
5906	明治38年	秋の部	最明寺殿とも知らず靱をする	靱摺	人事
6067	明治39年	秋の部	懐の銭冷かにうがひかな	冷か	時候
6184	明治39年	秋の部	秋立や星は柳を遠ざかり	立秋	時候
6185	明治39年	秋の部	刈柴の関路の露を拂ひけり	露	天文
6186	明治39年	秋の部	朝顔や尚伸びまさる小柴垣	朝顔	植物
6187	明治39年	秋の部	朝顔に誰ぞや火を鑽る家の中	朝顔	植物
6188	明治39年	秋の部	朝顔の鉢や電鈴鳴るところ	朝顔	植物
6189	明治39年	秋の部	安じて動ずとする南瓜かな	南瓜	植物
6190	明治39年	秋の部	新涼の疊の上や紙魚を打つ	新涼	時候
6191	明治39年	秋の部	新涼の掌にめず小石かな	新涼	時候
6192	明治39年	秋の部	篋にたま / \ 螢秋涼し	新涼	時候
6193	明治39年	秋の部	ひた / \ と水に木末や初あらし	初嵐	天文
6194	明治39年	秋の部	家低し象潟荒れて天の川	天の川	天文
6195	明治39年	秋の部	花火あかし荒れまさりゆく水驛	花火	人事
6196	明治39年	秋の部	四五本の花火あがりて旅情かな	花火	人事
6197	明治39年	秋の部	萩に笠離愁甚だ濃かに	萩	植物
6198	明治39年	秋の部	古松の薪となりぬ墓まゐり	墓參	人事
6199	明治39年	秋の部	山頂に杖を揮ふや旅の秋	秋	時候
6200	明治39年	秋の部	剛力の面も振らず女郎花	女郎花	植物
6202	明治39年	秋の部	水急に短き芒見て過ぐる	芒	植物
6203	明治39年	秋の部	森來り蟬時雨去る舟はやし	蟬	動物
6204	明治39年	秋の部	嶮悪の山の朽木や秋の風	秋の風	天文
6205	明治39年	秋の部	滝の辺の百合に道なき嶮しさよ	百合	植物
6206	明治39年	秋の部	山迫るところ山飛ぶ蜻蛉哉	蜻蛉	動物
6207	明治39年	秋の部	夕陽の秋明かに山の峽	秋	時候
6208	明治39年	秋の部	蝸に船路せまりぬ最上川	蝸	動物
6209	明治39年	秋の部	蝸や宿坊見えて木下道	蝸	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6210	明治39年	秋の部	蝸の啼きやめば家に灯かな	蝸	動物
6211	明治39年	秋の部	蝸の樹に混堂の煙哉	蝸	動物
6212	明治39年	秋の部	蝸や九十九森に夕の汐	蝸	動物
6214	明治39年	秋の部	檜笠秋の蠅見る柱かな	秋の蠅	動物
6215	明治39年	秋の部	君が代は秋を用みず蠅叩	秋	時候
6216	明治39年	秋の部	菊に飛べば九日の蠅と興じけり	菊	植物
6217	明治39年	秋の部	草皆の穂に出る色や秋の蠅	秋の蠅	動物
6218	明治39年	秋の部	涼しさに尚打ちて棄つ秋の蠅	秋の蠅	動物
6219	明治39年	秋の部	片われの月待ち得たる夜長かな	夜長	時候
6220	明治39年	秋の部	そこばくの鶏頭吊す貧しくも	鶏頭	植物
6221	明治39年	秋の部	行秋の句屑紙屑賣りにけり	行秋	時候
6222	明治39年	秋の部	我と無我といづれ雀か蛤か	雀蛤となる	動物
6223	明治39年	秋の部	鱸割いて大河の景を誇りけり	鱸	動物
6224	明治39年	秋の部	慈恩寺の塔に人あり秋の雲	秋の雲	天文
6225	明治39年	秋の部	交りの此道棄てず新走	新酒	人事
6226	明治39年	秋の部	賣るものに椽餅もあり秋の風	秋の風	天文
6227	明治39年	秋の部	なも / \ と師やこわづくる野分の夜	野分	天文
6228	明治39年	秋の部	さらぼうて野分に立てり烽火守	野分	天文
6229	明治39年	秋の部	青樓の更に灯ともす野分哉	野分	天文
6230	明治39年	秋の部	野分やむで川明らかに涉りけり	野分	天文
6231	明治39年	秋の部	温泉烟の樹々に裂けゆく野分哉	野分	天文
6232	明治39年	秋の部	荻苳るや水明かに鳥もゐる	荻	植物
6233	明治39年	秋の部	風すさぶ短き荻に旅人かな	荻	植物
6234	明治39年	秋の部	荻鳴らす風や小舟が沖に出る	荻	植物
6235	明治39年	秋の部	出水して荻に風だも無かりけり	荻	植物
6236	明治39年	秋の部	晩風や錨を下ろす荻の窪	荻	植物
6238	明治39年	秋の部	木つゝきの啄き残して君は在り	啄木鳥	動物
6239	明治39年	秋の部	古酒誇る主の菊を盗みけり	菊	植物
6240	明治39年	秋の部	獣を見るべくなりぬ秋の霜	秋の霜	天文
6241	明治39年	秋の部	富みて且つ貴く銀杏落葉哉	銀杏散る	植物
6242	明治39年	秋の部	肌寒は通夜かな人の花作る	肌寒	時候
6243	明治39年	秋の部	鮭きびし名残の月に菊膾	菊膾	人事
6244	明治39年	秋の部	末枯れて惜まるゝ艸もなかりけり	末枯	植物
6245	明治39年	秋の部	末枯るゝ艸や芭蕉は与からず	末枯	植物
6246	明治39年	秋の部	末枯に蹊つくるは獣かな	末枯	植物
6247	明治39年	秋の部	末枯れて築に親しむべくなりぬ	末枯	植物
6248	明治39年	秋の部	早く已に戦さの跡の末枯るゝ	末枯	植物
6249	明治39年	秋の部	唐からし兎を憎む辞あり	唐辛子	植物
6250	明治39年	秋の部	選衣や小さき赤き唐からし	唐辛子	植物
6251	明治39年	秋の部	冷かさ心に知りぬ唐からし	唐辛子	植物
6252	明治39年	秋の部	紫の一本故に唐からし	唐辛子	植物
6253	明治39年	秋の部	太閤は海を渡らず唐からし	唐辛子	植物
6254	明治39年	秋の部	稻妻や芦をかすめて疾き舟	稻妻	天文
6255	明治39年	秋の部	朝兒をまばらに見たり初あらし	朝顔	植物
6256	明治39年	秋の部	草の宿朝兒の主人起きてあり	朝顔	植物
6257	明治39年	秋の部	鷹遠し白露の天の霽の色	白露	時候
6258	明治39年	秋の部	秋涼し夕山越の讀書人	新涼	時候
6259	明治39年	秋の部	新涼の草にうもれぬ聴蛙亭	新涼	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6260	明治39年	秋の部	秋の気をつんざいて山尖りけり	秋気	時候
6261	明治39年	秋の部	秋涼し白衣の人の徘徊す	新涼	時候
6262	明治39年	秋の部	馬引の馬いましめつ初あらし	初嵐	天文
6263	明治39年	秋の部	高々と鳴子すさまし月明り	鳴子	人事
6264	明治39年	秋の部	鳴子引け穂に出る草の花盛	草花	植物
6265	明治39年	秋の部	草の宿障子白きに夜半の虫	蟲	動物
6266	明治39年	秋の部	曉嵐に杖を揮へり露の空	露	天文
6267	明治39年	秋の部	つき鳴らす金剛杖や草の花	草花	植物
6268	明治39年	秋の部	初秋の星や柳に遠ざかる	初秋	時候
6269	明治39年	秋の部	主藏れ賓行く庭の芭蕉哉	芭蕉	植物
6270	明治39年	秋の部	庭深く数株の芭蕉長じけり	芭蕉	植物
6271	明治39年	秋の部	昔容の髻髻として芭蕉哉	芭蕉	植物
6272	明治39年	秋の部	鳩吹の悠容として吹居たり	鳩吹く	人事
6273	明治39年	秋の部	潮近くひたす井木や星月夜	星月夜	天文
6274	明治39年	秋の部	旧跡に家して芒ばかり哉	芒	植物
6275	明治39年	秋の部	盆の月娘をもたぬ家もなし	盆の月	天文
6276	明治39年	秋の部	要害の地を諳じて薬掘	薬掘	人事
6277	明治39年	秋の部	踊子の色白うして昼居たり	踊	人事
6278	明治39年	秋の部	庭の隅暗きに紫菀ぬきんでし	紫菀	植物
6279	明治39年	秋の部	臨邛の其夜を悔うる砧かな	砧	人事
6280	明治39年	秋の部	初嵐葛の藪かげ小提灯	初嵐	天文
6281	明治39年	秋の部	馬引の提灯小さし初あらし	初嵐	天文
6282	明治39年	秋の部	見る所古き牧場や星月夜	星月夜	天文
6283	明治39年	秋の部	病中に秋海棠を写しけり	秋海棠	植物
6284	明治39年	秋の部	鶏頭の赤きにたぐふ角力哉	角力	人事
6285	明治39年	秋の部	間引菜の落散る畑や兒斜	間引菜	植物
6286	明治39年	秋の部	雨の月何に興じて主客哉	雨の月	天文
6287	明治39年	秋の部	五升程負債かへしぬ今年米	新米	人事
6288	明治39年	秋の部	七草に一草足らず鶉かな	鶉	動物
6289	明治39年	秋の部	片鶉誰ぞや竹枝を口吟む	鶉	動物
6290	明治39年	秋の部	新豆腐賣の家草の錦哉	雑	雑
6291	明治39年	秋の部	茸狩の人々の茸異りぬ	茸狩	人事
6292	明治39年	秋の部	がさこそと烏瓜引く僧都あり	烏瓜	植物
6293	明治39年	秋の部	落ち / \ て月夜となりぬ落シ水	落シ水	地理
6294	明治39年	秋の部	菊作る家に賢き童かな	菊	植物
6295	明治39年	秋の部	駒迎関の清水を尋ねけり	駒迎	人事
6296	明治39年	秋の部	糸すりの菊見る違なかりけり	糸摺	人事
6297	明治39年	秋の部	柿の木に上る子はいを打たぬなり	柿	植物
6298	明治39年	秋の部	金氣衝く五更に起きて讀詩哉	秋気	時候
6299	明治39年	秋の部	菘干す家の後に尿かな	菘干	人事
6300	明治39年	秋の部	天徳を糸瓜に生せり長き哉	糸瓜	植物
6301	明治39年	秋の部	八十の祖父と見てゐる糸瓜哉	糸瓜	植物
6302	明治39年	秋の部	二三子が糸瓜の長けを測りけり	糸瓜	植物
6303	明治39年	秋の部	赤菊のむら / \ と咲くつよさ哉	菊	植物
6304	明治39年	秋の部	尊しや八十にして菊作り	菊	植物
6305	明治39年	秋の部	花そばに人恙なく帰村かな	蕎麥花	植物
6306	明治39年	秋の部	懐ろにすべくもあらぬゆみそかな	柚味噌	人事
6307	明治39年	秋の部	唐辛子青き赤きを論じけり	唐辛子	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6308	明治39年	秋の部	此山の名所も知らず松露掘	松露	植物
6310	明治39年	秋の部	五台山を下れば野草花開く	草花	植物
6582	明治40年	秋の部	初秋や穂になる草の紅一点	初秋	時候
6583	明治40年	秋の部	庭に灌ぐ水の剩りや秋の立つ	立秋	時候
6584	明治40年	秋の部	初秋の尚宵々を出ありきぬ	初秋	時候
6585	明治40年	秋の部	初秋の飯喰うて人と別れけり	初秋	時候
6586	明治40年	秋の部	初秋に採るべき薬名を記す	初秋	時候
6587	明治40年	秋の部	明星や舷にちるあしの露	露	天文
6588	明治40年	秋の部	材木の間を行くや露しめり	露	天文
6589	明治40年	秋の部	露けしやよべの砧のありどころ	露	天文
6590	明治40年	秋の部	灯の色に夜露くだるを悟りけり	露	天文
6591	明治40年	秋の部	朝露のおくまもあらず秋浅し	秋浅し	時候
6592	明治40年	秋の部	露早く乾く葉檜や日の表	露	天文
6593	明治40年	秋の部	草の葉廣草の葉細や露の玉	露	天文
6594	明治40年	秋の部	白露の結ぶと見ればこぼれけり	露	天文
6595	明治40年	秋の部	花揉みて爪を染るも露の中	露	天文
6596	明治40年	秋の部	葉葡萄に酒成る秋を契りけり	葡萄酒醸す	人事
6597	明治40年	秋の部	古道の君待坂や女郎花	女郎花	植物
6598	明治40年	秋の部	七座の一座に咲や女郎花	女郎花	植物
6599	明治40年	秋の部	女郎花水ありさうな処かな	女郎花	植物
6600	明治40年	秋の部	夕立の雲を危み女郎花	女郎花	植物
6601	明治40年	秋の部	禿山の見るものにすや女郎花	女郎花	植物
6602	明治40年	秋の部	魚の眼の岩に危し秋の水	秋の水	地理
6603	明治40年	秋の部	新涼の耳穿つ也山の峽	新涼	時候
6604	明治40年	秋の部	軒近く穂に出る草や星まつり	七夕	人事
6605	明治40年	秋の部	星の戀魚は深きに潜みけり	星合い	人事
6606	明治40年	秋の部	山里は稗田に家す星まつり	七夕	人事
6607	明治40年	秋の部	何願ふ子等かさゝやく星の事	七夕	人事
6608	明治40年	秋の部	思出の梶の葉屑を袂かな	梶の葉	人事
6609	明治40年	秋の部	文机に両の袂や星まつり	七夕	人事
6610	明治40年	秋の部	湖の上に笛吹き止みぬ天の川	天の川	天文
6611	明治40年	秋の部	大沢に声何人ぞ天の川	天の川	天文
6612	明治40年	秋の部	昼越えし山の高きや天の川	天の川	天文
6613	明治40年	秋の部	野にあまる千種の花や天の川	天の川	天文
6614	明治40年	秋の部	桔梗咲く終日庭の日かげかな	桔梗	植物
6615	明治40年	秋の部	萩桔梗句合の序をあやどりぬ	雑	雑
6616	明治40年	秋の部	桔梗はすゝきにまじるべくもなし	桔梗	植物
6617	明治40年	秋の部	古銅器にさす草はあれと白桔梗	桔梗	植物
6618	明治40年	秋の部	家の集に妻が桔梗の一句かな	桔梗	植物
6619	明治40年	秋の部	店先の小桶に花や新豆腐	新豆腐	人事
6620	明治40年	秋の部	沙魚釣らぬ不興もをかし新豆フ	新豆腐	人事
6621	明治40年	秋の部	鶏頭に帘新豆フあり	新豆腐	人事
6622	明治40年	秋の部	清水に誰ぞこもる祇園は新豆腐	新豆腐	人事
6623	明治40年	秋の部	新豆腐に赤飯も焚いて旅祝ふ	新豆腐	人事
6624	明治40年	秋の部	十ヶ寺を詣で果さず新豆フ	新豆腐	人事
6625	明治40年	秋の部	新豆フに朝餉すましぬかしま立ち	新豆腐	人事
6626	明治40年	秋の部	厨にも萩のこぼれや新豆フ	新豆腐	人事
6627	明治40年	秋の部	肺腸の秋を浴くす新豆腐	新豆腐	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6628	明治40年	秋の部	くさびらを以て酬ひん新豆腐	新豆腐	人事
6629	明治40年	秋の部	一陣の風過るなり毛見の笠	毛見	人事
6630	明治40年	秋の部	毛見の衆に彗星の事申しけり	毛見	人事
6631	明治40年	秋の部	毛見ありと夙に起きたり三家村	毛見	人事
6632	明治40年	秋の部	鏝鏝として毛見の衆を驚かす	毛見	人事
6633	明治40年	秋の部	親と子と普請もすなり毛見の路	毛見	人事
6634	明治40年	秋の部	毛見の衆に郷先生の憤り	毛見	人事
6635	明治40年	秋の部	毛見の衆も鎮守の神に詣でけり	毛見	人事
6636	明治40年	秋の部	毛見の衆と見ゆ榛の木の雨宿り	毛見	人事
6637	明治40年	秋の部	毛見なれば山畑の粟の穂もつかむ	毛見	人事
6638	明治40年	秋の部	どや/ \と毛見来る宿や鶏の鳴く	毛見	人事
6639	明治40年	秋の部	雲霧の山路の菊の大ききよ	菊	植物
6640	明治40年	秋の部	掛稻のよく乾く日や菊の花	菊	植物
6641	明治40年	秋の部	縄きれに束ねあまりし黄菊哉	菊	植物
6642	明治40年	秋の部	高く積む書冊に菊の尚高し	菊	植物
6643	明治40年	秋の部	菊つむで喪中の厨ぬれにけり	菊	植物
6644	明治40年	秋の部	東宮の菊に四皓の遊かな	菊	植物
6645	明治40年	秋の部	一村の長して菊をつくりけり	菊	植物
6646	明治40年	秋の部	菊折らんと出づれば風や襟を吹く	菊	植物
6647	明治40年	秋の部	階前に菊の光や三槐堂	菊	植物
6648	明治40年	秋の部	里人の安息日や菊盛	菊	植物
6649	明治40年	秋の部	小高みな先人の碑や稻の中	稻	植物
6650	明治40年	秋の部	これ蘭これ菊群賢一堂	雑	雑
6651	明治40年	秋の部	白石磊々として高きに登りけり	登高	人事
6652	明治40年	秋の部	明日植ゑる苗圃の杉や秋の蝶	秋の蝶	動物
6653	明治40年	秋の部	よき程に聳ゆる山や木子狩	茸狩	人事
6654	明治40年	秋の部	日あるうちに蕪を刈りけり秋の晴	秋晴	天文
6655	明治40年	秋の部	舌上に會して首肯づく柚味噌哉	柚味噌	人事
6656	明治40年	秋の部	登高の我に随ふ客もなし	登高	人事
6657	明治40年	秋の部	須臾にして暑移りぬ百舌の贅	鴟の贅	動物
6658	明治40年	秋の部	店に鮭あり炭焼の娘来る	鮭	動物
6659	明治40年	秋の部	大杉に照る日や杉の実を干しぬ	杉の實	植物
6660	明治40年	秋の部	菊に早く来つ筆墨の小商人	菊	植物
6661	明治40年	秋の部	門柱徒に大きく柳ちる	柳散る	植物
6662	明治40年	秋の部	杉の実を採る聾あり百舌の鳴	杉の實	植物
6663	明治40年	秋の部	杉植ん下草紅葉焼にけり	草錦	植物
6664	明治40年	秋の部	秋の日を避けてか栗鼠の枝移り	秋の日	天文
6665	明治40年	秋の部	木の実落つ中にぢゞめくましら哉	木の實	植物
6666	明治40年	秋の部	山囲み方なる原や末枯るゝ	末枯	植物
6667	明治40年	秋の部	鑛山の香に耐へすとや女郎花	女郎花	植物
6668	明治40年	秋の部	相逢うて相語る林檎紅に	林檎	植物
6919	明治41年	秋の部	餅もなき垢離場の店や初嵐	初嵐	天文
6920	明治41年	秋の部	月影や突兀として芋の山	芋	植物
6921	明治41年	秋の部	川缺の淵となりゆく花野哉	花野	地理
6922	明治41年	秋の部	餘白ある一日記事や虫の声	蟲	動物
6923	明治41年	秋の部	登嶽を果さぬ悔や扇置く	秋扇	人事
6924	明治41年	秋の部	大銀杏の後の銀杏や放生会	放生会	人事
6926	明治41年	秋の部	米女鬼山の草花咲けば忌日なり	草花	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6927	明治41年	秋の部	展墓記事新そばの句を夾みけり	新蕎麥	人事
6928	明治41年	秋の部	俳席の掟柿食ふ法もあり	柿	植物
6929	明治41年	秋の部	方円の筆法風の芭蕉かな	芭蕉	植物
6930	明治41年	秋の部	御本陣の跡料理屋の芭蕉かな	芭蕉	植物
6931	明治41年	秋の部	神去るが如く芭蕉裂けつくす	芭蕉	植物
6932	明治41年	秋の部	釣るはぜの小さきよりす郷思かな	鯊釣	人事
6933	明治41年	秋の部	一川を領しはぜ釣るものは誰ぞ	鯊釣	人事
6934	明治41年	秋の部	吾に勝るものなしとはぜつり返る	鯊釣	人事
6935	明治41年	秋の部	誰々の祖父ども出会ふ墓参	墓参	人事
6936	明治41年	秋の部	人知らぬ鬢の二毛や墓参	墓参	人事
6937	明治41年	秋の部	地つゞきの山買ひ得たり墓参	墓参	人事
6938	明治41年	秋の部	登山者の下りつきし宿や灯籠吊る	燈籠	人事
6939	明治41年	秋の部	双棲の白き頭や軒灯籠	燈籠	人事
6940	明治41年	秋の部	草分の家すたれゆく灯籠哉	燈籠	人事
6941	明治41年	秋の部	家構骨太にして釣灯籠	燈籠	人事
6942	明治41年	秋の部	川上に橋ありと見ゆ灯籠哉	燈籠	人事
6943	明治41年	秋の部	奠都の議此地を相す稲の花	稲の花	植物
6944	明治41年	秋の部	木工頭に出羽の案内や稲の花	稲の花	植物
6945	明治41年	秋の部	碑の事に里をこぞりぬ稲の花	稲の花	植物
6946	明治41年	秋の部	一竿の沙魚には早し稲の花	稲の花	植物
6947	明治41年	秋の部	郷倉の礎置くや稲の花	稲の花	植物
6949	明治41年	秋の部	川下す木々相撃つやむら芒	芒	植物
6950	明治41年	秋の部	峰渡り笠に雲飛ぶ秋涼し	新涼	時候
6952	明治41年	秋の部	湖成りし神話も果てゝ天の川	天の川	天文
6953	明治41年	秋の部	魚の眼に秋知るか石に來去る	秋	時候
6954	明治41年	秋の部	秋と云へば波打越しぬ御座の石	秋	時候
6955	明治41年	秋の部	初嵐湖の浮木の浮沈	初嵐	天文
6957	明治41年	秋の部	湖の魚と我山の雲と君共に秋	秋	時候
6959	明治41年	秋の部	女人許す垢離場詣や初嵐	初嵐	天文
6960	明治41年	秋の部	三分缺けし月の出でけり扇置く	秋扇	人事
6961	明治41年	秋の部	水郷と云へど山聳ゆ秋扇	秋扇	人事
6962	明治41年	秋の部	親骨に刻める山や秋扇	秋扇	人事
6963	明治41年	秋の部	葉廣草裂けし夜荒れや扇おく	秋扇	人事
6964	明治41年	秋の部	思ふことしのぶの乱れ秋扇	秋扇	人事
6965	明治41年	秋の部	留むれど遂に去る西瓜白かりし	西瓜	植物
6966	明治41年	秋の部	硯洗へば恰も西瓜到來す	西瓜	植物
6967	明治41年	秋の部	灯に嵐しづまりて割く西瓜哉	西瓜	植物
6968	明治41年	秋の部	水中の■食西瓜の出來あしき	西瓜	植物
6969	明治41年	秋の部	秋声の賦の一佳句や西瓜割く	西瓜	植物
6970	明治41年	秋の部	鳴子引讀尽す天下無用の書	鳴子	人事
6971	明治41年	秋の部	有用の書一部藏す夜学哉	夜学	人事
6972	明治41年	秋の部	帰急ぐ燕や草の穂長なる	秋燕	動物
6973	明治41年	秋の部	高光る日の皇子なれや菊苔む	菊	植物
6974	明治41年	秋の部	售らざる文自ら序す雁の声	雁	動物
6975	明治41年	秋の部	古墳発く博士一行や雁渡る	雁	動物
6976	明治41年	秋の部	同文の国漫遊や雁をきく	雁	動物
6977	明治41年	秋の部	建碑式の人散りト\や雁渡る	雁	動物
6978	明治41年	秋の部	門額を始めて掲ぐ雁の声	雁	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6979	明治41年	秋の部	底ずれの舟洲につくや渡鳥	渡鳥	動物
6980	明治41年	秋の部	刈棄の莖細の蕎麦や鳥渡る	渡鳥	動物
6981	明治41年	秋の部	朝顔の手柴引く日や渡鳥	渡鳥	動物
6982	明治41年	秋の部	山を出づる帆柱の材や渡鳥	渡鳥	動物
6983	明治41年	秋の部	築に網底見ゆる川や鳥渡る	渡鳥	動物
7136	明治42年	秋の部	林相の図をたゝみけり天の川	天の川	天文
7137	明治42年	秋の部	案内宿も草分にして天の川	天の川	天文
7138	明治42年	秋の部	聾の博士泊めけり天の川	天の川	天文
7139	明治42年	秋の部	晒菅野を白うせり天の川	天の川	天文
7140	明治42年	秋の部	今を猶魚住まぬ湖や天の川	天の川	天文
7141	明治42年	秋の部	魂棚に魂来ますらん庭の月	魂祭	人事
7142	明治42年	秋の部	魂祭る親は八十九十かな	魂祭	人事
7143	明治42年	秋の部	魂棚もかざりて親子二人かな	魂祭	人事
7144	明治42年	秋の部	魂まつり女同胞住めりけり	魂祭	人事
7145	明治42年	秋の部	一睡の不覚を思ふ天の川	天の川	天文
7146	明治42年	秋の部	牧を出て驛通の駿や天の川	天の川	天文
7147	明治42年	秋の部	先づ関に入るもの覇たり天の川	天の川	天文
7148	明治42年	秋の部	豪溪に居て豪溪を凶す天の川	天の川	天文
7149	明治42年	秋の部	陣法の古今に通ず天の川	天の川	天文
7150	明治42年	秋の部	天の川笠ぬふ菅を白うせり	天の川	天文
7151	明治42年	秋の部	咸陽の火のほ流れて天の川	天の川	天文
7152	明治42年	秋の部	談笑平日の如く柿の事	柿	植物
7153	明治42年	秋の部	去来忌や紙魚猶はしる後の雛	去来忌	人事
7154	明治42年	秋の部	一時遊ぶ大竹原や落柿舎忌	去来忌	人事
7155	明治42年	秋の部	角力鑑増補の借も夜半の秋	秋の夜	時候
7156	明治42年	秋の部	茶焙ジは文具かあらず夜話の秋	秋の夜	時候
7157	明治42年	秋の部	墓荒れし昨日を憶ふ夜寒か南	夜寒	時候
7158	明治42年	秋の部	自然林の説に一致す夜寒かな	夜寒	時候
7159	明治42年	秋の部	芋掘れとそゝのかされて掘りに行く	芋	植物
7160	明治42年	秋の部	諄々と貯蓄すゝめも芋煮る間	芋	植物
7161	明治42年	秋の部	代受くること肯はず芋の主	芋	植物
7162	明治42年	秋の部	千両の馬を隣に芋の秋	芋	植物
7163	明治42年	秋の部	芋の饗再び句論強ひらるゝ	芋	植物
7164	明治42年	秋の部	毒茸と決めて寐ねたる夜寒哉	夜寒	時候
7165	明治42年	秋の部	粟飯を山と盛らるゝ夜寒かな	夜寒	時候
7166	明治42年	秋の部	祭衣裳箆筒に納む夜寒哉	夜寒	時候
7167	明治42年	秋の部	頭々顛々耳聳つる秋の風	秋の風	天文
7259	明治43年	秋の部	一穂の水を抽んず解夏旦	解夏	人事
7260	明治43年	秋の部	漫々地夜雨に漲る解夏の河	解夏	人事
7262	明治43年	秋の部	裏のあたり鶏頭見れば芋見れば	雑	雑
7264	明治43年	秋の部	新渋の句集の點者うべなひぬ	新渋	人事
7265	明治43年	秋の部	鶏頭を大きく作るこのあるじ	鶏頭	植物
7266	明治43年	秋の部	手を分つ辞艶なり露寒に	露寒	天文
7267	明治43年	秋の部	館下に尚住む十戸露しぐれ	露しぐれ	天文
7268	明治43年	秋の部	獲物活きて築人かへる露空に	露	天文
7269	明治43年	秋の部	朝露や石を神にす素蟬蝸	露	天文
7270	明治43年	秋の部	山を離れて山の威容や露をふむ	露	天文
7271	明治43年	秋の部	古戦場の講話一樹の露時雨	露しぐれ	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7272	明治43年	秋の部	然諾は露に馬蹄を軽くせり	露	天文
7274	明治43年	秋の部	柿貰ふ帰路を約せり朝晴に	柿	植物
7275	明治43年	秋の部	色白に汗して里婦や晴るゝ秋	秋晴	天文
7276	明治43年	秋の部	館といふ名に知るや鳥渡る音	渡鳥	動物
7277	明治43年	秋の部	治水策いかにあるべき雁の聲	雁	動物
7278	明治43年	秋の部	知る人に逢はずなりゆく野菊哉	野菊	植物
7279	明治43年	秋の部	船路取りし人を懐ふや花野晴	花野	地理
7280	明治43年	秋の部	語音鈍き老幼に柿饒かなり	柿	植物
7281	明治43年	秋の部	死ぬべかりしを又日の晴や粟黄む	粟	植物
7283	明治43年	秋の部	人に逢へば稔らぬ話野菊見て	野菊	植物
7284	明治43年	秋の部	近道を教へて訥や野菊あり	野菊	植物
7285	明治43年	秋の部	耳にせし巨木なし野菊咲つゞく	野菊	植物
7286	明治43年	秋の部	高山を右に行く / \ 野菊晴	野菊	植物
7287	明治43年	秋の部	湧く水を徒に見てすぐ野菊哉	野菊	植物
7353	明治44年	秋の部	物そのところを得たり萩桔梗	雑	雑
7355	明治44年	秋の部	真人の柵の獨木に虫静まりぬ	蟲	動物
7356	明治44年	秋の部	刀は傳家の話柄に更けつ虫の聲	蟲	動物
7357	明治44年	秋の部	虫鳴くや硯洗ひて幾夜なる	蟲	動物
7358	明治44年	秋の部	寺にあれば文字も異様に虫の聲	蟲	動物
7359	明治44年	秋の部	樹々古きに住まへバ虫の遠音なる	蟲	動物
7361	明治44年	秋の部	秋晴やさる扇屋を陋巷に	秋晴	天文
7362	明治44年	秋の部	君を訪へばげに琅玕居秋晴に	秋晴	天文
7363	明治44年	秋の部	削り荒らの柱歴々と晴るゝ秋	秋晴	天文
7364	明治44年	秋の部	庭石の奇特秋晴の水を吸ふ	秋晴	天文
7365	明治44年	秋の部	刀を見て意を得し一事秋晴に	秋晴	天文
7367	明治44年	秋の部	音訓の双耳穿つや秋の風	秋の風	天文
7369	明治44年	秋の部	真人山の霧を吞吐す誰々ぞ	霧	天文
7371	明治44年	秋の部	邊愁を写す字屑や草苺	草苺	植物
7373	明治44年	秋の部	縁起めく俚謠を耳に草紅葉	草錦	植物
7375	明治44年	秋の部	地図による水の源月に語りけり	月	天文
7376	明治44年	秋の部	月に知る釣針に秘訣あることを	月	天文
7377	明治44年	秋の部	鉄をきたえて獲る所あり月を見る	月	天文
7379	明治44年	秋の部	月に歩して菊の柳に意を致す	月	天文
7380	明治44年	秋の部	紫菀高し千たび鍛えし鉄匂ふ	紫菀	植物
7382	明治44年	秋の部	菊の花に生残る小蜂吾に飛ぶ	菊	植物
7383	明治44年	秋の部	菊に貧し雨姿風態の夙に起き	菊	植物
7384	明治44年	秋の部	菊の家柳の家の子等賢愚なし	菊	植物
7385	明治44年	秋の部	菊に開く柴門芭蕉に暗所あり	菊	植物
7386	明治44年	秋の部	旧友の衣裳美なり菊明らかに	菊	植物
7481	明治45年	秋の部	山の月野の月賤が袖の露	露	天文
7483	明治45年	秋の部	愁ふれバー夜の老や案山子見る	案山子	人事
7485	明治45年	秋の部	鯨つりに意動けど雑書讀みあかぬ	鯨釣	人事
7486	明治45年	秋の部	鯨焼くは故人の子也草の宿	鯨	動物
7487	明治45年	秋の部	白雲一片鯨釣を見ぬ里もなし	鯨釣	人事
7488	明治45年	秋の部	鯨つりに説くに鱸の巨口哉	鯨釣	人事
7489	明治45年	秋の部	鯨つりの竿かあらぬか蘆の花	鯨釣	人事
7490	明治45年	秋の部	鯨焼いて残る燕の飛ぶと見し	鯨	動物
7491	明治45年	秋の部	野分江を過ぎて幾日か鯨肥えし	鯨	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7493	明治45年	秋の部	既にして例の松野路の秋晴るゝ	秋晴	天文
7494	明治45年	秋の部	弓の事は知らず秋晴の矢遠き	秋晴	天文
7495	明治45年	秋の部	明日の事君しか云へど晴るゝ秋	秋晴	天文
7496	明治45年	秋の部	漁者に就いて聞けるふし / \ 秋晴るゝ	秋晴	天文
7497	明治45年	秋の部	秋霞は晴の兆ぞ例の杉	秋霞	天文
7498	明治45年	秋の部	画題巨人の跡とあり晴るゝ秋の會	秋晴	天文
7500	明治45年	秋の部	みそなはせ我渋柿の生るは / \	柿	植物
7502	明治45年	秋の部	故人誰々因に柿の句をつくる	柿	植物
7503	明治45年	秋の部	柿青き久し釣來ては鯊をやく	柿	植物
7504	明治45年	秋の部	飽喫し去てその後柿に便りなし	柿	植物
7505	明治45年	秋の部	北国の柿渋く議論上下せり	柿	植物
7506	明治45年	秋の部	之子生れてまづ逢へり柿の秋晴に	柿	植物
7508	明治45年	秋の部	雁を射る眉目を誰にたくらべむ	雁	動物
7510	明治45年	秋の部	柿の句を作り了すこの風雨あり	柿	植物
7511	明治45年	秋の部	雷雨秋也乾坤を朗かにせり	秋	時候
7512	明治45年	秋の部	灯秋也尚断簡の文字を解せず	秋	時候
7514	明治45年	秋の部	一隻眼睛秋海棠も咲く	秋海棠	植物
7515	明治45年	秋の部	野菊にもとり / \ 名あり何とやら	野菊	植物
7516	明治45年	秋の部	着せ綿をふくと云ふ菊の荅あり	菊	植物
7518	明治45年	秋の部	達磨忌の頭の中や江渺々	達磨忌	人事
7520	明治45年	秋の部	秋晴れの山下るるも獨也	秋晴	天文
7522	明治45年	秋の部	湯治帰り景に溢美や新酒酌む	新酒	人事
7523	明治45年	秋の部	茱萸つみのなどて新酒の馬追はぬ	新酒	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5136	明治36年	冬の部	日山に入ること早し釣干菜	干菜	人事
5137	明治36年	冬の部	一爻變して北の窓を塞く	北窓塞	人事
5138	明治36年	冬の部	かへり見る峠の人や日短し	短日	時候
5139	明治36年	冬の部	水鳥や琵琶は寿永の物語	水鳥	動物
5140	明治36年	冬の部	鷹狩や涙を拂ふ蘇武が跡	鷹狩	人事
5141	明治36年	冬の部	寂葉柴漬に鳴く川千鳥	千鳥	動物
5142	明治36年	冬の部	執筆の昔語や桃青忌	芭蕉忌	人事
5143	明治36年	冬の部	冬の雨趣や竹二三竿	冬の雨	天文
5144	明治36年	冬の部	紙衣着て夢や小判を擲ちぬ	紙衣	人事
5145	明治36年	冬の部	年々の金屏の松や冬に入る	冬	時候
5146	明治36年	冬の部	小春晴枯柴採りに裏の山	小春	時候
5147	明治36年	冬の部	小春日の空ものすごき青み哉	小春	時候
5148	明治36年	冬の部	小春日のはや午すぎとなりけり	小春	時候
5149	明治36年	冬の部	小春日の落葉や宵の雨の痕	小春	時候
5150	明治36年	冬の部	草の骨に馬遊ばする小春かな	小春	時候
5151	明治36年	冬の部	冬木立黄鶴楼の跡もなし	冬木	植物
5152	明治36年	冬の部	冬木立遊山ともなく法師原	冬木	植物
5153	明治36年	冬の部	冬木立把栗寒花の詩を獲たり	冬木	植物
5154	明治36年	冬の部	力石横はりけり冬木立	冬木	植物
5155	明治36年	冬の部	鎌倉の大きな寺や冬木立	冬木	植物
5156	明治36年	冬の部	餅搗て居れば其角が酔て来る	餅搗	人事
5157	明治36年	冬の部	餅搗いて主ぶりけりお足輕	餅搗	人事
5158	明治36年	冬の部	餅筵子等の春衣も出来てあり	餅筵	人事
5159	明治36年	冬の部	餅搗を終日寺に遊びけり	餅搗	人事
5160	明治36年	冬の部	餅搗の音も聞ゆる岡見哉	餅搗	人事
5161	明治36年	冬の部	寒声に窮陰の氣を発しけり	寒声	人事
5162	明治36年	冬の部	蠟燭のあたりを拂ふ追儼かな	追儼	人事
5163	明治36年	冬の部	書出しや竜畫きある家あるじ	掛乞	人事
5164	明治36年	冬の部	凧の温泉の客稀に來りけり	凧	天文
5165	明治36年	冬の部	孝行な嫁を貰へりお取越	御取越	人事
5166	明治36年	冬の部	達磨忌も何も知らずと答へけり	達磨忌	人事
5167	明治36年	冬の部	みつじ田のくぼみにたまる霰哉	霰	天文
5168	明治36年	冬の部	薬喰漢の武帝を嘲りぬ	薬喰	人事
5169	明治36年	冬の部	焼芋のよろしき芋をたうべけり	焼芋	人事
5170	明治36年	冬の部	クリスマス小袋の銀貨鳴らしけり	クリスマス	人事
5171	明治36年	冬の部	水涸に吹散る雪もなかりけり	水涸	天文
5172	明治36年	冬の部	炭俵三冬の菜屑大根屑	炭俵	人事
5173	明治36年	冬の部	衣配母います時の如くせり	衣配	人事
5174	明治36年	冬の部	娘して送る年貢の炭五俵	炭	人事
5175	明治36年	冬の部	神帰り赦免の沙汰もなかりけり	神帰り	人事
5177	明治36年	冬の部	あら笑止俵に痛き足の骨	雑	雑
5179	明治36年	冬の部	芭蕉七尺影はふまじと思ひけり	芭蕉忌	人事
5181	明治36年	冬の部	浅ましき榎火の松のいぶりかな	榎	人事
5183	明治36年	冬の部	寒の雨巖に声もなかりけり	寒の雨	天文
5185	明治36年	冬の部	凧に吹散る松の鱗かな	凧	天文
5187	明治36年	冬の部	巖が根のゆるがじとする海鼠かな	海鼠	動物
5189	明治36年	冬の部	玄黄の其血吹雪や巖に劍	吹雪	天文
5190	明治36年	冬の部	榎の火やあれこそ厨川二郎	榎	人事

冬の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5191	明治36年	冬の部	事納師は木食のすこやかに	事納	人事
5192	明治36年	冬の部	方丈に俗の客あり冬椿	冬椿	植物
5193	明治36年	冬の部	雪沓に剛の座の人まかでけり	雪沓	人事
5194	明治36年	冬の部	書出も貧居の吟の一ツかな	掛乞	人事
5195	明治36年	冬の部	日光や冬田の中の水たまり	冬田	天文
5196	明治36年	冬の部	戯の一詩を獲たり厄落	厄落	人事
5197	明治36年	冬の部	寒稽古刃にかゝる霜もなし	寒稽古	人事
5198	明治36年	冬の部	三升の麦種悲し小作人	麦蒔	人事
5199	明治36年	冬の部	麦蒔のしるしの料理赤蕪	麦蒔	人事
5200	明治36年	冬の部	いくさあれば晴れて麦蒔く日も淋し	麦蒔	人事
5201	明治36年	冬の部	麦蒔の摩耶に入る日を惜みけり	麦蒔	人事
5202	明治36年	冬の部	麦蒔に亥の子の餅を振まへり	麦蒔	人事
5203	明治36年	冬の部	綿ほこり綿入つくる老が妻	綿入	人事
5204	明治36年	冬の部	綿入てぬくまれば事もなかりけり	綿入	人事
5205	明治36年	冬の部	綿入や古びにたれど垢つかず	綿入	人事
5206	明治36年	冬の部	綿入や貧しかれども人の親	綿入	人事
5207	明治36年	冬の部	故人句あり綿入れて即ち贈りけり	綿入	人事
5208	明治36年	冬の部	氷裂けて水鴨緑や陽の光	氷	天文
5209	明治36年	冬の部	岩のくぼ目洗ひ水も氷りけり	凍る	天文
5210	明治36年	冬の部	澗水の涸尽したる氷かな	氷	天文
5211	明治36年	冬の部	堅氷に斧打って水探りけり	氷	天文
5213	明治36年	冬の部	巖氷を砕くが如き響かな	氷	天文
5214	明治36年	冬の部	雪つむや十抱への木の下り枝	雪	天文
5215	明治36年	冬の部	年の市音楽隊の通哉	年の市	人事
5216	明治36年	冬の部	神泉苑氷の上の遊かな	氷	天文
5217	明治36年	冬の部	葱洗ふ門川の氷固からず	氷	天文
5218	明治36年	冬の部	除夜の灯や古人のふみに零つ涕	除夜	時候
5219	明治36年	冬の部	眠る山菜作る畑も見たりけり	山眠る	天文
5523	明治37年	冬の部	山寺に冬至の蹊つくりけり	冬至	時候
5524	明治37年	冬の部	佛恩や菜屑を捨てず御取越	御取越	人事
5525	明治37年	冬の部	冬の雨堂塔とぞす金閣寺	冬の雨	天文
5526	明治37年	冬の部	神鳴て鯿さむき山家哉	鯿	動物
5527	明治37年	冬の部	帰去來の句を書捨てつ古曆	古曆	人事
5528	明治37年	冬の部	登る日に眼を射られけり暖め鳥	暖め鳥	動物
5529	明治37年	冬の部	こもり居や地窓を四壁の冬座敷	冬座敷	人事
5530	明治37年	冬の部	河豚喰ふて一陽発す臟腑かな	河豚	動物
5531	明治37年	冬の部	さゝ鳴や鴻臚の人の愁思吟	笛鳴	動物
5532	明治37年	冬の部	さゝ鳴や故園の情話日を竟る	笛鳴	動物
5533	明治37年	冬の部	さゝ鳴や俎豆陳ぬるあそび事	笛鳴	動物
5534	明治37年	冬の部	さゝ鳴や自ら笑ふ閑妄想	笛鳴	動物
5535	明治37年	冬の部	さゝ鳴や枯木の中を女の童	笛鳴	動物
5536	明治37年	冬の部	境内の雪を汚して札納	札納	人事
5537	明治37年	冬の部	綿帽子糟糠の妻と呼せり	綿帽子	人事
5538	明治37年	冬の部	此頃の日かげ慕し枯葎	枯葎	植物
5539	明治37年	冬の部	鮫鱈を市にさげすみ通りけり	鮫鱈	動物
5540	明治37年	冬の部	鳥叫や天紅みの雲起る	冬茜	天文
5541	明治37年	冬の部	冬夜吟千里の友に送りけり	冬夜	時候
5542	明治37年	冬の部	茶の友の参り合せし師走かな	師走	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5543	明治37年	冬の部	水に住む鱗むせぶ吹雪哉	吹雪	天文
5544	明治37年	冬の部	厄落し濟みたる市の月夜か南	厄落	人事
5545	明治37年	冬の部	犠牲は毛の荒ものの寒さ哉	寒さ	時候
5546	明治37年	冬の部	良き馬に鍼一ツすや寒の入	寒の入	時候
5547	明治37年	冬の部	温石のぬくみ覚えつ寒の入	寒の入	時候
5548	明治37年	冬の部	虬斬て淵紅るや寒の水	寒の水	天文
5549	明治37年	冬の部	勤行に焰吐くらん寒の中	寒	時候
5550	明治37年	冬の部	寒一日先師の靈を祀りけり	寒	時候
5551	明治37年	冬の部	菊枯れて鳥の蹊となりにけり	枯菊	植物
5552	明治37年	冬の部	枯菊を焚いて餉をまゐらせぬ	枯菊	植物
5553	明治37年	冬の部	主の翁炉にほとりして菊をたく	圍爐裏	人事
5554	明治37年	冬の部	句の意落葉に菊ぞ懐しき	落葉	植物
5555	明治37年	冬の部	衰や詩巻に垂るゝ髯寒し	寒さ	時候
5556	明治37年	冬の部	水烟や山川の石にましら啼く	冬の靄	天文
5557	明治37年	冬の部	緋毛布にがらす戸をもる暑かな	毛布	人事
5558	明治37年	冬の部	袴着の客大学を講じけり	袴着	人事
5559	明治37年	冬の部	貝焼の河豚を照す孤燈かな	河豚	動物
5560	明治37年	冬の部	冬の日を愛する心起りけり	冬日	天文
5561	明治37年	冬の部	君が爲河豚な喰ひそと戒しめつ	河豚	動物
5562	明治37年	冬の部	射損じの枯木に折れし獵矢哉	狩	人事
5563	明治37年	冬の部	髪置や男女の席の正うす	髪置	人事
5564	明治37年	冬の部	臘八の暁天にうつ納豆か南	臘八	人事
5565	明治37年	冬の部	皮ごろも梅清香を発しけり	裘	人事
5566	明治37年	冬の部	埋火の消えゆく人の別かな	埋火	人事
5567	明治37年	冬の部	姑蘇遠し夜行く人に鐘呬ゆる	呬る	時候
5568	明治37年	冬の部	寒念佛功德の水も潤にけり	寒念佛	人事
5569	明治37年	冬の部	俳諧は聖道門のそばゆか南	蕎麥湯	人事
5570	明治37年	冬の部	貴妃に酔うて帝は知らず鬼やらひ	追儼	人事
5571	明治37年	冬の部	煮凍の猶腥き悪みけり	煮凝	人事
5572	明治37年	冬の部	大川の氷を渉る首途かな	氷	天文
5573	明治37年	冬の部	禅寺に冬の水わく暖き	冬の水	天文
5574	明治37年	冬の部	山林に冬の水凝る烟かな	冬の水	天文
5575	明治37年	冬の部	此山に黄金花さき冬の水	冬の水	天文
5576	明治37年	冬の部	さゝ鳴や廟をめぐる冬の水	冬の水	天文
5577	明治37年	冬の部	狼のねぶりあまりや冬の水	冬の水	天文
5578	明治37年	冬の部	焼跡をすぎて家あり冬椿	冬椿	植物
5579	明治37年	冬の部	すさましき師走の火事を見たりけり	師走	時候
5580	明治37年	冬の部	野の中の一軒焼くる吹雪か南	吹雪	天文
5581	明治37年	冬の部	火事埃施行の粥の白きか南	粥施行	人事
5582	明治37年	冬の部	枯芭蕉火事をのがれし庭の中	枯芭蕉	植物
5583	明治37年	冬の部	かき炙るわざ巧みなり浪花人	蛎	動物
5584	明治37年	冬の部	かき喰うて俳優を見る浪花哉	蛎	動物
5585	明治37年	冬の部	かき舟や舷にふる雪二寸	蛎	動物
5586	明治37年	冬の部	日蓮はかきくふ頃を去にけり	蛎	動物
5587	明治37年	冬の部	かき殻にまじる千鳥の糞白し	蛎	動物
5588	明治37年	冬の部	冬さうび花開きたる淋しさよ	冬薔薇	植物
5589	明治37年	冬の部	紅皿に落ちて死にけり冬の蠅	冬の蠅	動物
5590	明治37年	冬の部	水鳥の何に驚く羽音哉	水鳥	動物

冬の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5591	明治37年	冬の部	乾鮭に一派の宗を開きけり	乾鮭	人事
5592	明治37年	冬の部	湯婆して紅顔の人を夢みけり	湯たんぼ	人事
5593	明治37年	冬の部	依稀として孤松を存ず菊の花	菊	植物
5908	明治38年	冬の部	狼に墓の櫓の乱されし	狼	動物
5909	明治38年	冬の部	狼の瘦せて劔に似たる哉	狼	動物
5910	明治38年	冬の部	巖穴に狼人を護りけり	狼	動物
5911	明治38年	冬の部	狼の氣を吐く見たり寒の雨	狼	動物
5912	明治38年	冬の部	狼に我が糧寒き山路哉	狼	動物
5913	明治38年	冬の部	鯛味噌の君や浪花に成長す	鯛味噌	人事
5914	明治38年	冬の部	落葉焚く煙かゝりぬ熊祭	熊祭	人事
5915	明治38年	冬の部	むかし人に別れし岡や桃落葉	落葉	植物
5916	明治38年	冬の部	喬木の沼を繞れる落葉哉	落葉	植物
5917	明治38年	冬の部	人知れず香焚きこめてざこね哉	雑魚寝	人事
5918	明治38年	冬の部	からうたを謠ふくすしや夷講	夷講	人事
5919	明治38年	冬の部	此も一時頭巾に花をかざしけり	頭巾	人事
5920	明治38年	冬の部	鑄物師の祭の頃や花八ツ手	八ツ手の花	植物
5921	明治38年	冬の部	ひたぶるに古を好み紙衣哉	紙衣	人事
5922	明治38年	冬の部	佩玉の鳴る凧や神の旅	神の旅	人事
5923	明治38年	冬の部	細矛千足のさまや神の旅	神の旅	人事
5924	明治38年	冬の部	水仙と孰れか寒き詩の心	水仙	植物
5925	明治38年	冬の部	終焉は巨燧離るゝが如きかな	炬燧	人事
5926	明治38年	冬の部	巨燧して菴の形勝依然たり	炬燧	人事
5927	明治38年	冬の部	秋色が家の巨燧に辜負しけり	炬燧	人事
5928	明治38年	冬の部	置巨燧江戸派の分野酒の跡	炬燧	人事
5929	明治38年	冬の部	芭蕉庵古びたれども巨燧哉	炬燧	人事
5930	明治38年	冬の部	冬前海蕭條として麦まきぬ	冬前海	天文
5931	明治38年	冬の部	冬前海眺めつきて寺に遊びけり	冬前海	天文
5932	明治38年	冬の部	海土が戸に路からびけり冬前海	冬前海	天文
5933	明治38年	冬の部	古松の韻キや冬海に落つ	冬前海	天文
5934	明治38年	冬の部	冬海辺暖かなれど枯芒	枯芒	植物
5935	明治38年	冬の部	年貢人難波の都しぬびけり	年貢	人事
5937	明治38年	冬の部	裘蒙茸として人と異り	裘	人事
6312	明治39年	冬の部	口切の文や橙黄ばむなど	口切	人事
6313	明治39年	冬の部	冬川や北に渡れば草もなし	冬川	天文
6314	明治39年	冬の部	小石白き坡に出でぬ落葉搔	落葉	植物
6315	明治39年	冬の部	山の物炭百俵や夷講	夷講	人事
6316	明治39年	冬の部	北の窓塞ぎぬ獣通ふらし	北窓塞	人事
6317	明治39年	冬の部	枯芒北見ゆる窓未だあり	枯芒	植物
6318	明治39年	冬の部	川瀬や岸高うして家一つ	川瀬	天文
6319	明治39年	冬の部	北風を遮る山もなかりけり	北風	天文
6320	明治39年	冬の部	庭前に更に花なし枯芭蕉	枯芭蕉	植物
6321	明治39年	冬の部	鬼潜む昼や日あかき冬木立	冬木	植物
6322	明治39年	冬の部	菊枯れて獨往くべき逦かな	枯菊	植物
6323	明治39年	冬の部	うつくまる背に斜日や落葉搔	落葉	植物
6324	明治39年	冬の部	窪路の石に錦や散紅葉	散紅葉	植物
6325	明治39年	冬の部	搗残す一斗の粟や菊枯るゝ	枯菊	植物
6326	明治39年	冬の部	凧に昼行く鬼を見たりけり	凧	天文
6327	明治39年	冬の部	凧に粟搗きこぼす戸口哉	凧	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6328	明治39年	冬の部	枯菊に風あり朋を送り出づ	枯菊	植物
6329	明治39年	冬の部	枯菊を刈る違あり小百姓	枯菊	植物
6330	明治39年	冬の部	枯菊を惜まぬ心高き哉	枯菊	植物
6331	明治39年	冬の部	日々に枯行く菊を守りけり	枯菊	植物
6332	明治39年	冬の部	枯菊を見せまゐらする佗しさよ	枯菊	植物
6333	明治39年	冬の部	菊枯れて鴻稀に来る日哉	枯菊	植物
6334	明治39年	冬の部	陸の神水の神旅衣かな	神の旅	人事
6335	明治39年	冬の部	人踏まぬ銀杏落葉や神の旅	神の旅	人事
6336	明治39年	冬の部	枯菊を後に神を送りけり	枯菊	植物
6337	明治39年	冬の部	縹渺の空晨なり神の旅	神の旅	人事
6338	明治39年	冬の部	神の旅磊塊の石を想ひけり	神の旅	人事
6339	明治39年	冬の部	枯菊に遊ぶ誰が子ぞ綿帽子	綿帽子	人事
6340	明治39年	冬の部	綿帽子人は長安古意の中	綿帽子	人事
6341	明治39年	冬の部	隠棲むでやまと言葉や綿帽子	綿帽子	人事
6342	明治39年	冬の部	菜園に吾妻見たりわた帽子	綿帽子	人事
6343	明治39年	冬の部	綿帽子なくて遊女が雪見かな	雪見	人事
6344	明治39年	冬の部	年忘妻やきのふの想人	年忘	人事
6345	明治39年	冬の部	年忘一人は聞きつ川千鳥	年忘	人事
6346	明治39年	冬の部	とかくして師を酔はしめぬ年忘	年忘	人事
6347	明治39年	冬の部	川涸の河原に晝の焚火哉	川涸	天文
6348	明治39年	冬の部	只たのめ莖漬の石もお取越	御取越	人事
6349	明治39年	冬の部	里人の何かに集ふ神無月	神無月	時候
6350	明治39年	冬の部	賣らで去る霹靂魚賣や日みちかき	短日	時候
6351	明治39年	冬の部	水涸れて狩の矢拾ふ川原かな	川涸	天文
6352	明治39年	冬の部	櫓焚いて殺生の身を悔にけり	櫓	人事
6353	明治39年	冬の部	笹鳴や藪の下草尚青き	笹鳴	動物
6354	明治39年	冬の部	貯の油の壺や冬構	冬構	人事
6355	明治39年	冬の部	短日の行へも知らず鳥一つ	短日	時候
6356	明治39年	冬の部	一人ある針子も休む寒さ哉	寒さ	時候
6357	明治39年	冬の部	硯見れば水乾きたる寒さ哉	寒さ	時候
6358	明治39年	冬の部	錆びたれど鎗一筋の寒さ哉	寒さ	時候
6359	明治39年	冬の部	黄金壊く旅恐ろしき時雨哉	時雨	天文
6360	明治39年	冬の部	人なきにしぐるゝ山や大悲閣	時雨	天文
6361	明治39年	冬の部	寒巖の勢を作す達磨の日	達磨忌	人事
6362	明治39年	冬の部	茶の花に嘯くとしもなかりけり	茶の花	植物
6363	明治39年	冬の部	鴨なくやもののふ松尾忠左エ門	鴨	動物
6364	明治39年	冬の部	口切や古びたれども坐右の銘	口切	人事
6365	明治39年	冬の部	橘緑に題す冬至の句作かな	冬至	時候
6366	明治39年	冬の部	年忘人の許しゝ両三句	年忘	人事
6367	明治39年	冬の部	みかん呉れて子を寐させけり年忘	年忘	人事
6368	明治39年	冬の部	年忘俳諧三十六頭顱	年忘	人事
6369	明治39年	冬の部	各の來る遅速や年忘	年忘	人事
6370	明治39年	冬の部	三人に硯一ツや年忘	年忘	人事
6371	明治39年	冬の部	菜畑に妻出行くよ年忘	年忘	人事
6372	明治39年	冬の部	曾遊の山を描くや年忘	年忘	人事
6373	明治39年	冬の部	年忘すと押やりつ灯下の書	年忘	人事
6374	明治39年	冬の部	あるものに風呂吹切るや年忘	年忘	人事
6375	明治39年	冬の部	賣尽す茶器に悔あり年忘	年忘	人事

冬の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6376	明治39年	冬の部	年忘越の友より送りもの	年忘	人事
6377	明治39年	冬の部	誰が得たる古短冊や年忘	年忘	人事
6378	明治39年	冬の部	二三子が題の所望や年忘	年忘	人事
6379	明治39年	冬の部	北の窓ふさく因に干菜哉	北窓塞	人事
6380	明治39年	冬の部	稀に鳴る神や北窓ふさぎけり	北窓塞	人事
6381	明治39年	冬の部	佗を知る畑や北の窓ふさぐ	北窓塞	人事
6382	明治39年	冬の部	川酒を見下ろす岡や風の吹く	川酒	天文
6383	明治39年	冬の部	川酒に日落る旅を急ぎけり	川酒	天文
6384	明治39年	冬の部	隙間もる日の短長や冬坐敷	冬座敷	人事
6385	明治39年	冬の部	絵草紙のをかしき添へつ衣配	衣配	人事
6386	明治39年	冬の部	皮ごろも幾たび琵琶に涙哉	裘	人事
6387	明治39年	冬の部	松明に沼の廣さや鼻啼く	鼻	動物
6388	明治39年	冬の部	人に示す遊戯文字や厄落し	厄落	人事
6389	明治39年	冬の部	さゝ鳴を驚かしたる斧斤かな	笹鳴	動物
6390	明治39年	冬の部	夜竊かに生海鼠の桶を覗きけり	海鼠	動物
6391	明治39年	冬の部	めら / \ と燃ゆる火急や河豚汁	河豚汁	人事
6392	明治39年	冬の部	雲に巻舒あり生海鼠を相るといつれ	海鼠	動物
6393	明治39年	冬の部	雪車が来て散らばる町の子とも哉	雪舟	人事
6394	明治39年	冬の部	大寒の夜の響や水時計	大寒	時候
6395	明治39年	冬の部	杉風のあき人ぶりや年の市	年の市	人事
6396	明治39年	冬の部	兒見せの昔を夢の炬燵かな	炬燵	人事
6670	明治40年	冬の部	遊獵の幸なきことを吟じけり	狩	人事
6671	明治40年	冬の部	十年の山居遊獵の友が来る	狩	人事
6672	明治40年	冬の部	人の着る毛布もほしや年貢時	年貢	人事
6673	明治40年	冬の部	我旅の遠々しさよ古こよみ	古曆	人事
6674	明治40年	冬の部	古曆家に債もなかりけり	古曆	人事
6675	明治40年	冬の部	冬の日や樹を伐仆す五六本	冬の日	時候
6676	明治40年	冬の部	湯豆腐や少年輩は狩に行く	湯豆腐	人事
6677	明治40年	冬の部	巻中の艶な一句や年忘	年忘	人事
6678	明治40年	冬の部	主癖あり客に媚なし年忘	年忘	人事
6679	明治40年	冬の部	夜話の人こそ知らね垂氷かな	垂氷	天文
6680	明治40年	冬の部	笹鳴や貢の氷魚の皆活くる	笹鳴	動物
6681	明治40年	冬の部	茶島に普請の屑も師走なる	師走	時候
6682	明治40年	冬の部	名に高き早川にして氷かな	氷	天文
6683	明治40年	冬の部	氷堅し人と別れて二三日	氷	天文
6684	明治40年	冬の部	氷る沼岸の高木の風に反る	凍る	天文
6685	明治40年	冬の部	誰がわざの神の扉に雪つぶて	雪遊び	人事
6686	明治40年	冬の部	乳母が居る家の灯を見て雪滑り	雪遊び	人事
6687	明治40年	冬の部	水涕や只水仙の爲に坐す	水仙	植物
6688	明治40年	冬の部	我馬の驚きやすき枯野哉	枯野	天文
6689	明治40年	冬の部	落窪に水田が見ゆる枯野哉	枯野	天文
6690	明治40年	冬の部	前書も三度更ゆ冬籠の句	冬籠	人事
6691	明治40年	冬の部	奥の田は水も落さず神の留守	神の旅	人事
6692	明治40年	冬の部	金錢を見るに満地の木葉哉	木葉	植物
6693	明治40年	冬の部	雪垣にちよとかくれけり歌舞の人	雪垣	人事
6694	明治40年	冬の部	十二橋家悉く雪垣す	雪垣	人事
6695	明治40年	冬の部	雪垣をして南山を見ずなりぬ	雪垣	人事
6696	明治40年	冬の部	雪垣に取残されし八ツ手哉	雪垣	人事

冬の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6697	明治40年	冬の部	雪垣や猪かつぎ込む雪明り	雪垣	人事
6698	明治40年	冬の部	聖經に倦で湯豆腐欲しけり	湯豆腐	人事
6699	明治40年	冬の部	湯豆腐の味知れと霰かな	湯豆腐	人事
6700	明治40年	冬の部	湯豆腐の一味自力の法語哉	湯豆腐	人事
6701	明治40年	冬の部	湯豆腐や日を短かざる人の来て	湯豆腐	人事
6702	明治40年	冬の部	誤って師の坊に中つ雪つぶて	雪遊び	人事
6703	明治40年	冬の部	山に擬して反古つみけり冬籠	冬籠	人事
6704	明治40年	冬の部	時ならず馬で山越す霰かな	霰	天文
6705	明治40年	冬の部	碧梧桐が佐渡の咄や年忘	年忘	人事
6706	明治40年	冬の部	物あれば垂氷す水の在所哉	垂氷	天文
6707	明治40年	冬の部	炭俵賣る午過や垂氷落つ	垂氷	天文
6708	明治40年	冬の部	浪に日の網に幸なし冬の海	冬の海	天文
6709	明治40年	冬の部	眠れりといふ山も見ゆ冬の海	冬の海	天文
6710	明治40年	冬の部	親汐のあたりの雲か冬の海	冬の海	天文
6711	明治40年	冬の部	麦蒔や人の後の冬の海	冬の海	天文
6712	明治40年	冬の部	磯の木に雷落ちて冬の海	冬の海	天文
6713	明治40年	冬の部	図書室にいつもの人と煖爐哉	暖爐	人事
6714	明治40年	冬の部	煖爐焚や雪の兎を語草	暖爐	人事
6715	明治40年	冬の部	卓上のみかんに遠き煖爐哉	暖爐	人事
6716	明治40年	冬の部	去る人を煖爐離れて送りけり	暖爐	人事
6717	明治40年	冬の部	二人寄れば我顔ほてる煖爐哉	暖爐	人事
6718	明治40年	冬の部	山越の苛き年貢や枯芒	枯芒	植物
6723	明治40年	冬の部	親汐に逆ふ船や冬の月	冬の月	天文
6725	明治40年	冬の部	紙鳶の絵の腹案もあり師走哉	師走	時候
6726	明治40年	冬の部	水仙に似げなき手蹟拙さよ	水仙	植物
6727	明治40年	冬の部	水仙の南帖梅の北碑かな	雑	雑
6728	明治40年	冬の部	古駅此一木のちりもみぢ	散紅葉	植物
6729	明治40年	冬の部	豆腐買ふ頃一しきり散紅葉	散紅葉	植物
6730	明治40年	冬の部	斧入れて見る / \ 中や散紅葉	散紅葉	植物
6731	明治40年	冬の部	峯穴に蓄の栗ちりもみぢ	散紅葉	植物
6732	明治40年	冬の部	ちり紅葉買山の銭足らぬ也	散紅葉	植物
6733	明治40年	冬の部	大川のへりゆく水や神の留守	神の旅	人事
6734	明治40年	冬の部	鶴々の水鳥一つ神の留守	神の旅	人事
6735	明治40年	冬の部	小舟囲ふ川辺の里や神の留守	神の旅	人事
6736	明治40年	冬の部	残る菊の黄がちとなりぬ神の留守	神の旅	人事
6737	明治40年	冬の部	いさかひの地も末枯や神の留守	神の旅	人事
6985	明治41年	冬の部	濱便り日々届く小春かな	小春	時候
6986	明治41年	冬の部	鉄瓶に汲む茶の水や霜朝夕	霜	天文
6987	明治41年	冬の部	産屋明きの日の朝晴や笹鳴す	笹鳴	動物
6988	明治41年	冬の部	一語だも著せず頭巾清らなり	頭巾	人事
6989	明治41年	冬の部	さつ箭とぶと見るや頭巾の漢子出づ	頭巾	人事
6990	明治41年	冬の部	並木切るに公事定まりぬ冬構	冬構	人事
6991	明治41年	冬の部	酔徳利も空に賣れたり夕氷	氷	天文
6992	明治41年	冬の部	志士年忌堅氷の詩を作りけり	氷	天文
6993	明治41年	冬の部	寒月や皆そら事の小町塚	寒月	天文
6994	明治41年	冬の部	象潟に美妓のいつ来て冬の月	冬の月	天文
6995	明治41年	冬の部	截鉄の斬釘の筆氷りけり	凍る	天文
6996	明治41年	冬の部	厚氷朝課の素讀果しけり	氷	天文

冬の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6998	明治41年	冬の部	この鯨にこの鎌に初しぐれかな	時雨	天文
6999	明治41年	冬の部	柴門をくゞる乾鮭の孤峭かな	乾鮭	人事
7000	明治41年	冬の部	削去りて二三句存す除夜の鐘	除夜の鐘	人事
7001	明治41年	冬の部	等類の句に恥知るや年忘	年忘	人事
7002	明治41年	冬の部	足袋はくや年々つのる登山癖	足袋	人事
7003	明治41年	冬の部	冬藏の林檎紅み煥発す	冬	時候
7004	明治41年	冬の部	民間に氏かゞやかす神樂かな	神樂	人事
7005	明治41年	冬の部	窮陰の地に火のほ立つ神樂かな	神樂	人事
7006	明治41年	冬の部	一山の一皴長し冬の川	冬川	天文
7007	明治41年	冬の部	冬木描く筆意冬川流れけり	冬川	天文
7008	明治41年	冬の部	冬川や北に片よる鳳凰堂	冬川	天文
7009	明治41年	冬の部	洲を行けば山の裏見ゆ冬の川	冬川	天文
7010	明治41年	冬の部	冬川や火見措子も岸並木	冬川	天文
7011	明治41年	冬の部	方正の囿ろり孤獨の二人かな	圍爐裏	人事
7012	明治41年	冬の部	みろり端や鞘なき山刀の底光り	圍爐裏	人事
7013	明治41年	冬の部	大櫓のみろりに兀と酒の爛	圍爐裏	人事
7014	明治41年	冬の部	雪沓に燃えつけば去るみろり哉	圍爐裏	人事
7015	明治41年	冬の部	根櫓葉櫓みろりにさがす雪の竿	圍爐裏	人事
7019	明治41年	冬の部	怙字恃字に灯前の眼を寒うしぬ	寒さ	時候
7021	明治41年	冬の部	此國の頭巾も脱がぬ頃なりし	頭巾	人事
7022	明治41年	冬の部	里の子と路に遊べり風の神	冬の風	天文
7023	明治41年	冬の部	風邪の神に後見らるゝ灯下哉	風邪	人事
7169	明治42年	冬の部	冬空や咎なくてやは墓木伐る	冬空	天文
7170	明治42年	冬の部	一字刪る誄辞の稿や冬空に	冬空	天文
7171	明治42年	冬の部	短日や学人菊を焚く邊	短日	時候
7172	明治42年	冬の部	活計に輕舸操縦日短き	短日	時候
7173	明治42年	冬の部	短日や書は浩漣にして售れず	短日	時候
7174	明治42年	冬の部	來年の暦話も日短に	短日	時候
7175	明治42年	冬の部	朱に墨に製函師に暑短しや	短日	時候
7176	明治42年	冬の部	話柄漁季に岐れ短き日脚哉	短日	時候
7177	明治42年	冬の部	待ちわぶる樺太便り日短き	短日	時候
7178	明治42年	冬の部	短日や文庫の森の夕鴉	短日	時候
7179	明治42年	冬の部	日短かの己れ急げば獵人も	短日	時候
7180	明治42年	冬の部	短日の虎を打ちしは武松也	短日	時候
7181	明治42年	冬の部	貧を侮る又の使や鴨の声	鴨	動物
7182	明治42年	冬の部	鴨啼くや家宝に函会と繁昌記	鴨	動物
7183	明治42年	冬の部	廩粟の耗りを憂や里冬木	冬木	植物
7184	明治42年	冬の部	石投げて冬木に中つる暑哉	冬木	植物
7185	明治42年	冬の部	卷末に至れば冬木鳴やみぬ	冬木	植物
7186	明治42年	冬の部	法に飢ゑ道に渴きぬ寺冬木	冬木	植物
7187	明治42年	冬の部	筆意反り刀法屈む冬木哉	冬木	植物
7188	明治42年	冬の部	水鳥や狂言綺語に夢疲る	水鳥	動物
7189	明治42年	冬の部	水鳥や素懷を遂げて君と在り	水鳥	動物
7190	明治42年	冬の部	水鳥や沙弥の昔を見知る松	水鳥	動物
7191	明治42年	冬の部	水鳥や遺墨見し眼に筆法も	水鳥	動物
7192	明治42年	冬の部	浮寝鳥旅泊の綺夢に砒す	水鳥	動物
7194	明治42年	冬の部	筆硯又笹鳴の句を思ふ	笹鳴	動物
7196	明治42年	冬の部	因に櫓の一句あり證シとす	櫓	人事

冬の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7289	明治43年	冬の部	新嘗の祭器見て久し冬籠	冬籠	人事
7290	明治43年	冬の部	課題再び香奩體や冬ごもり	冬籠	人事
7291	明治43年	冬の部	道しるべに誰が救はれむ冬ごもり	冬籠	人事
7292	明治43年	冬の部	瑣事の文に羽檄と題す冬籠	冬籠	人事
7293	明治43年	冬の部	妻賢に厨あかるし冬ごもり	冬籠	人事
7294	明治43年	冬の部	跡を絶ちし悪獣を繪に冬籠	冬籠	人事
7295	明治43年	冬の部	薪割てふと樹齡知る冬ごもり	冬籠	人事
7297	明治43年	冬の部	後援の事氣短に冬籠	冬籠	人事
7388	明治44年	冬の部	橙黄に吉事あり山眠る里	山眠る	天文
7389	明治44年	冬の部	里冬木他が舌鋒を挫くべし	冬木	植物
7390	明治44年	冬の部	筆陣の虚を狙ふ主冬日向	冬日	天文
7391	明治44年	冬の部	水鳥に夜学提灯はや過ぎし	水鳥	動物
7392	明治44年	冬の部	雪下ろし終へよ狸が煮えたるに	雪下し	人事
7393	明治44年	冬の部	山僧の跡雪沓の尻長に	雪沓	人事
7394	明治44年	冬の部	句意に人と相識るや水鳥も見て	水鳥	動物
7395	明治44年	冬の部	壽宴に皆詩あり遠近山眠る	山眠る	天文
7396	明治44年	冬の部	松雪折れ霽れての瀬鳴高々に	雪折れ	植物
7397	明治44年	冬の部	杉山を負ひ戸々富めり冬の水	冬の水	天文
7398	明治44年	冬の部	旅人はや大槻の陰に冬田哉	冬田	天文
7399	明治44年	冬の部	冬木仆す三五人の関疾き雲に	冬木	植物
7400	明治44年	冬の部	水郷の魚買ひに大寒日和あり	大寒	時候
7401	明治44年	冬の部	雪沓の産土神詣はれがまし	雪沓	人事
7403	明治44年	冬の部	菅薦の句もありけむを霜の声	霜	天文
7525	明治45年	冬の部	掃除検査も小家勝神の留守をすむ	神の旅	人事
7526	明治45年	冬の部	神を送る峯又峯の尽くるなき	神の旅	人事
7528	明治45年	冬の部	枯菊を見てありき思ふ遺句の事	枯菊	植物
7529	明治45年	冬の部	冬かまへ早し垣の内の落葉ふむ	冬構	人事
7530	明治45年	冬の部	村一番憎まれものゝ冬構	冬構	人事
7531	明治45年	冬の部	年忘一偈に襟を正うす	年忘	人事
7532	明治45年	冬の部	隠語解せぬ我醉早し年忘	年忘	人事
7533	明治45年	冬の部	大官と美人と寒霧を衝て雪車	雪舟	人事
7534	明治45年	冬の部	雪舟疾し北國穹廬夕づく日	雪舟	人事
7535	明治45年	冬の部	笹鳴や家祖祭の珍長き薯	笹鳴	動物
7536	明治45年	冬の部	屋高煤掃き終へし不時雷鳴に	煤拂	人事
7537	明治45年	冬の部	煤箒立つる庭青空も見し	煤拂	人事